

國民をして盡く建設の主義を理解せしめなくてはならない。斯く吾人は宣傳しなければならぬ故に今日より以後は、諸君に對し、宣傳活動に重きを置き、軍事活動には重きを置かざる様、希望せんとするものである。

## 主義宣傳は以黨治國の第一歩

——民國十二年十月、中國國民黨懇親大會に對する訓辭——

同志諸君、今日は我黨の懇親大會であり、引續き會合を開催する。諸君が今回廣東に來られ懇親大會を開かれたのは、一體何を爲さんとするが爲めであるか。諸君は、まさに何を爲すべきかを知らんとする前に、先づ我黨は如何なる性質のものかを知る必要がある。我黨は成立以來終始全く革命黨で、辛亥革命で滿清を顛覆し民國を創設して、其のまま今日に至つたが、徒らに民國の名のみ有つて、毫も民國の實はない。民國たるの幸福は、人民は寸毫も與り受ける所がない。今年は民國十二年で、此の十二年間に、人民は民國たるの幸福を受けぬばかりか、各省に發生した戰爭により到る處で兵亂を蒙り年々すべて苦痛を受けて居る。これは何故であらうか。それは革命が成功せぬからである。革命が成功せぬが故に、眞正の民國を建設する由もない。従つて

吾人は民國を建設せんが爲に、革命を招來せんとするものである。民國が美事に建設される事一日遅ければ、我黨は一日だけ多く奮闘しなければならぬ。諸君はすべて我黨の黨員であるからこの奮闘すべき責任を負擔せねばならぬ。

我黨の最も發達した地方は、海外の各港である。海外華僑の多數ある地方には、みな中國國民黨が存在する。華僑の思想は比較的早く開け、我黨の主義を理解する事が他に先んじたが故に、彼等は革命にも亦先んじて従事したのである。吾人は革命を起す毎に、すべて海外同志の助力を得た。併し我黨は辛亥革命に於て滿清を顛覆して、民國を創造しながら、何が故に尙十二年この方、一氣呵成に民國を建設し得なかつたのであらうか。つまり、それは國內大多數の人民がなほ依然として民國の道理を理解せず、我黨の主義を了解せぬ爲である。大多數の人民が我黨の主義を了解せざるが爲めに、我國は中國革命に於いて、従前のものの破壊には成功したが、現在の建設には成功する事が出来ないのである。吾人が、我黨の革命を、破壊より建設に至るまで徹底的に成功せしめんとするならば、更に國內國外の同志大多數が盡く此の責任を負つて一層努力奮闘しなければならぬ。

我黨の政府は目下廣東に建設されて居るが、この政府が管轄する土地に於いて、國內人民の我



黨に加入する者は、寥々として殆んどない。南京政府成立の當時を回想するに、我黨の黨務はこれにまた何と發達したとか。我黨の元氣は、何と鬱勃として居たとか、何故に我黨は南京に於ける際は、あれ程に興隆し、今日廣東に於いては前に如かないのであらうか。その原因は我黨の分子にあるのだ。今日は複雑に過ぎ、黨内の人物も甚しく不揃で、外部からは見て居られない程である。故に外部の人々はみな加入し我黨を助けて奮闘することを希望しない。若し多數の黨員がみな大官たらんと考へ志を得て大官となつて、すつかり満足しきれば、多數の黨員の心理は官吏たるの目的を果して、革命は終了したも同様に考へるだらう。若し志を得ず、大官となり得なかつたならば、我黨に反對し、去つて敵黨に賛成するであらう。かかる場合黨務に熱心に、眞に我黨の主義のために奮闘する者は、固より甚だ少數であつて、大多數の黨員はすべて我黨に加入することを官吏たるための捷徑と心得える。我黨に加入する目的がみな官吏たるに在るのだから、黨員の人格は従つて非常に卑劣であり、我黨の分子は非常に雜駁である。諸君が現在この地に於いて懇親大會を開催し、黨務を振興しようと思はれるならば、討論すべき事柄は頗る多いが、本總理より見て最も喫緊を要する事は、此の機會に乗じて、彼の不良分子を法を設けて、淘汰し去ることである。彼の不良分子をすべて完全に淘汰すれば殘留分子は自ら非常に優秀となり、一

同はこれに従つて精神を振作し、一致して主義のために奮闘する事が出来よう。黨員たるの精神はそも如何なる點にあるか。即ち主義のためならよく犠牲となるに在る。誰も黨のために仕事を爲す場合は、事の大小に論なく、必ず須らく剛毅な力を以て、徹底的に功を收めなければならぬ。又平生志を立てて、まさに大事を爲さん事を思ひ、大官と爲らん事を思つてはならぬ。若し心を大官たらんとする事に置くならば、最早や黨員たるの眞精神を失つて居るのである。

本總理は從來、黨を以て國を治める事を主張して來た。以黨治國の説は如何なる意味であるか。所屬黨員はみな官吏たるを要するか。それを治國とでも云ふのであるか。もし黨員の思ふ所が、すべての黨人を官吏たらしむることを要する。之が黨を以て國を治むる所以であるとするならば、斯る思想は大いに誤つてゐる。諸君は、誰でも滿人が中國を滅した後は、滿清を以て中國を支配した事を知つてゐる。然し試みに問ひたい、滿清の當時は、全國の大官にはすべて滿洲人を登用したかどうか。だから滿清が中國を治めたと言つたのかどうか。全く然らず、最初滿清は關内に入るや直に洪承疇を用ひた。洪承疇は如何なる人であつたか。洪承疇は漢人であつた。後に到つて滿清は更に多數の漢人を用ひて中國を支配した。春秋戰國時代に溯ると、大概の國家は客卿を招聘して國を治めた。李斯が秦に相たり、楚材が晋に用ゐられた如きは、みな外來人を以



て國を治めた例である。惟ふに、或る人が或る官に就かんが爲めには、その人が其の事を爲し得なければならぬ。若しその人物の才能が、その事を爲し得るならば、始めて彼をその官に就かしめ得るのである。若しその才能にしてその事を爲しとげられぬならば、彼は必ずその官に就く事を止めねばならない。その任に勝へなければ勿論結果は悪い。あたかも諸君が家庭に在つてうまい料理を口にしようとすれば特に上手な料理番を呼ばなければならぬし、よい着物を作くらうとすれば巧みな仕立屋を、立派な家屋を建て様とすれば、しつかりした建築師を呼ばねばならぬと同様である。この料理番、仕立屋、建築師の仕事は諸君の家内の人々に、満足に爲し遂げ得るとは言ひ難いし、諸君の家内の人々がみな料理番、仕立屋、建築師たらんとする者とは言ひ難い。だから諸君は料理番や仕立屋、建築師を呼ばねばならず、家内の人々も之には決して反對する事が出来ないのである。國家もつまりは大衆の一個の大家庭であつて、國事は家事と同様である。若し、黨員が官吏たるを要し、それでこそ黨を以て國を治むるものと云ふならば、それでは我黨の黨員は現在三十余萬を算してゐるが、廣東の縣知事（知縣）は僅か九十余名あるのみであり、其の他の大官は更に一層僅少であるから、斯様に少數の官を、どうして斯くも多數の黨員に充分分配し得よう。所謂、黨を以て國を治めると云ふことは、決して黨員を全部官吏たらしめ

然る後始めて中國を治め得ると云ふのではなくて、我黨の主義を實行しなければならぬと云ふ事である。全國民が盡く我黨の主義を遵守し、然る後始めて中國は治める事が出来るのである。簡単に云ふならば、黨を以て國を治めるとは、決して我黨員を用ゐて國を治めるのではなく、我黨の主義を以て國を治める事である。諸君は、はつきりと之れを辨別されたい。我黨の黨員にしてもし確たる人才があり、能く大任に勝へ得る者があれば、無論優先採用して我黨の主義の實行に便ならしむべきであるが、もし或る事が、ある時機又はある地方に發生した際、我黨中に適當の人才を求め得なければ、云ふまでもなく人才を黨外より借りて來ねば不可である。

我黨は成立以來、國內に在つては進歩は頗る遅々としてゐるが、海外に在つては頗る速かつた。然し民國成立後は、海外の進歩も亦さう速かではない。之れはどうした理由であるかと言ふに、一般華僑黨員が、自ら革命に成功した、自分は黨員であるから當然官を得べきであると考え、官に就き得ない場合は、熱もさめて、ダラケテしまひ、從來の奮闘的精神を失つたからである。故に海外各處で處理される黨務は、現今に至つては全く、朝氣がなく、生氣がない、到る處、暮氣が深くたちこめてゐて、前途は甚だ危険千萬である。吾人は現在の暮氣を除去して朝氣を恢復しなければならぬ。即ち、諸君は従前の、あの黨のために奮闘した精神を恢復しなければ



ばならない。心を大官たる事に置かず、大事を爲す事に置かねばならない。かくてこそ、我黨は隆々として日の上るが如きを望み得ようし、失敗もしないで済むであらう。若し長く今日の状態を續ければ、我黨の前途は、實に危険であり、失敗もするであらう。我黨は十二年前に革命を行つたが、過去の失敗は幾回なるかを知らない。辛亥の年に於いて、若し假りに好い方法があつて、黨を以て國を治むる事を實行し得て居たとしたなら、南京政府以來決して今日の如き大失敗を來す事はなかつたと吾人は信ずるものである。併し乍ら、之を東隅に失つても、なほ之を桑榆に得ればよろしい。羊を失つても、其の小屋を修繕すればなほ未だ遅しとはしないのである。諸君は廣東に於いて懇親大會を開かれたが、充分に従來の過誤を研究し、速に改良せねばならぬ。所謂以前の一切は、譬へば昨日の死の如く、今後の一切は今日の生の如く、今日以後は既往の過誤をふりきつて、新に精神を振作し發奮して行動すれば、我黨の前途には愈々無限の大きな希望がある。

我黨は成立以來、成功の度數は少く、失敗の度數が多い。現在、廣東の此の一省全部を吾人の策源地と做すを得たのは、誠に小さいながらも先づ成功といふべきで、諸君が今回、當地に來つて懇親大會を開かれたのも、亦容易には得難い機會である。然らば此の地盤は、今日の處吾人の

所有に歸したが、將來とも充分維持し得るだらうか。諸君は今年此地で懇親大會を開かれたが、明年もまた再び此地で懇親大會を開き得るや否や。今後永遠に此地に於いて懇親大會を開き得るや否や。此の開き得るや否やの問題は、ほかでもない。ただ吾人自らが心を傾け力を盡して此の地盤を確保する方法を求め得るか否かを問ふものである。若し果して、此の地盤を確保する方法を求め得るならば、そして、其の方法によつて充分光輝を發揚し得るならば、年々懇親大會を廣東に開催し得るのみならず、また此の大會を南京、或は北京に移して開催する事も出来る。此の地盤を確保する方法とは、一體何であるかといふに、人心を得ることである。一度人心を得れば、此の地盤を永久に吾人の所有に歸し、他人が爭奪し去る事はないし、一度人心を失へば、この地盤は他人の所有に歸してしまひ、諸君は再び來つて懇親大會を開催する能はざるのみか、我黨の如何なる事業と雖も盡く此地に於いては行ふ事が出来ないのである。人心、これこそは立國の大根本である。辛亥の年に滿清の亡びた所以は、彼等がこの根本を失つたからであり、民國の成立した所以は、我等がこの根本を得たるによる。吾人が今日、この地盤を守らんが爲めには廣東の人心を得るを要する。また今後この地盤を擴充して各省を吸収し全國を統一せんとせば、各省の人心、全國の人心を得なければならぬ。人心を得る方法は甚だ多い。第一に、我黨現在の黨



員は、人格は高尚に、行爲は正大に、財産を作らうとして心を用ゐたり、大官にならうと考へたりしてはならぬ。犠牲となる志をたて大事を行ふ事を考へ、全國民をして敬服せしめ信仰せしめなければならぬ。然る後にこそ、我黨の基礎は鞏固になり、我黨の地盤も維持し得るのである。吾人は、諸君が革命をもとめる毎に、常に諸君に犠牲たらん事を勸告してゐる。今日犠牲たらんことを説き、明日も亦犠牲たらん事を説く、結局、何時の日に犠牲を不必要とする境地に達するであらうか。民國の建設成就が一日のびれば、三民主義の完全なる實行が一日遅るれば、吾人の犠牲のやむ日は一日だけ空しくなるのである。三民主義の完全なる實行、吾人の革命の徹底的成就、これこそ始めて我等の犠牲の止む日であり、これこそ、實に我等の犠牲に對する報酬である。第二に、諸君は宣傳に重きを置かねばならぬ。我黨以外の人をして、すべて我黨の主義を明かにし、我黨の主義を歓迎せしめ、我黨が主義を施行するに當り之を阻止し、反抗せぬ様にせねばならない。辛亥の年に於ける革命の成就せる理由は、一般の先輩たる烈士が自らを犠牲として主義のために奮闘したのに加へて、更に我黨の主義を全國民に宣傳し、全國の人心をして盡く革命に賛成せしめたるに由る。故に武昌に義兵を起して一度たつや、全國をして皆之に響應せしめ得た。當時武昌に於ける革命軍は歩昌から一步も離れず、各省へ攻め入りもせず、しかも各省が

時を同じくして響應したのは、各省の人民が我黨の主義の宣傳を既に受けて居たからである。現在我黨は宣傳を放棄して居るが、これは大きな誤である。不肖の黨員に至つては其の行爲が不正で或は我黨員の名を騙り、外部の謗を招いた。これは全國の民心を失ふ一大原因である。本總理として我黨々員が、誰彼となく立派であるとは固より言ふ事は出来ぬが、我黨の主義が正に中國の國情に適合し世界の大勢に順應し、新國家を建設するに最も完全なる主義であると信じて居られる事を存じて居る。諸君はこの主義を全國に宣傳し、全國の人民をして盡く賛成し歓迎せしめねばならぬ。この主義を以て全國の人心を統一し、全國の人心が盡く我黨によつて統一さるるに到れば、我黨は自然に全國を統一し、三民主義を實行し、歐米の上に出づる眞の民國を建設し得るであらう。この目的を達成せんが爲めには、諸君は主義の宣傳を實行するを要する。宣傳とは人に勧める事である。世人を説いて我黨の主義を理解せしめ、我黨に傾倒せしめねばならない。それには、諸君自らが先づ三民主義、五權憲法を明らかに知り、如何にして宣傳すべきかを知らねばならぬ。如何にして宣傳すべきかを知る人は、宣傳の人材である。現在我々は極めて多數の宣傳の適材を要するから、宣傳學校を開設しないで、ゆるゆると養成するのは不可である。余の考では、今日は斯様な盛會を見て定めし好成绩をあげる事だらうが、最も緊要な事は、先づ宣傳



學校を設け、此の種の人材を養成する事である。若しこの種の學校が開設せらるるならば、余も亦毎週、若干の時間をさいて、學校に出席して講演し、教師としての責任を負擔するものである。

余は從來革命を提唱して、常に頗る多くの反對者に出會してゐる。これ等の反對者の心理を詳細に考察すると、概ねみな先入主を抱いて政變を肯んじないもので、余は大抵、あらゆる方法をつくして啓發誘導し、再三再四勸説し、了解を得るに至るまでやめない。且つ、その最も反對する氣持を最も賛成する氣持に變じさせ、熱心に我黨の爲に盡力し、我黨の主義について奮闘せしめる。斯く觀察してきて、今後我黨の主義を實行せんと思へば、この懇親會閉會後我黨の黨務を充分進歩せしめねばならぬと共に、更に宣傳上の事業をも行はねば不可である。宣傳事業は、黨を以て國を治める第一の事業である。現在、廣東の人口は三千万と稱するが、我黨は黨員三十萬を有してゐる。もし一個人にしてよく十人に宣傳し得れば、一ヶ年の後には即ち三百萬人の同志を得、三年の後には一千五百萬人の同志を得る事が出來よう。一千五百萬人の同志を有する事は廣東の人心の半が我黨に歸したことである。廣東が歸屬するに至れば、我黨は直に黨を以て廣東省を治める事を實行し得る。更に一千五百萬を基本として、推し及ぼして各省に宣傳し、一

が十に、十が百に、百が千にと宣傳すれば、三四年を出でずして、四億に傳へる事が出來、四億人が盡く我黨の宣傳を受けたなら、四億の心が即ち我黨に歸屬する。四億の心がすべて我黨に歸屬したならば、我黨は黨を以て國を治めることを實行し得るのである。現在廣東三千万の中、眞に我黨の主義を理解する者は、殆んど三萬に達しない。僅々（原文三千分之一、原文誤ならん）千分の一に過ぎず。その勢力は實際、甚だ薄弱である。併し、よくこの三萬人を利用して基本となし、到る處に宣傳したならば、却つて非常に効果があり、前途はなかなかに希望あるものである。たとへば、我黨がその昔、日本に於いて同盟會を組織して得た所の會員は一萬餘の學生に過ぎなかつたが、彼等は歸國後、各省に去つて宣傳し、そして辛亥の年武昌に起義し、高きに登つて一呼すれば全國響應し、半年ならずして全國は統一されるといふ大効果を收めたのである。かく觀じ來ると、革命を發起する人の少數なるは恐れない。ただ一同が責任を負つて起つを要する各處に於いて宣傳せよ。實に前途は希望に充ち満ちて居る。

從來、吾人の革命に趨くや、自己の生命が保し難いのみならず、且つまた家産を失ひ、家族を滅す危険さへあつたのである。吾人は従前には斯様な大危険があつても、なほよく革命に従つた。これは如何なる理由によるのであらうか。即ち吾人が犠牲的精神に富んで居たからである。



吾人に偉大な犠牲的精神があつたればこそ、その後革命が成就し得たのである。吾人は現在の革命をも亦、以前の如く成就せしめねばならぬ、で、今日の懇親會も、ただに形式的に精神を振作するばかりに止らず、併せて、一同今日より従前の犠牲的精神を再び恢復するを要する。若し果して一同が従前の犠牲的精神を恢復せば、如何なる難事あるも恐れず、現在の革命の成就せざるをも愁へず、吾人は如何なる事でも爲し得る。ただ心に問ふて愧づる所なく、眞理に従つて行はねばならぬ。即ちこれが犠牲なのである。更にまたこれが極めて光榮なのである。黄花崗の七十二烈士、孚琦に戦死した温生財の如きは、主義の爲めに革命に赴き、仁を成し義を取り、名を千古に留めてゐる。今日何人か彼等を敬仰せざる者があらう。また千載の後誰か彼等を紀念せざる者があらう。彼の人々達は、眞に死すと雖も猶生きてゐるのである。死して九泉の下に至れば、すべて眼を閉ぢてしまふ。古人の曰く「死は泰山より重きもの有り、鴻毛より輕きものあり」と。蓋し人類犠牲の價値は、生命に比するもなほ貴重なものがある。即ち眞理と名譽とがある。七十二烈士と温生財とは眞理と名譽との爲めに死した。彼等死後の報酬は、獨り紀念の石碑のみではない。革命成就し、中國は富強に、全國の人民がすべて幸福を享受し得る。これこそ、彼等の大きな報酬である。吾人が將來大報酬を得んとせば、眼前には犠牲たらざるを得ない。またかかる

大報酬は一年や二年で、おいそれと得られるものではなく、或は八年、十年、二十年を要して漸く得られもしよう。凡そ一切の事業は、效を收める事が速なればなる程、利益は愈々小さく、效を收める事の遅ければ遅い程、利益は愈々大である。吾人の革命は、強國富民の大利益を收めんとするものであるから、眼光は遠大なるを要する。十年百年の後を打算するを要し、眼前の事のために打算してはならない。

吾人國民黨は、即ち革命黨である。革命の方法には、軍事の活動あり、宣傳の活動がある。軍事の活動は、不良の政府を顛覆し、一般軍閥官僚を驅逐する。宣傳の活動は、不良の社會を變改し、民衆を感化する。かの一般軍閥官僚を消滅せしめんとするには、軍事活動は固より極めて重要であるが、併し國家を改造し、更に根本より人民の心情を改造する事が必要であるが故に、民衆を感化する活動は一層重要である。かかる理由により諸君は今後宣傳に盡力せられ、國民を紹介して我黨に加入せしめられたい。一年の中に、さして多數は必要としない。ただ一人で十人を感化し、十人の入黨を紹介するを要するのみ。余の考では、一人が十人を紹介するのは難事ではない。一年、二年と経過した後には、十は百に傳へ、百は千に傳へ、之を全國に推し廣める。さうなれば全國の人心は完全に我黨の感化を蒙り全國の人心盡く我黨に歸屬するに至つたならば、



我黨の革命は大成功を告げるのである。

## 三民主義は舊思想打破の主義

——民國十二年十二月二日各將領歡迎宴會にて——

湘軍總司令、豫軍總司令、竝に滇桂粵及中央直轄の各將校諸君。今夕は此處に此の歡迎の宴席を開き、諸君と相會し酒を酌んで祝賀する次第であるが、それには二つの意味を含んでゐる。第一は、今回廣州近郊の戦争に於いて博した大勝利を祝賀する事である。今回の大勝利を博した原因は全く諸將士の功勞であつて、之れ滇軍、桂軍、粵軍竝に中央直轄諸軍、及び今回新に参加せられた湘軍、豫軍に感謝せんとする所以である。第二は、我々同志が、まごころ籠めて、新に我々に參加し今後共同して奮闘する湘軍、豫軍を歓迎せんとするにある。

今夕の此の盛會は少しも偶然の事ではない。廣州は今年春、沈鴻英が亂を起して以來一同が會飲する機會がなかつたので、今夕の會飲は沈鴻英の亂後第一回目の宴會で、かかる機會は實に得難いものである。沈鴻英が亂を起して以來、北軍は兩度に互つて北江より、陳軍も數次東江より來攻し、廣州の局面は全く風雨に奔弄され、誰しも一日として安き日とはなかつた。最後の戰

と云ふべき今回陳軍の來攻は、我軍が既に大勝利を得てしまつたし、此の數日、北江には北軍が來り冠して居るが、今夕の消息によれば湘軍が既に擊破してしまひ、始興水の南北には今後大敵は最早や存在せず、廣州の局面は平穩な地位に復した。我々革命黨は廣州を以て好個の策源地としたと云ふべきで、之を以て今後の奮闘は、大いに希望あるものとなつたのである。

廣州現在の局面は、従前とは大いに異なる。譬へば従來は、滇、粵、桂の聯合軍が東江に在つて陳炯明の叛軍と戰を交へ、一敗して博羅に退き、再敗して石龍に到つた。去月十七日に及んで、陳の叛軍は石牌に殺到し、廣州の人心は非常に動搖し、殆んど保守し得ない様な現象を呈した。其の日、豫軍は巧に集中して既に廣州に入り、紅沙より徒歩で長堤を過ぎ、廣九停車場に着したので、之れを當時前線へ増援して敵軍を擊退した。

人民は、豫軍の軍容の盛なるを見て、忽ち人心鎮靜に歸し、其後湘軍は北江に到り、又始興の北軍を打つて退けた。故に現在の廣州の局面は完全に安全な地位に達した。我々は十幾省の同志を合して此の安固たる廣州に在るのである。我々は如何なる責任を有してゐるか。今後何を爲すべきであるか。諸君は、此の責任の甚だ重大な事知らねばならぬ。我々の革命黨は嘗て此の民國を創造し、十二年を経たと云へ、今までは袁世凱が皇帝たらんとするに非ざれば張勳の復辟



現在は又曹錕が金錢を以て、總統を買ひ武力を以て民國に反逆せんとたくらんでゐる。故に民國の基礎は一向に鞏固とならない。今後我々は嘗つて創造した民國を守つて國礎を鞏固にしなければならぬ。之れこそ我々の責任なのである。此の責任を荷擔ひ、更に一步を進んで光輝を發揚し、一の新民國を建設すること、之れこそ我々のまさに爲すべき事なのである。我々はかかる責任を肩にして此の大事を遂行するに、斷じて遲疑する事を許されぬ、即ち今夕よりして決心を立て諸君は今後奮闘しなければならぬ。

中國の歴史より觀察すると、新舊兩朝の更替の際は常に、概ね幾十年かの變亂がある。民國成立して今日に至るまで既に十二年を経過したが、此の十二年間、一日として變亂なきはない。此の變亂の終熄せぬ原因は如何なる點に在るか。簡単に云へば、其れは新舊思潮の衝突にある。詳細に説けば、其れは舊思想が新思想を消滅せしめんとし、新思想も亦舊思想を消滅せしめんとし、新舊兩思想が迭々攻撃し合つて居る。故に禍亂が循環して何時までもやまないのである。併し人類進化の道理よりすれば、舊思想は總て進歩を妨碍し、人類を束縛するもので、我々は人類の自由を要求し、進歩の障礙物を打破する。故に舊思想は打破せざるを得ない。今日諸君にも舊思想を打破せられんことを要請するが、結局何を以て其の標準となすのか。其れを大略申上げる

と、つまり一種の主義を以て標準とするのであつて、我々が若し或る主義を信仰し、其の主義に服従し一切其の主義に照して行動するならば、舊思想の打破事業は成功しよう。若し然らざる時は成功する希望は更でない。今日我々が中國の政治に對して負ふ所の責任は舊き專制を打破し共和を提唱し、一個の新民國を建設するにある。此の新民國建設の任務が即ち我々の事業であつて此の事業を實行成就せしめねばならぬ。無論、途中で如何なる困難に際會しようとも、總て百度拆けても屈せず前進し最後の成功を求めべきである。其れは信仰である。信仰中の道理は、簡単に申上げれば即ち主義である。我々の標準となす主義は、結局何であるか。即ち諸君の御存じの三民主義なのである。

三民主義中の第一項は、民族主義である。嘗つて革命黨が辛亥の年、滿清政府を倒して異民族を走らしたのは、即ち民族主義的事件である。之と同様の事を嘗つて中國で行つたのが明朝の朱元璋で、彼は元朝といふ異民族の政府を倒し政權を自己の手中に收め、國號を改めて明朝と爲したが、之れまた自ら皇帝となり政體は相變らず專制で、天下の政體を父より子に、子より孫に傳へ一家の人が代々相傳へ、古人の「天下を家にす」と説けるが如くであつた。我々が今回滿清を倒し專制政體を改革し、變じて共和となし、四億の人が悉く主權を有し國家の大事に參與する



様にしたのは、即ち古人の「天下を公にす」と説けるものである。此の「天下を公にす」の道理は、即ち三民主義中の第二項民権主義である。從來、人々は天子は天の生める者で、元來天賦の特権ありと考へて居たが、其後人類が覺醒して、只天子一個人のみが有するとは信ぜず、一般にも推して人々は皆此の特権を有するものと考へるに至つた。之れが即ち政權を以て、天下に公にすることである。我が中國では二千餘年前、孔子がかかる思想を有して居た。彼は曾つて、「大道の行はるるや天下公の爲めにす」と説いた。孔子の時代に在つては、其れは單に思想に過ぎず事實ではなかつたが、現在に於いては、世界に此の思想もあれば又此の事實も存在する。諸君の總てが、自ら主人公となつて、無上の政體を考へ、此の主義の政體を承認されんとしてゐる。故に民権主義は現在に及んで發達の極點に達したのである。三民主義中の第三項は民生主義である。世界で此の主義を行つてゐる最新の國家はただ露國ある耳で、他の英國、米國、日本の如きは、富強と雖も、未だ民生主義の行はるるに到らない。二三十年前、革命の同志が滿清を排斥せんとした思想は、如何なる點から起つたかと云ふに、外國の富強は良き政府の存在するによることを觀察し、我々が國家を富強ならしめんとするには良き政府を持たねば駄目であり、良き政府を持たうとするには革命せざるを得なかつたので、遂に滿清の不良政府を倒したのである。併し

英米は富強なりとは云へ社會の内部になほ問題が存してゐる。嘗つて許多の革命の同志は政府を改良し、國家が富強になつた後には最早何等問題はないものと思惟した。何ぞ知らん、英米の内部には依然として實に大きな問題が存してゐる。彼等一國の政權は、表面人民の手中に在るが、人民相互の間には政權を均分し得ざる状態である。此の原因は彼等の社會には二つの絶大な階級が存在する。一は極めて大なる富豪階級、一は極めて苦しき貧民階級が存在するに由る。富豪の財産は頗る多く、全部資本勢力として用ゐ、一國の政權を操縦し貧民を壓制しつつあり、多數の貧民は少數富豪の壓制を受くるを喜ばず、種々の方法を案じては富豪に反抗して居る、斯様に貧民の富人に反抗する行動を、即ち稱して社會革命と云ふのである。社會革命の原因は、社會に於いて甚しく貧富の懸隔があり、極富の人々は安樂ではあるが、併し多數人は却つて苦痛を蒙る。故に彼等の生活上に於ける幸福は依然として不平等で、多數の貧民は平等を要求し、之れによつて結合し共同して富豪を倒さんと計り、社會革命の結果を醸成する。彼等の社會に今日かかる結果を生じた理由は、即ち前に民生主義を講ぜざりしに原因する。此の種の社會革命を豫防し、以て生活上の幸福を平等ならしめ様とする原理が、即ち民生主義である。

我が革命黨は中國の改良を提唱するが、何を以て三民主義の革命を實行せんとするのか。中國



の政治倫理學説に就いて講ずると、古人は「忠君愛國」に説き及んで最も結構なものとしてゐる。近來人類の思想に革命が起り、斯様な倫理觀念に對し以つての外であるとし、人類は極端なる平等を得る事を必要とし且つ其れが正當であるとなつた。若し然らずして滿清が中國を、英國が印度を、佛國が安南を、日本が朝鮮を征服せる如くなすならば、其の土着民族と異民族との間に政治上の不平等が発生し、さうした不平等の民族は平等を要求して武力を使用して異民族に反抗する。かかる異民族に對する反抗が、即ち民族革命である。政權が盡く一種族の手中に運用される場合、若し執政者の威權があまりに甚しいか、或は一般民衆があまりに無能力なる時には、權勢ある人と平民との區別が生じて來る。政治權力ではよし人々は不平等でも、平民は平等を要求し、そこで權勢者流に反抗しようとする。其の平民の權力者に對する反抗、其れが即ち民權革命である。また近來人類は社會上の機會均等、富貧平等を要求するに至つた。其れが即ち民生革命である。明朝の朱元璋が元朝を倒したのは、民族革命を遂行したと云ふべきであるが、併しなから其れ以後各代の専制は實に甚しく、滿清が關中に入つて政治が寛大な爲め中國の人民が却つて之を歓迎した所以である。之によつて知らるる如く本國人の専制も亦承認されない。故に本國人が政治に於て専制でなければ、社會の貧富は、なほ平均すべく、相互に安穩無事であり得るが

然らざれば矢張り革命を免れ得ない。世界で起つた此種の革命の中、現在既に成功せるものはただ露國あるのみである。我々は古今中外の大勢を觀察し、我國將來の狀態を默想して、一勞永逸的方法を以て完全なる中華民國に改良せねばならぬ。故に民族主義革命、民權主義革命を行はば必ず民生主義革命をも共に顧慮すべきである。

諸君、或は民生主義とはどんなものであるか、尙ほおわかりにならぬかも知れぬ。知らず、中國幾千年前、既に早くも此の主義を實行した事のあるのを。周朝の時實行した井田制度、漢朝王莽の考案せる井田方法、宋朝王安石の實施せる新法の如きは、みな民生主義の事實である。また數十年前、洪秀全は廣西に於いて義軍を起して以來、十幾年の交戦中、無形のうちに一種の制度を實施した。其の制度は露國の共產制度と同様で、彼は湖北、江西、安徽、江蘇、浙江等幾省を得たが、人民が兵災を受けた後で許多の財産は管理する人も無かつたので、彼は早速之を國家に集中して政府が管理した。故に彼は十幾年間戦を續けたが、借りた外債とてもなく、人民も亦豊に着、充分に食ひ、曾國藩は南京を破るを待つて南京の財産を運搬する事、數ヶ月の久しきに亘つた。諸君は之れによつて其の政府が如何に富裕であつたかが窺はれよう。嘗つて余が南京に在つた頃、洪秀全の代理をした事のある老人が政府に報告して曰く、「或る場所に許多の金銀が



かくされて居る。金銀の上蓋には石を置き、四方は家屋形になつてゐる。若し幾十丈かの下を探つたならば、きつと藏した金銀を發見するだらう」云々と。そこで政府は人を派して云ふが如くに探つた所、果して石蓋に掘りあてた。併し遂に金銀は發見しなかつた。思ふに金屬は非常に重くて年月が経過しすぎて地底に沈んだのかも知れぬ。老人の説に據ると、此處に洪秀全が藏した金銀は頗る多く、其れを見積つてみると、若し探りあつれば今日の中國の外債を償還し得る程である。斯様に觀察して來ると、洪秀全の政府は何程富裕であつたか、計り知られぬ。又、左宗棠、「ゴルドン」が蘇州を陥落して後得た所の金銀財物も其數を數へきれなかつた。單に蓋藏の一事に就いても、幾日が焼きつづけて焼き終らなかつた程である。大平天國の此等の制度は、即ち露國の行へる共產制度と同様である。現在露國の共產制度は既に其れに關する思想、知識が有つて然る後に實行されたものだが、洪秀全は實行したものの、さうした知識有つての事ではなく、勢に迫られて行つたに過ぎない。政府は農工耕作を保護して軍隊の給養を計らねばならなかつたが、軍隊に供給して次第に餘裕を生ずるに至ると共に、政府は過剰の糧食を民間に賣渡した。茲に於て勞農政府は漸く商人政府（註、資本家政府）に變じてきた。故に洪秀全の政府は異常に豊だつた。斯様に世上の財産を大小に論なく悉く政府の手中に集中するが如き制度は、ただ

洪秀全のみよく實行し得たに過ぎず、露國でも現在は未だ行はれて居ない。露國は一種の國家資本主義を行ひ、極めて大なる財産を政府の手に收めた。例へば、大鑛山、鐵道、銀行等の如きはすべて國有に歸した。彼等がかかる制度を設け、其の組織せる國家を「ロシア・ソヴェト」社會主義共和國と稱してゐる。彼等の組織せる政府の原則とする所は、資本家反對であるが爲めに、世界各國は出兵して彼等を討つたが、數年間の戦争後、露國は全く大々的に勝利した。數日前、露國代表は説いて曰く、「我が露國は從來經濟上に於いて事毎に英佛の束縛を受け、國內の大事業は全部彼等に管理されて居た。現在我等は覺醒し戰勝して、從來外國人の管理して居た事業は全部回收した。我々は、此の六年間中に行つた革命的事業を回顧して見る時、奮闘して獲得し得た最大の原理は即ち民族主義の實行である」と。故に中國が三民主義革命を主張する理論とは甚だ好一對である。

我々の革命の實情に就いて申上げるならば、如何なる有様であつたらうか。現在、廣東の各軍隊は一兩縣に駐屯してゐる。阿片を賣り賭博を開き、金錢をまき上げて私腹を肥やした事は、余はこれは最近までの行動に過ぎぬと考へるが、未だにやつてゐるとすれば、直ちにまさに改良すべきである。軍隊の種類に到つては更に複雑である。從來、滇軍、桂軍及び中央直轄の各軍が有



り、其の後又福建から粵軍が来り、現在、新しく加入せるものには湖軍と豫軍とがある。若しかかる大部隊の軍隊が皆幾縣かを駐屯支配せんとして各自に計をめぐらすならば、廣東の局面は永久的なものとはならない。我々はこの鐵血を以て轉換せる局面を永久に維持し革命の策源地としようと欲する以上、前途に障礙物なからしめねばならぬ。若し前途に障礙物なからしめ様と欲するならば、適當な對策を計劃し得よう。廣東の局面はなほ大いに活動し得る餘地がある。若し然らずば甚だ悲觀すべきであらう。我等の同志許總司令の如きは、石灘に歸來すると共に、挨拶なしに去つて上海に逃亡してしまつた。彼の逃亡の原因を探究して、或者は彼がさきに敗戦して、余に叱責されたからであるとなすが、豈に計らん、余が同志を問責するのは日常の事に過ぎない。余は彼の行爲を奇怪だとは考へぬ。眞の原因は、彼の粵軍總司令を發表した爲であつて、彼も亦、敗戦を喫したと考へず歸つて總司令になつたが、少からず不安を感じた爲め遂に遠方に逃亡するに至つたのである。内容は總司令を受命した後、財政の處理方法がなく、よつて逃亡せざるを得なかつたのだ。併し彼には方法がないが、余には有るから、既に人をやつて彼に歸來を促してゐる。余は、諸君が眼前の困難に耐へ忍んで、専ら三民主義に向つて奮闘されんことを希望する。廣州を以て策源地となし、現在の十幾萬の兵を提げて江西に入り、將來湖南、湖北、福建

を回復するのは、誠に容易の業である。唯諸君が主義のために奮闘せられるのを待つのみで、その方法は立つて居る。廣東の財政は、今後の収入が毎年三千餘萬有るから、我々は現在の方策として、只管従前の財政状態を恢復せねばならぬ。さうなれば十幾萬の兵を養ひ得る。此外に現在更に三千萬を増加すべき新計劃を有してゐる。元の三千萬に又新に三千萬を加へ合計すると六千萬となる。故にこの廣東一省の財源は實に豊富、實に活動するに足るものである。この新財源さへ成功し得れば、如何なる者と雖もほしいままに使用するを許さず、専ら北伐の軍資金に當て、將來江西、湖南、湖北、江蘇を得れば、十幾萬の兵では到底用を爲さぬから更に擴張充實せねばならぬ。然し若しも發展し得ぬならば、この十幾萬の兵は三年を出でずして消滅せざるを得ないだらう。故に現在の局面は即ち我々にとつて生死の關頭である。今一度廣東の局面に就いて云ふならば、東江方面の殘敵は頗る容易に掃蕩し得るし、北江方面も又戦に勝つて、今後は外部には全く問題がない。有るのは却つて内部の問題である。この内部の問題は簡単に述べると、つまり財政問題で、我々はこの財政問題を解決しなければならぬ。表面は頗る困難であるとは云へ、併し乍ら諸君が眼界を大にして目前の困難を忍耐しさえすれば、亦まことに容易な事に過ぎない。何となれば我等がかかる時に生を享け、一萬乃至數千の兵を手中に有するからには新國家の將に



成らんとして然かも未だ成らざる際に當り、國家に對して皆一種特殊の責任を負はされてゐる。この責任とは、即ち救國と救民である。諸君はこの責任を擔ひ前途に向つて奮闘せられるのである。よしや困難に遭遇するとも飽くまで百折不撓、後人をして我等は救國救民の主義のために犠牲となつたので、黄金のために強盜を働いたものではない事を知らしむべきだ。かくすれば千年百年の大事業も却つて眼前の廣州の小局面より容易に成功し得るのである。若し然らずば、此の小局面と雖も亦長久ではあり得ない。滇軍の或る師長の如きは金錢のため部下の兵士に位置を奪はれてしまつた。此の風が一度生ずると、もし我々が別に良法を考へ長久の計を立てぬならば、現在の軍長、師長、旅長は今後すべて危だ危険なものである。道理から云つて、如何なる師長がまさに廢さるべきか。また廢すべからざるか、軍法に依れば、長官が若し兵士の給料食費を着服したならば、須らく彼を廢すべきで、それは實に正當な事である。而して現在彼等は全く自己の部下の兵士の囚徒となつてゐる。これは一體何と云ふ有様であらうか。現在世界で、兵士が長官を敢えて殺すのは只露國ある耳である。その兵士は革命の當初に、皇帝と皇帝派の長官を殺したが、その原因を探究して見れば革命主義を行はんとしたにある。果して滇軍の兵士が長官を廢したのも亦主義を行はんが爲めであるならば、余は眞に敬服するものである。併しそれは單に金錢

問題から、兵士が眼中軍紀なくほしいままに行つたもので、少しも首肯し得ない。余は去年冬、廣東に來たが、上海から出發する際、多數の人々が余の爲めに廣東に行つたならば恐らくは亂兵の意外な危険を受けるだらうと心配されたが、廣東の官長には革命主義を理解せらるる向が頗る多いことを知つて居たから余は何等意に介せず、單身廣東に參つたのである。廣州に來て數ヶ月以來、各軍の將士が余を待つこと果して誤らなかつた。之がため、余が日々心の憂とする所は只外より來る敵人に對する危険のみで、内部は全く平和で今日の到るを待つて居たのである。今日は外部の敵人は既に擊破され、廣州は完全に平穩安固であると見られる、故に余は諸君と共に宴會を開き、諸君と事細かに談話を交してゐるのである。即ち廣東に對しては頗る樂觀的で、廣東の軍士は遠からず兵を收めることと信する。但し、敵の退却せる後は、軍事上では危険はないけれども、内部には尙ほ財政上の危険が存在して居るから、此の危険を排除しなければならぬ。余には既に之に關して法がある。諸君に希望する所は、諸君が余を助けて共同して其の辦法を實行せられん事、便ちこれである。

現在、敵人は最早撃退してしまつた。此の上、我々が注意すべきは如何なる事どもであらうか第一には、精神に「暮氣」があつてはならぬ。反對に「朝氣」を以て恢復せねばならぬ。民國成



立の原因を探究すると、全く革命黨の力で造り上げたものであるが、併し革命黨は自己の造り上げた國家の内、十二年來他地方に於いては一堂に會して愉快に談笑した事は一回もなく、唯今回廣州に於いて我々が談笑し得たのみである。此外の他地方では、僅に四川一省あるのみであるが併し四川と廣東とは相離ること幾千里、中間に湖南があつて交通することも叶はない有様である。我々は、革命黨が辛亥の年に當つて能く民國を創造し乍ら、十二年以來民國を維持し得ない原因を考へて來ると、自然と民國成立後、我々が朝氣を既に失つた點に咎を歸せざるを得ない。故に到る處で盡く失敗に終つたのである。今後、革命黨は各省の内に於て團結し、從來の我が革命黨の「朝氣」を恢復しなければならぬ。嘗つて革命黨としての朝氣の最も旺盛だつた人々は黃花岡の七十二烈士である。この七十二烈士が難に死した故事について余は是非諸君に對して一言申し上げねばならない。彼等の事を起すに先立つての計畫は極めて周到であつて、若し完全に實行したならば、素晴らしく成功した事であらう。其の後實行の際に同志の行爲が面白くなかつた爲め、失敗した。同志の面白からぬやり口は多々あつた。其の中でも、例へば或る同志、黃克強によつて日本へ小銃百挺買入れに派遣された廣州の同志の如きは、此の多くの小銃を買ひ集め、まことに大成功で、後に至つて彼等は事を起し制台衙門の内に攻め入つて各處で盡く成功したが

最後に失敗した原因は、全く武器の不足によるものである。彼の小銃買入れの同志は日本に於いて小銃を巧みに買入れ、既に船に積込んで正に長崎を出帆せんとする時、突然黃克強から一通の電報が來て、香港の警戒嚴重故、彼に細心に注意すべき旨を傳へた。そこで彼等は航海中、其の小銃を一度に三挺乃至五挺宛人知れず密かに船べりに運び海中に投棄した。香港に到着して後黃克強が彼に買入れた小銃に就いて尋ねた所、彼の曰く、君が僕に用心せよ、香港は警戒嚴重だと云ふから僕は香港へ持つて來ないで航海の途中既に海中に投げ捨ててしまつた、と。諸君、彼の如き人物は、命を顧みること責任を思ふよりも重く、全く革命黨員としての資格のない者である。いづくんぞ革命の事業を誤らざるを得よう。斯様な故事を御聞かせした余の意圖は、一には亦我が従前の革命の同志は廣東、浙江、湖南、湖北に於いて、合せて百挺の小銃さへなかつた事を證明せんとするにある。若し一百挺の小銃が有つたならば、もつと以前に成功して居たであらう。二には、諸君は、どなたも黃克強の威名が、欽廉革命により起つた事を承知して居られると思ふが彼は欽廉革命に於いて如何なる武器を使用しただらうか。其の當時は我々は安南に在つて、彼と共に到る處で銃を買ひ集めた。今日は沙維治で三挺か五挺、明日は曼里霞で幾挺かをと云つた風に、東西に走つて漸く集め得たのが雜種の銃二百挺餘、銃一挺に分配する彈丸は最も多くても



二百發を出なかつた。彼は此の武器を携へて欽廉に赴き、そこで龍濟光、陸榮廷と戦を交へると數箇月に及び、後に到つては失敗はしたものの、彼の奮闘的精神の甚大なることは、實に人をして感服せしめ、ために彼の威名が大いに喧傳されたのである。諸君、今回行はれた石灘石龍に於ける戦争には、手にあつた銃は最も少く見積つても一萬挺以上であつた。然るに何故敵人と一死を賭して戦はなかつたのであらうか。何故、戦はずして退却したのであらうか、斯様に考へてくると、革命成功以前は我が同志の膽ツ玉が甚だ大きかつたが、革命成功以後は同志の膽ツ玉が退歩してゐる。かく、度胸があつたり、なかつたりする原因は、銃の多少によるものではなく、實際は我が同志の元氣が振作してゐるか、居ないかに由る。元氣が能く振作するか、せぬかの理由は即ち主義を信仰することの確實か不確實にある。果して若し主義を信仰すること誠に確實ならば此處にかういふ例がある。嘗つて溫生財は南洋に於いて余の演説を聞いた後、更に深く信仰し、民族主義を用ひて、滿朝を排するには、滿人を多く殺さねば駄目であると考へ、そこで彼は廣州に歸來して革命に投じ、全力をあげて滿洲將軍孚琦の行動を聞きこみ、或る日孚琦が瘦狗嶺から練兵の歸途を擁して、孚琦の轎の行手をさへぎり、ピストル數發を連發して孚琦をうち殺した。孚琦の轎夫並に衛兵は、びつくり仰天して四方に蜘蛛の子の如く散つたが、彼のみは逃げか

くれもせず、清兵の拉し去るにまかせ、死を視ること歸するが如くであつた。斯様な、死を視ること歸するが如き原因は、即ち溫生財の道を信すること篤きによるもので、さればこそ身をすてて仁を成したのである。七十二烈士が敢えて仁をなし義を取つた原因も亦同様の理由によるものである。其の後參加した多數は、エセ革命黨員であつた爲め、全黨の元氣を攪亂して、逸散せしめてしまつた。元來、革命に要する力は、通常の力とは異つて、實に極めて小さな力を以て極めて大きな力を打破し得るものである。現在、曹錕、吳佩孚の勢力は滿清の勢力と全く比較し得ざる程のものであらうか。辛亥當時の革命黨は幾萬の兵があつた譯ではない、然らば何を以て滿清を打破し得たのか。また現在廣州には十幾萬の兵を有しながら何が故に用ゐる所がないのか。昔は只拳銃、爆彈のみを以て而かも革命へ進み、今日は洋式銃や大砲を有しながら却つて畏縮して前進せぬのは何故だらうか。この原因は全く同志が革命主義を知ると知らざるとにある。若し主義を知り、主義を信仰するならば、即ち主義の爲めには犠牲ともならう。よく犠牲に甘するならば曹錕、吳佩孚を打破して新に新中國を創造し得るのである。方今、我が十幾萬の兵士の元氣を、一人残らず七十二烈士、溫生財と同様にまで恢復せしめんとするには、何としても彼等全部が革命主義を明白に理解するを要する。彼等全部が、主義を理解し、主義を信仰し、主義のためには



よく犠牲となり得る、一個の完全なる人格とならねばならない。そこで諸君、諸君は今夕よりして自分自身先づ革命主義を理解し、主義のためには進んで犠牲となれんことを要請する。かくてこそ、始めて之を兵士に擴充し得るので、所謂「己立ちて人を立て、己達して人を達せしむ」る所以である。

靈西亞革命の成功の迅速だつた原因は、全く彼等革命黨員がみな道を信すること篤く、全國を其の主義を以て感化したのによる。故に何の戦亂もなく政府を根本的に改造し得たのである。嘗つて孔子は其の晩年列國を周遊したが、彼が行つたのは何であつたか。彼の主義を宣傳する事に外ならなかつたのである。果して、我々の兵士が盡く革命主義を理解したならば、變じて革命軍となるだらう。革命軍に變じたならば、革命主義の爲めには犠牲となるも厭はず、一以て百に當り、百以て萬に當り、同心協力して中國を平定するだらう。然らざれば、盡くただ長官に強請して金錢を求めることのみを知る、演軍某師長の兵士の如くなるであらう。従つて我々革命的軍人は、若し革命を成功せしめ得れば、即ち米國の「ワシントン」だが、然らざる時は、演軍の某師長となつてしまふ。彼の演軍の師長は、豫ねて有能の材と聞及んでゐたが、今回兵士の囚徒となつたのは、偏へに彼が其の兵士に對し平常甚だ充分な宣傳を行つて居なかつたのに由る。余は此

度廣州に來て以來、毎日全く軍事に忙殺され、兵士と面接する暇がなかつた。今後は、どうか諸君にお願いして、余と彼等と、省議會或は高等師範の大講堂で直接に談話し、精神教育を以て露國の兵士同様に彼等を感化したい。露西亞革命の兵士は皆革命主義を理解せるものである。故に彼等は露國皇帝を討つて走らせたばかりでなく、更に英國、米國、佛國、日本の聯合軍をも撃破したのである。英、米、佛、日の諸國の兵士は露國に入つて交戦した際、すべて露國兵士の感化を蒙り、露國の革命主義の宣傳を受けて、彼等と戦を交える事を願はなかつた。ために、其後英米佛日の政府も亦對策の施し様がなくなり、ただ露國と講和して自ら撤兵するより良策がなかつた。露國が斯様に主義を以て戦争に勝利を占めた道理と、我國の孟子が「力を以て人を服するは心服に非ざる也。徳を以て人を服するは、中心悦びて誠に服する也」と述べてゐる道理と殆んど同一であつて、武力を以て人を征服するのは全く表面のみで、主義を以て人を征服する、之れこそ眞實である。我が中國の歴史中には之れを證明するなほ幾多の好例がある。其の昔、漢楚の互に争つた頃、其の頃項羽の武力は實に強大で、毎回鋒を交へる度毎に劉邦は盡く敗戦した。而かも後日に至つて漢は何故に勝ち、楚は何故に敗れたのであらうか。其の原因は即ち劉邦は關中に入つて後、人民と法三章を約し、政治は寛大にし、條理もあれば主義もあつたからである。更に



文王が百里にして天下に王たりし歴史を述べよう。「天下に王たり」とは、とりもなほさず、中國を統一することであり、百里は甚だ狭少な地方である。甚だ狭少な地方を以て策源地と爲し、尙ほよく中國を統一したのである。彼は如何なる力を以てしたのか。それは彼が一個の良政府を樹立したのによる。現在の露國も亦之と同様である。廣東は今後、四境の敵を一掃したならば、或は二三ヶ月休息が必要であらう。此の二三ヶ月中に於いて、我々は宣傳を行ふ計劃を立て、此の十幾萬の兵をして盡く、我々は何が故に革命主義であらねばならぬかを理解せしめる必要がある。彼等が主義を理解した曉には、彼等の精神は自ら七十二烈士と同様に、彼等の能力は必ずや露國兵士と同様になり、出でて戦へば、勝つのみで敗れることなく、吳佩孚をも征服し得るが、然らざれば吳佩孚の兵と差別はない。吳佩孚の軍は多く、彈丸も多い。我々は如何にして之を征服し得よう。兵家の曰く、「心を攻むるは上たり、城を攻むるは下たり」と。能く敵人の心を攻むるならば、よし財なく彈丸なくとも、戦勝し得るし、中國をも統一し得る。故に我々は此の諸軍隊を以て、いづれも一種の革命軍に造りあげ、到る處人民をして皆歓迎せしめねばならぬ。古人の説ける如く「東面して征すれば西夷怨み、南面して征すれば北狄怨む。仁者は天下に敵なし」であつて、これでこそ始めて、此の十幾萬の兵を正當に使用するものである。

今日、我々同志の廣東に在るのは、誠に千古に得難い機會である。千古に名譽ある事業をなし千古に名譽ある軍人となり、千萬年以後の人々をして皆崇拜せしめねばならぬ。之れでこそ、此の機會を錯らなかつたものとすべきであらう。以上が、余の今夕此の歓迎宴會を開くに當つて、諸君に希望する所のものであり、今夕諸君を歓迎して此處にお招きした理由である。諸君將來の事業の成功を祝福して乾杯を致したいと思ふ。

### 黨員は應に軍隊と協同して奮闘すべし

——民國十二年十二月陸海軍大元帥として大本營の會議に臨みたる際——

同志各位、今回本黨を改組したる目的は、爾今黨義を以て戦勝し、黨員によつて奮闘せんが爲である。我黨は既往十餘年間に於て、或は勝ち、或は敗れ、斯て勝敗を繰返すこと既に數度に及んでゐる。而して勝敗の成績から觀るに、軍隊による勝敗は頼る可からざるものであつて、黨員自らの戦勝にして、初めて頼るべきものなることを知ることが出来る。黨員は先づ第一に此點を知らなければならぬ。革命成功以前に於ける我黨は、皆黨員自身の力によつて奮闘し、軍隊に依倚する所極めて少であつた。武昌の役の成功は軍隊の奮闘によるものであるが、當時の成功は



黨員が黨義によつて奮闘し、軍隊を感動せしめた結果であつた。然るに不幸にも武昌の役後、黨員は奮闘を停止し、爾來十二年、我黨は軍隊の力によつて奮闘したことは多いが、黨員の力によつて奮闘したことは極めて少い。若し有りとなれば、討袁失敗前後の短期間のみのことである。我黨の今回の改組は露國を模範として、根本より革命の成功を企圖し、黨員をして軍隊と協同して奮闘せしめんが爲である。

露國は此の方法を以て列強の壓迫と侵略とに抵抗し、竟に能く之に勝つて革命を完成するに至つた。其の成功の原因は黨員が主義の爲に奮闘したからである。吾人が露國に反對する新聞によつて知り得る事實は、英兵が北氷洋に於て上陸した際、露兵は抵抗せずして自ら退き其の際印刷物を残したが、それには何が故に露國を討たんとするか、列強と露國とは既に修交關係にあり乍ら、何故征露の兵を起すか等の事が書かれてあつた。各國の兵士は當時露國方面からして獨逸を討つものであるとの心得、露國人と戦はんとしてゐると言ふことは知らなかつた。仍て彼等は之を上官に質したが、上官は言ふべき言葉がなかつた。そこで各國の兵士等は直に引き退き、兵變を起さんとする兆さへ見えたとのことである。斯様な事實は露國の黨員が只だに本國人を感化し得るのみでなく、又能く主義を以て外國兵をも感化し得るものなることを物語るものである。

日本が會て「シベリヤ」に派兵した際、彼等日本兵の中にも同様感動されたものが有つた。此等は皆露國の黨員達が、主義の爲に奮闘した結果である。然るに既往に於ける我黨の革命奮闘の工夫には、尙未だ周密ならざるものがあつた。故に屢々失敗したのである。我黨の黨員達は、革命の成功以前には多く奮闘することを肯じたが、其の成功後に至つて遽かに之を停止した。そして轉じて全面的に軍隊に依倚して奮闘するに至つた。露國は黨人の奮闘によつて、竟によく最後の勝利に到達することが出来た。之に反し、我國が民國の名を有しながら、依然失敗を續けてゐるのは何故であるか。之れ黨員が主義の爲に奮闘しないからである。我黨は國內唯一の革命黨である。若し黨員が革命の眞の成功を望むならば、須く奮闘すべきである。然らざれば成功の望は無いであらう、従前黨員は外部に出て宣傳し、主義發輝の爲に非常に勇躍したものである。然るに成功後、此等の事は無効である。須く軍權を掌握して後、奮闘を言ふべきであるとなすに至つた。此種の觀念は全く錯誤である。今日露國の革命成功より觀察するも、我々は軍隊による革命の成功は成功にあらずして、黨人による革命の成功が眞の成功なることを知らなければならぬ。今こそ我々は其の然る所以を曉らねばならない。今日の情勢より考察すれば、我黨の黨員中、熱心なる者が、出でて軍權を握らんとすれば、其の人無しと言ふ譯ではない。然るに事實に於ては



私利を謀る者が、熱心を装ふて軍權を爭奪し、軍事隊を知らざる者が殺人事業に懸命となつてゐる。即ち現今手に一萬數千の兵を握る程の者は、悉く利を以て結合し、彼等の中、主義を以て部下を感化せんとする如き者に至つては極めて少數である。更に又現情より觀るに、兵士は戰地に臨んで、賞が有れば能く敵に勝つて城を破り得るが、賞が無ければ敢て進もうとしない。偶々賞無くして戰ふ者があれば、それは自己の地盤が瘠貧の地である爲に、より富裕なる地盤を占領する必要に迫られてゐる如き種類のものである。之を以て見ても、現在の軍隊の奮闘は官位を上げる金を儲けんが爲のものであつて、昔日の黨員が専ら主義の爲に奮闘したのとは大なる差異がある。故に今日軍隊のみに頼つて革命を成功せしめんとすることは、希望甚だ薄弱である。故に必ず先づ現在の將士の陞官蓄財等の私利私慾の思想を艾除し、彼等をして遠大なる志望を有せしめなければならぬ。従つて黨員として今日なすべき第一の工夫は、先づ法を設けて西南政府旗下の軍隊を感化し、彼等をして完全に變じて革命黨員となり、一致して三民主義の犠牲たらんことを思ひ、陞官の蓄財とを願はざるが如き者たらしめなければならぬ。斯くすれば軍隊と黨員と互に相扶けて奮闘し得ることとなり、革命の成功は期して待つべきであらう。元來軍隊の奮闘には多少の訓練があるが、黨員には毫も訓練がない。之が黨員の缺點である。黨員が其の能力を運

用し、出でて他人を感化することは、恰も軍人が戰場に臨む様なものであつて、軍人が先づ砲彈の效力、其の用法等を知る必要があると同様、黨員も亦必ず先づ三民主義と五權憲法との内容如何を知り、然る後出でて之を宣傳に用ひてこそ、初めて效力を生じ、能く他人を感化し得るのである。砲彈が敵を降し得るのは、其の有する殺人能力によるものであるが、三民主義と五權憲法との效力は、之に反して人を生かすことにある。即ち革命主義は「生人」を以て究極の目的とするものである。故に必ず敵の情勢を周知し、士農工商の狀況を明知して後之に對するを要し、而も之を殺さずして之を生かさなければならぬものである。如何にすれば之を生かし得るや。須く其の苦痛の在る所を知り、方法を案出して之に主義を適用しなければならぬ。斯すれば能く敵に勝つて善果を收め得るであらう。之れ實に無敵の雄師であつて、何人も抗し得ないものである。要は我黨が能く之を善用し得るや否やに在る。農に遇ふて之れに苦痛解脱の方法を説けば、農は必ずや悦服するであらう。士工商各種の人物も亦皆然りである。如何なる方法を用ひ、如何なる力を用ひ、又如何なる方面に行くにも、必ず三民主義と五權憲法とを知らなければならぬ。之れ既往と將來とに於てするに非ずして、現在に於て最も良好なる國家を造成する所以である。



建國の方法に二つある。一は軍隊の力であり、二は主義の力である。我黨は従前兵力を有しなかつたが、現在稍々之を有するに至つた、然し兵力よりすれば我黨は常に薄弱であり、敵は常に強盛である。曾て我黨の大敵たりし滿洲政府も、兵力は我よりも強盛であつた。而も我黨は能く之を覆滅し得た。次で袁世凱、馮國璋等をも倒した。現在の敵は曹錕と吳佩孚とである。試みに問ふ、彼等を打倒し得るや否や。歴史に照して觀察するに、必ず其事は可能であり、只だ時間の問題であるに過ぎない。然し曹と吳とを打倒し得たとしても、それは恐らく革命の成功とはならないであらう。何となれば彼等を打倒する手段が、單に軍隊の力にのみよるものだからである。試みに見よ、清朝、袁、馮倒れて後革命は成功し得たかどうか。之より推して考ふるも、我々の前途の極めて危険であることが知り得られる。今後は先づ常に、軍隊によつて革命を成功せしめんとする觀念を打破すべきである。何故かと言へば、軍隊には宣傳の感化を受くる暇が無く、熱心なる主義の信奉者も、兵を帶ぶれば環境に同化され、久しからずして私利を貪る人と變つて了ふからである。軍隊が數年來、未だ能く革命軍たり得ない原因は實に茲にある。無智なる者は軍隊の戦勝を以て革命の成功なりと心得てゐるが、此の觀察は謬つてゐる。革命は救人の事であるが、戦勝は殺人の事である。即ち軍隊の奮闘は出でて人を殺し、黨員の奮闘は出でて人を救ふことを意味する。

とを意味する。

然し乍ら革命には必ず其の手段として軍隊を用ふる必要があるものであつて、之れ殺人の器を以て救人の具たらしめんとするものである。現今殺人は軍隊の仕事であり、救人は黨員の仕事となつてゐる。然るに十餘年前には軍隊を以て障壁を排除し、滿洲政府を覆滅した。之れ用兵の當を得たものである。清朝覆滅後に於ては、轉嫁すべからざる責任として、黨員は應に救人の事に盡力すべきであつた。而も彼等は竟に其の責任を負はずして、高尚なる者は政治の事は問はざる旨を宣言し、劣等なる者は只だ陞官と貨殖の事のみを念願し、斯て愈々情勢は悪化し、竟に革命てふ名詞は其の尊嚴さと神聖さとを失ふに至つた。其の咎たるや實に革命黨員が、去つて革命の爲の奮闘と工夫とをなさざりしに在る。

今回の改組は、黨員各自を改めて革命の爲に奮闘し、工夫せしめんが爲である。然して革命の爲の奮闘と工夫とは、必ず常に一定の方法に依るべきであつて、其の方法は須く訓練によるべきである。古人云ふ「民を教へずして戦ふは、之を棄つるなり」と。眞に至言である。黨人が主義の爲にする奮闘も亦然りである。即ち必ず先づ自己が訓練を受け、然る後初めて出でて能く他人を感化し得るものである。現在我黨は黨員の訓練を實行し、彼等をして出でて奮闘せしめんとし



つつある。以前の黨員には訓練が無く、之が爲に其の奮闘の成績が甚だ微弱であつた。殺人の事に至つては一層訓練を必要とする。我黨員の奮闘の武器は、三民主義と五權憲法とである。諸君は皆今回の改組に賛成された者であるが、試に問ふ、三民主義と五權憲法とに對する理解を有するや否や。曹錕を打倒せる如きは、未だ以て我黨の成功となすことは出来ない。何となれば我黨の主義とする所は、一二の軍閥を打倒し得たことのみを以て、事終れりとなすものではないからである。然らば眞の成功とは何ぞや。之が爲には必ず黨員悉くが奮闘し、其の結果として能く主義を實行し得る域に達しなければならぬ。之れ即ち純然たる宣傳の方に依るものであつて、軍隊は砲彈を以て出でて奮闘するが、我黨員は主義を以て出でて宣傳するのである。其の革命たるや同じであるが、其の結果としての成功に至つては大なる差異がある。革命の成功は殺人にのみ依り得るものでなくて、何よりも當に救人に依らなければならぬ。而して人を救はんとせば、先づ第一に全國民が能く自らを救ひ得なければならぬ。更に又全國民が能く自らを救はんとせば、須く其の多數人が人生の道理を明白に知らなければならぬ。

我が黨員には多數の華僑があるが、試みに問ふ、華僑なるものは何故に存在するか。之れ内地に於ては生活し得ざる爲、海外に出でて生活を謀らんとするに因るのである。香港より出稼に行

く者の總數は、過去二十ヶ年間、毎年多ければ四五十萬人に達し、現在でも増加はしてゐても、減少はしてゐないだらうと思はれる。此等の出稼人の多くは、他人に船賃を借り、豚の如く其の身を賣つた契約労働者（猪仔）達であつて、乗船すれば既に不快を覚え、下船して更に不快となり、農園又は鑛山に送られて労働するに至つては、非常なる苦痛を受けてゐるのである。彼等に何が故に來つて苦しみを受くるのかと問へば、一樣に内地に於ける生活の道が絶えたからだと答へる。斯くて毎年四十萬の出稼人中、歸國する者は四萬人に足らない。即ち十人の中九人迄は海外に死し、其の骸骨さへも歸國し得ないのである。此等は最も苦しい者達であるが、幸に偶々親友が有つて、出資して身受けし、苦海から救ひ出さんとする者も有るが、能く其の目的を達して救はるる者は僅に二人に過ぎない有様である。然るに我が革命黨の救人は全部的救人を謀るものであつて、華僑は勿論、推して全國民衆に及さんとするものである。諸君も承知の通り、南洋群島は皆會つて是一片の荒土であつたが、我中國人が其の草萊を開き、荒地を開墾し、以て生活を謀つたのである。其の間遇々富を致し得た者も無いではないが、其數は極めて少數である。我國には荒地と鑛山とが甚だ多いが、依然として此等の地の利が開かれないのは、之を爲し得る良好なる政府が無いからである。然るに今革命の方法として、全體の人民を救ひ、良好なる



政府を組織せんとしてゐるのである。只之が爲には先づ多數人が、主義の何たるかを明確に知り尙前記の方法の如何なるものなるかを了解しなければならぬ。斯くて初めて能く之を救ひ得るであらう。故に我々は先づ陳逆を打倒して惠、潮、梅の地を回收し、全省を統一して、進んで全國を統一し、更に進んで主義の實行に當らなければならぬ。

十二年前、軍力は成功したが、主義の實行は不可能であつた。そして人民の苦痛は愈々甚しく之が爲に知らない者は其の咎を革命黨に歸した。試に問ふ、革命黨たるもの、能く之を甘受し得るや否や。執れにしても世人の受くる苦痛が其の深酷の度を増した事だけは事實である。以前は強盜は甚だ少なかつたが、現在では偏地皆之れである。此種現象は皆、黨人が奮闘をやめた結果である。然らば奮闘して人を救ふ方法は如何と言ふに、廣東に付いて之を言へば、其の三千萬人の民衆の半數だけが、能く我黨の主義を了解し、我黨の感化を受けて、始めて我黨は目的を達し得るのである。故に我黨が起つて救人の事をなさんとせば、先づ須く主義を明かにし、社會状況を明白にすべきであつて、斯くて後始めて人民を我黨の主義に合せしめ得るのである。之れを軍人の射撃に譬ふれば、彈が命中すれば其人は必ず死傷する。黨員の主義の宣傳も能く夫れが人心に入れば、其人は必ず多少の感動を受くるものである。然るに感動する者と感動せざる者と

が有るのは何故かと言ふに、感動を受けない者の場合には、何等かの障礙があるのである。譬へば射撃相手たる人が一つの大きな石の蔭に立つてゐる様なもので、斯様な場合には命中しても死傷しない。故に若し其人に障礙があれば、言ふ所も必ず其の心には入らないであらう。であるから隨時各個人の周囲の状況其他を考察する必要がある。凡そ人には皆其の主義とする所があるものである。金儲を例として言へば、之は各人總ての欲する所である。而して我黨人の救人も亦一種の金儲主義であつて、只、常人は自己個人の金儲けを欲するが、我黨は總ての人々の金儲けを欲すると言ふ相違があるだけのことである。今日自己の爲に金儲をしようとする者は、如何なる冒險をも敢てする。南洋華僑の契約労働者達を見ても、彼等の冒險性は軍隊よりも更に強大であつて軍隊の死亡も彼等程多くはない。而も自己の金儲の爲とあらば、彼等は甘んじて之を爲し、之を爲すことを樂しむと言つた有様である。此の金儲主義は實に我黨の主義と背馳しないものであつて、異なる點と言へば、彼は自己の金儲を謀り、此は萬人の金儲を欲することである。人を損つて己を利し、以て貨殖するが如きことは、我等黨人の爲さざる所である。我黨は須く萬人をして金儲をなさしめねばならぬ。斯て始めて成功と言ひ得るのである。従つて各界の人士に向つて「諸君が眞に金を儲け様と思ふならば、必ず先づ總ての人々に金を儲けさせる事を考へねばならぬ。



何となれば、諸人が金儲をしてこそ、始めて眞の金儲の目的が達せられるからである。故に之が爲には、先づ良好なる政府を組織しなければならぬ。即ち此の主義に基いて政府を組織してこそ、人皆が其の金儲の目的を達し得るものであることを、諸君は知らなければならぬ」と説かねばならぬ。

古代草莽の英雄は、威力を憑んで出でて革命に従事し、之に順すれば生き、之に逆へば死んだ。之が即ち家を化して國となす革命である。我黨の革命は之と異り、民意を根本とする革命であり、實に國を化して家となす革命である。今や我國は已に群雄割據の局面をなし、單に革命黨の兵力のみを以てしては之が統一は實現不可能である。革命黨の兵力が甚だ薄弱だからである。兵力に付て論ずれば、之に依て得られた成功は非黨員の成功に外ならない。然らば我黨の成功を確定的ならしむる所の實證は何であるかと言へば、それは則ち革命勢力の如何である。之を山上の大石に譬ふれば、動かなければ問題はないが、一度動けば轉落して山麓に至つて始めて止るであらう。革命の力も同様であつて、一度發動すれば止めんとするも能はざるものである。露國の革命は六年にして成功したが、吾國の革命は十二年を経て今尙ほ成功しない。之は何が故であるかと言ふに、我黨の組織方法がよくない爲に、何等の效果をも擧げ得ないのである。佛蘭西の革

命は八十年にして成功し、米國は八年の革命血戦を経て始めて獨立することを得た。此等は必ず成功すると言ふ革命の方法がなかつたからであるが、現今露國のみは此の方法を持つてゐる。我黨は是非此の法を學ばねばならない。即ち黨人各個が主義の爲の奮闘を實行し、軍權の掌握に汲みたることなく、軍權は之を監督して自己の爲に利用する程度に止むるのである。露國革命の成功は其の全部を兵力によつたものではなくて、實に宣傳の力によつたものである。

我黨は兵力は他に劣つてゐるが、只主義のみは他に比してより高尚であり、久しく國人の信仰する所である。已に國人の信仰する所である以上、苟も我黨員が其の聰明なる能力を盡して之を説明したならば、其の感化を受けない様な人間は無い筈である。諸君が良法を考へ出して、多數の人間をして三民主義と五權憲法とを明瞭ならしむるならば、兵力革命によらずとも、必ずや成功し得るであらう。露國の軍隊は能く外國兵までも感化し得てゐる。然るに今日我々が敵としてゐる所は只自國兵のみであつてみれば、どうして之が感化が不可能であらうか。嘗ての廣州新軍の役と武昌の役とは、其の明かなる證據である。故に我黨が此の力を用ひざれば止むも、一度之を用ふれば、曹吳の兵、前清新軍等の例に比して、我黨は事半にして功之に倍するを得るであらう。此故に我黨は日々須く宣傳方法を學習し、又時々之が訓練をなすべきであつて、訓練熟して



後は一切に戦勝するを得るであらう。現今雲南軍は善戦を以て聞えてゐるが、其の兵士は毎日三度の訓練と二度の講義とを怠ることがない。

我黨の主義は國人各個の希望の集成であつて、總ての人の金儲を企圖するものであり、他人を損ひ自己を利して、金を儲け様とするものではない。彼の英米佛の各國人の生活程度は吾人に比して優れてゐるが、之は良好な政府があるからである。即ち彼等の政府は常に人民の爲の幸福を謀り、災害があれば之が防止をなし、利益があれば進んで之を圖り、爲に人民は充分に其の生活の資を得ることが出来るのである。我黨人は日々出でて主義の講演をなし、若し賛成しない者があれば、其間に如何なる障礙があるかを考察し、隔週一度、來つて學習し、此の期間内の工作の結果を報告し、次の期間内に於ける研究題材を定め、材料の蒐集と討論とに便する様にしなければならぬ。之は軍隊の戦争と同様であつて、戦つた後には彈丸の補充をしなければならぬのである。即ち黨員が出でて宣傳に従ふ場合も、隔週一度其の材料を補充したならば、宣傳事業も自然容易に著手し得るであらう。三民主義と五權憲法とは、本來余が初めて之を提唱し、發明したものであるから、之が解釋も亦一に余の解釋に依つて、始めて誤り無きを得るのである。之を譬へて言へば、余は諸君等の爲に兵機工廠の役目をなすものであるから、諸君等の爲には極力宣

傳兵士の武器たる材料を供給するであらう。

## 一を以て百に當る革命軍

——民國十三年元旦、觀音山衛兵に感狀授與の訓辭——

今日表彰式を執行し、嘗つて觀音山の戦に戦功ありし諸衛兵に感狀を授與する。これは、本大元帥、親しく賞を行ふ最初のものである。本大元帥が執政以來親しく將士を表彰した事のないのは、滿清顛覆以後、我が軍士の奮闘に從來と大いに異なるもの存するが故である。黃花岡、武昌鎮、南關河口等幾度かの擧兵の如きは、我が人數はみな極めて少數ながら一度起てば數百人を以て數千人或は數萬人と戦はざるはなかつたのである。その後、これと同様に奮闘を繼續し得なかつたが、近來、これと同様に奮闘せる軍隊としては、ただ觀音山の衛兵を擧げ得る。故に今日論功行賞せんとするものである。果して、觀音山の衛兵は行賞に値するものであらうか。陣烟明が叛亂を爲したその夜、我が觀音山の衛兵は僅かに五十餘人、その武器もただ銃三十挺と彈丸一萬餘發に過ぎなかつた。叛軍の最初に攻撃し來つたものは、一千餘人であつたが、久しからずして楊坤如の一千餘人、更に其の後に至つて他の叛軍一千餘人が参加し、合計四千餘人が觀音山を夜



より翌日にかけて攻圍し、十數時間、毫も間斷なく攻撃したが、いづれも攻め落し得なかつた。其の後、我軍は彈丸を打ち果してから安全に退却したのである。かかる奮闘的精神は眞に近來絶えて見ざる所である。今、這般の東江の戦争とこれとを比較せよ。東江の戦は、二ヶ月前には我軍は三萬餘人を擁し、惠州博羅に於いて敵軍二萬餘人を敗る事を得なかつた。現在敵の残軍の東江に散在するものは數千人に過ぎず、我軍は三四萬人を有し乍ら、一向前進するを得ないのである。かく述べ來つて、觀音山の衛兵と比較するに、眞に日を同じうして語るを得ない。我は嘗つて、常に人に向つて、革命軍の力は、他の軍隊とは同一でない、よく一を以て十に當る事が必要で、それでこそ合格である。數百人を以て敵の數千人に當り得る、それは當然の事であつて、若しそれが不可能ならば、革命軍と稱するを得ない、と云つて居るが、昨年の觀音山の衛兵は實に一を以て百に當る革命軍であり本大元師の褒賞に値する所以である。民國成立以來、此の觀音山の衛兵のみは、我が理想的の革命軍として擧ぐるに足るものであり、この奮闘的精神は、實に磨滅すべからざるものである。故に、今日、民國十三年元旦を選んで、各勇士を褒賞して、大紀念となすのである。望むらくは、我が軍人全體が今日より、吾黨從前の革命的精神を恢復して、一を以て百に當り、國賊と奮闘し、必ず今年内に軍閥の一掃と民國の統一を期せられんことを。

## 一 全大會開會の辭

——民國十三年一月二十日——

列席の代表同志諸君。今日これより中國國民黨大會を開催する。この大會は、我黨が民國となつて以來最初の大會であり、また、革命黨あつて以來最初の大會でもある。我が革命黨は、三十年の年月を費し、幾多の熱烈なる心血を流し、無數の聰明なる人材を犠牲にし、始めて滿清を顛覆し國體を變更し得たのである。併し乍ら、この三十年間吾人は國內に於いて、國民黨全國大會を開く機會がなかつたので、従つて、今日のこの盛大なる會合は、我黨の開いた大會の最初のものであり、また中華民國に新紀元を劃するものである。

革命黨が滿清を顛覆した第一次の成功は武昌革命であつて、其の日は双十日（十月十日）であり今日は民國十三年の一月双十日（二十日）である。故に此の會期は武昌起義と日時を同じくし共に民國の極めて記念すべき日である。嘗つて革命黨は滿清を顛覆し國體を變更したとは云へ、併し十三年このかた、革命の主義は一向に實行を見ない。即ち革命が未だ成功して居らないのである。其の最大の原因は、當時の革命黨が、外部的には外國が富強であつて中國は衰弱し凌辱せ



られ、内部的には滿清の專制を受けて奴隸となり、岌々乎として亡國滅種の憂あるを以て、一時に良心を喚起して國家を救ひ民族を保たんとし、單に革命に非ざれば不可なるを知つて、革命が何時成功するであらうかを知りもしなければ、成功後一體如何なる計劃方針で國家を建設すべきかにも想ひ到らず、ひたすら各人の良心の命するがままに従つて成敗に關りなく、各自其の力によつて國のために奮闘し、滿清を顛覆した爲で、斯かる活動は所謂各自が個々に戰をなすもので集團もなく紀律もないものである。故に、滿清は顛覆したけれども、十三年來何等の結果を齎らさないのである。従つて吾人の革命は失敗と言はねばならない。

現在吾人は廣州の地を得て、各省の同志が集合し一堂に會合してゐるが、之は極めて得難い機會である。從來吾人は斯かる大會を開催せんとするが如きは、思ひもかけぬ事であり、吾人の黨務が畢竟如何に進行するかにも思ひ及ばなかつた。之れは滿清官僚から欺瞞されて居たからである。では吾人は滿清の官僚からどんな欺瞞を受けて居たか。一般の同志は頭が非常に簡單で、武昌起義以後各省が一致して革命に賛成し、從來は反革命派の官僚も亦革命に賛成したのを見、更に此のため少數の革命黨が多數の官僚に包圍され、之等の官僚が「革命軍起つて革命黨なし」と説くのを聞き、革命黨迄も此の言論に賛成してしまつた。此處に於いて一同聲を齊しくして附和し

現在の軍閥の世界を造りあげ、爲に革命の成績には見るべきものがなく、革命黨は今日に至るまで失敗したのである。之れが吾人の失敗の大きな原因である事を今日諸君一同は悟つて、此の言葉が正しくなく、まさに「革命軍起つて革命黨なる」と云はねばならぬ事を知らねばならぬ。故に今日よりは、以前の革命精神を恢復し、國民黨を改組しなければならぬ。之れはすべて、吾人が、國家を改造せんとするには極めて有力なる政黨に非ざれば成功せざること、非常に正確なる共同の目標がなければ美事に改造し得ないことを知つたからである。余は以前中國が甚しく紛亂し、民衆の知識程度が甚しく幼稚であつて國民に正確な政治思想のないのを知り、よつて「以黨治國」を主張した。併し今に到つて考へると、此の言葉は未だ、甚だ尙早であつたと感ずる。現下の國家は、なほ大いに混亂し、社會は却つて退歩してゐる。故に現在革命黨の責任は、矢張り先づ建國に在つて、なほ未だ治國までには到つてゐない。嘗つて革命黨が滿清を顛覆したのは清朝の大皇帝を推し倒したに過ぎず、大皇帝を倒した後には、無數の小皇帝が生れ出た。多くの小皇帝は舊によつて舊の如く專制であり、しかも従前の大皇帝に比較して却つて暴虐無道であつた。故に中國の現在は、依然として英國や米國の如く黨を以て國を治むるを得ない。今日民國の基礎は少しも鞏固ではない。吾人は更に一番の努力をして國家を再造しなければならぬ。而して



後に、民國の基礎は鞏固になるのであつて、此の民國の基礎を鞏固ならしむる事が、即ち吾人今日の任務である。今日、同志諸君が此處に開かれた大會は、尋常の集會とは性質を異にしてゐる。今日此の大會は、普通の懇親會でもなく、平常の討論會でもなく、また各地の問題をとりあつめる會でもない。では如何なる會合であるのか。吾人は十三年此のかた、政治上種々の經驗を得、種々の方法を發案した。中國の國家を看れば、よくはないけれども、國務は以前に比して退歩して居るけれども、併しながら中國にはまだく方策もあつて、立派に建設し得る事が、了解される。革命黨は三十年來、良心の命するままに、成敗を問はずに革命に赴き、革命成功後の國家に就いては如何なる方法を以て建設すべきかを知らずに現在に及んだのであるが、吾人は既に實行方法を得るに到つた。今回各省の同志を召集して廣東に此の大會を開催した所以は、即ち其の方法を諸君の前に公表して採用するにある。而して大會開催に先きだつて、既に臨時中央執行委員會を組織し、其の委員會に於いて長時間に亘つて準備した方法を今日より逐日提出し、諸君が研究して、之れ等の方法に賛成せられん事をお願いする。諸君は之れ等の新方法を會得されたなら、各地に之を持ち歸へつて實行されねばならぬ。之れ等の新方法の由來は、本總理が、先進の革命國家と後進の革命國家とが、其の革命成功以前、或は成功後に得た所の種々な革命手段を

参考比較し、細心に斟酌を加へて、漸く出來たものであつて、其の中に不完全な個所のあるのは免れない所である。故に更に此の大會を開催して諸君の充分なる研究を請つた後、諸君の賛成を得て、各地方に赴いて實行に移し、同心協力國家を建設せんとするものである。今回の國民黨の改組には二つの内容がある。第一は、國民黨を改組して、國民黨を再び一個の有力なる、具體的なる政黨を形成する様に組織すること。第二は政黨の力を以て國家を改造すること之れである。故に今回の國民黨改組は、第一は國民黨の組織變更問題であり、第二は國家改造の問題である。今度の大會は僅かに十日間限りである。十日間の日數は極めて短少である。余は諸君が時間を愛惜し此の大會の意義を理解せられん事を希望する。もし一層好い意見を有せらるる時は討論の際に提出して、其の中に生かして頂きたい。併し諸君は、會期が頗る短かい事を知つて、必ずともに時間を愛惜されたい。問題を研究するに當つては、須らく各人が心を虚しくして、無意味な問題を以て議論を挑撥してはならぬ。もしも、無意味な論争が生じ來るならば、大會の大問題はとも十日では解決せず、吾人の此の大會の成績は不良に終る事を恐れるものである。よつて吾人は之を豫防し警戒しなければならぬ。

吾人は、黨の改組、國家改造の二問題以外に別に諸君の注意を要する一つの問題を有する。即



ち以前我黨が鞏固でなかつた點である。之れは、大勢力を以て吾人を打破する様なそんな敵が有るからではない。全く吾人自らが自らを破壊して居た爲めであり、吾人同志の思想見識があまりに幼稚で、常に謂れもない誤解を生じたのによる。故に、黨全體としての團結力は非常に散漫微力で、革命は常に此のために失敗したのである。吾人は今後、團結一致しなければならぬ。すべて、自己の聰明才力は黨に貢獻するを要する。自己の聰明才力は個人の用に歸してはならぬ。黨内の用に歸せしめねばならぬ。諸君一同が團結して黨の爲め、國の爲め、目標を一にし、歩調を一にする。かくの如くに行へば始めて成功し得るのである。政黨として最も緊要な事は、各黨員が一種の精神的結合をする事である。諸君黨員が精神的に結合せんと求むるならば、第一に自由を犠牲とし、第二に能力を奉仕しなければならぬ。如し果して個人がよく自由を犠牲にし得れば黨全體はまさに自由を獲得するだらう。又個人が其の能力をあげて捧げるならば、それこそ黨全體はよく能力を有するに至るだらう。相並行して全黨を自由ならしめ、能力あらしむるに至つて後にこそ、革命の大事業を負擔するを得、國家を改造する事が出来るのである。我黨以前の失敗は各黨員に自由があつて黨としての自由がなく、各黨員に能力があつて黨としての能力がなかつたからである。中國國民黨の失敗せる所以はここに原因する。吾人が今日改組するには、先づ

この缺陷を除去しなければならぬ。

我黨が今日ここに全國代表大會を開會するに當り、各代表者諸君に希望する、自己の能力と各地方の能力とを全部黨内に投入して、一個の大きな力をつくりあげ、以て國家を改造せられんことを。然らば疑ひもなく成功するだらう。必ずや今年内に成功し得るだらう。今日の此の大會は民國開國以來第一回目であり、中華民國將來の歴史中の大なる光榮である。余は諸君の努力によつて、此の十日間になさねばならぬ事が完全にその目的を達する様希望するものである。

## 一 全大會閉會の辭

同志諸君、今日は吾人國民黨代表者大會閉會の日であり、また本大會最後の一日である。開會以來、處理した重要事項は、書記長が只今報告した通りである。會期中處理した重要事項で即刻宣傳材料としなければならぬものは、中國國民黨第一回全國代表者大會宣言である。宣言全體は三段に分れて居り、第一段は中國國內の現状、第二段は我黨の三民主義の解釋であつて、この一段は宣言中に於いて、最も重要なものである。何となれば、吾人の主張する三民主義は永久不變のもので、諸君一同が始より終までこの主義を實行するを要するからである。同盟會の成立以前



から既に確定し、同盟會が成立しても、この主義を實行せんとしたものであり、其後滿清を顛覆して民國を建設するに至つても亦この主義を實行したのである。併し乍ら、民國成立以來今日に及ぶまで既に十三年を経過したが、未だ完全にこの主義の目的を達成してゐない。その原因は何處にあるのか。一は吾人の實行方法が不完全であつた事、二は同志諸君が同心協力して一致の行動をとるを得なかつた事にある。吾人は今回は全國代表者大會を開催し、一個の完全なる實行方法を定め、同志の歩調を劃一にし、更に黨内の紀律を決定したのであるから、一同は三民主義を遺憾なく實行し、この主義の言論を必ず事實たらしめなければならぬ。この主義の由来を推究するに、これは余が嘗つて同志諸君と幾多の討論研究の後、漸く確定したものである。革命黨の成立以前には、少數の同志の賛成を得て實行に移し、その後革命黨が成立してからは、今度は多數同志の賛同を得て實行に移して、今日に到つた。即ち極めて多數の先覺者が賛同し實行したものである。之に由つても、我黨の三民主義が、始終變る所なきものである事を知る事が出来る。諸君は、三民主義に對して、今後は心より悦んで服従し、之が實行の責任を完全に負擔するを要する。

宣言中の第三段は、我黨の政綱であり、三民主義を實行する節目である。吾人は、三民主義を

實行せんとするからには、中國の現状に照し、人民の要求により、この政綱を規定せざるを得ない。人民の爲し得ない所を吾人が彼等に替つて行ひ、人民の権利のない所を吾人が彼等に替つて争はんとするのである。故に三民主義は人民のために作られ、人民のために幸福を求めらるものである。政綱は既に人民の要求によつて規定されたもので、今年人民に或る要求があれば、吾人はそれによつて、政綱をつくらねばならぬ。もしまた明年人民に別の要求があれば、吾人の政綱も彼等の新要求に伴つて新に規定されねばならぬ。併し人民の要求は短期間中には決して大變化はない。故に吾人の定めた政綱は、尠くも一年間は維持するを要し、この一年間は、一同は遵守して一致の行動をとり、定められた條件に従つて實行しなければならない。吾人が此の大會に於いて定めた政綱には、或は至り及ばなかつた點もあらう。諸君も今後自分等の定めた政綱に對して、新見解がないとは、どうして云へよう。故に今回規定したものは、完全周到であるとは言ひ得ない。併し、諸君にして若し新見解を抱いたならば必ず明年開かれる第二回大會をまつて修正しなければならぬ。第二回大會以前に於ては、吾人が此の大會に於いて規定した政綱に萬が一にも違背してはならぬ。若し違背する者があれば、それは大衆の歩調を亂るものである。而も、此の大會で定めた政綱は、既に臨時中央執行委員會で長らく研究され、また更に大會に於いて、



諸君の聰明と才力とによつて定められたもので、規定された條件は、今年内に實行を要する方法を豫じめ計劃したものである。吾人の、この一ヶ年間に於ける行動言論は、此の實行方法と符節を合しなければならぬ。若し然らずとせば、此の方法も効力はない。此の方法が効力を失ふならば、それは今回の大會の事業を無駄にするものである。政綱と主義とは元來異なるものである。主義は永遠に變更する事能はざるものであるが、政綱は隨時修正し得る。併し修正變改の時期は非常に重大な事件を除く以外は尠くとも一ヶ年を経過するを要する。政綱に對して根本的な變動が發生した場合には、吾人は臨時に特別大會を召集して修正變改すればよろしい。之によつて、政綱の修正變改には一定の時期が有る事が判明する。何となれば一定の時期を豫じめ定めておけば一同の進行の歩調が、秩序を保ち紛亂を醸さないのである。我黨の黨員は、從來政綱に氣に入らぬ點があると、其の行動は立ちどころに政綱と矛盾を來した。之れが我黨の自ら亂れた大缺點であつた。今後諸君一同は、此の缺點をどうしても除去しなければならぬ。同志諸君、以後は假令政綱に氣に入らぬ點を見出しても、或はまた途中で、新見解を得ても、或は特別に聰明なる人が、ある場合、政綱中に不合理な個所を發見しても、一切勝手に改め勝手に行つてはならぬ。一人二人の勝手な行動は、全黨の一致の行動を亂してしまふのである。

黨員の活動は軍隊の活動と同様である。軍隊の活動する際は、司令官の命令が間違つてゐても兵士はみな服従して、命令に基づいて前進しなければならぬ。若しみなが前進し得れば、間違つてゐるなら間違つて居るなりに、それでも亦戦に勝つ事も出来る。若し一部の軍隊が命令が正しくないのを知つて單獨行動をとつて全軍を牽制し、一致して前進する事が出来ぬならば、その結果は前後首尾相顧みる事能はず、自ら戦線を亂して敵軍から各個撃破を蒙り、全軍遂に覆没してしまはねばならぬ。我黨の黨員は常に自分では「こうだ」と思ふと獨斷專行してしまふ。故に全黨の精神は非常に散漫で革命事業は成功し得なかつたのである。今後は革命事業を完全に成功せしめんとするならば、同一一致の行動をとり固く精神を結合するを要する。根本的に言へば革命事業は一同の仕事であつて、一個人の事ではない。既に一同の事であるからには一同の同心協力が必要とし、それでこそ實行し得るのである。若し同心協力し能はぬならば永遠に實行不可能である。故に今回定めた所の政綱は、我黨の臨時號令であり、尠くも一ヶ年は行はねばならぬ。此の一ヶ年間に在つては一二黨員の實行を求めるのではない。全體が共同して實行する事を要する。一同共同して實行するには、一致の行動を必要とする。一致の行動、之れぞ黨員の道徳である。吾人は今回廣東に於いて大會を開催し、新に國家の現状を研究し、新に三民主義を解釋し、



新に國民黨全體を改組したのである。今後は、一同各々別れて各地方に赴かれるのであるから、一致奮闘せらるる事を希望する。活動の方法は、中央に在つては中央執行委員會を、各地方に在つては諸君が區委員會、或は地方委員會を組織し、我が國民黨を全國に擴張するを要する。諸君、今回は、千里萬里を遠しとせずして來會され、此處に十日間の大會を開き、數多の試案を議決し最早や活動の任務を受け、活動の材料を得られたのである。散會の後には、之れを各自自己の土地に持歸つて、まさに各地の同志諸君に分與し、同志諸君をして、此の材料を以て方面を分つて奮闘せしめなければならぬ。故に、今回の大會は、あたかも一大軍事會議の如きもので、種々の作戰計劃を定め、數多の攻撃命令を下し、各隊將に作戰を實行せしむると同様である。又あたかも一大造兵廠の如きもので、許多の銃砲を製し、多數の彈丸を作つた。諸君は此の多數の銃砲彈丸を持つて、各自の地方に歸つたならば、同志諸君に之を分配し、彼等に補充してやらねばならぬ。同志諸君は此の補充を得た以上、攻撃を實行するを要する。此の補充を空しく消耗してはならぬ。攻撃を實行する際は、必ず審らかに敵情を明察し、臨機應變敵に對してよく效を奏しよるとすれば、此の補充を無駄に浪費しない事である。

今回の大會は、第一回の試であつて、中央執行委員會は中央の事務を處理することを決定した

に止るから、各地方の委員會と、各地方の事務に就いては、諸君が各々分擔して處理される事を要する。中央執行委員會の顔觸は、多數同志の推舉により、更に本總理が大會に提出して、通過したものであるが、諸君は、たゞ中央執行委員會の委員のみがよく事を處理し得るのだと考へる事は出来ぬし、本總理のあげた人物のみが、よく事を處理し得るのだと考へる事も出来ない。同志諸君の中には、多數の有能な人で、今回の委員の顔觸れから洩れてゐる者も自然非常に多い。諸君にしても果して立派に事を處理し得る人である事を知られたならば、次回の大會に於いては推舉し得られるのである。吾人は委員になつたから始めて仕事をするとか、また委員にならぬから仕事が出来ぬなどか云ふ事は出来ない。只、要は、一同各自の責任を盡して實行し、各自の能力をつくして奮闘すれば、みな夫れで仕事をしてゐると言ふべきである。仕事をするといふ事の結果に説き及ぶと、現在の處、誰が仕事をなし得る、誰は仕事を爲し得ないなどと豫想する事は不可能である。ただ諸君は必ず成績をあげ、黨内に寄與しなければならぬ。來年、再び大會を開催する際には諸君の將來の成績如何をも決定するであらうから、散會後、努力奮闘せられたい。來年大會開催の時に到つて、自己の活動の成績をすべて大會に報告し、一同をして比較せしめる。其の時こそ吾人は誰の成績が最も勝るかを知るのである。何となれば成績は活動によ



つて生ずるものであるから、もし多数の人々が奮闘せぬならば當然成績はあがらぬ。もし一個人が力か盡して奮闘するならば、其人は好成绩を得るであらう。奮闘し得るか得ないかは、武器を有するか否かによる。諸君の大會よりは既に極めて多くの武器を補充した筈である。之を各地方に持ち歸つて、力を盡して奮闘するならば將來の成績は必ずや頗る立派であるに相違ない。來年の大會には、諸君の成績を比較して、誰の成績が最も立派かを知り、自然其の結果、誰の奮闘が最も多大であつたかを知る事が出来る。吾人は我黨の成績が、いづれも立派である事を求める。よつて今後諸君は一齊に奮闘せられたい。現在は最早や民國十三年、即ち國民黨が各地方に在つて、堂々奮闘せる十三年目である。然し從來の活動が不充分であつた爲め、今回の大會を開き、全黨を改組したのである。從來、活動の不充分であつた原因は、實行方法が無かつたのに由るが今日より以後は、之れを有してゐるのであるから、諸君は責任を負つて此方法を以て國人に替つて新しい希望をつくり出さねばならないのである。吾人の從來の革命は、實行方法が無かつた爲め、失敗と成功とが相半ばしてゐる。今後は充分な方法を以て革命するのであるから、一往直前すれば勝つ事は有つても敗れる事はなく、日に日に成功して、三民主義、五權憲法を全國の民衆に宣布し得、今年の内には、必ずや革命事業は、徹底的大成功を博し得るであらう。

## 一 全大會代表歡迎の辭

——民國十三年一月二十日夜——

蒙古の巴君、並に國民黨各省代表者諸君、今夕、本總理は諸君を歡迎し、また諸君と共に巴君を歡迎するものである。諸君は此の度廣東に來られて國民黨全國大會を開催されたが、本總理は諸君の振作せる精神、旺盛なる氣魄が從來嘗つて見ざるものであるのを感じる。諸君のかかる美事な精神と氣魄とは、我黨の前途に無限の希望を與へるものである。誠に我黨にとつて慶賀すべく、また民國の前途にとつても慶賀すべきことである。

吾人の今回の革命は、先づ方法を講じて然る後に始めて實行に移すものである。以前の革命は充分な方法がなかつたため、成功を告げ得なかつたが、今回は全國代表者大會を開き、しつかりした方法を定め様としてゐる。この方法を確定する以前に於て、諸君の注意すべき一事がある。それは本總理の學說と古人の學說とは同一でないこと、即ち、古人の信仰する所は「知るは難きに非ず、行ふは維れ難し」であり、余の信する所は「知るは難く、行ふは易し」であると云ふ事である。吾人の以前の革命は、元來詳密な方法とてはなく、ただ諸先烈の犠牲と諸君の努力とに



より、前者が仆るれば後者が起ち、繼續進出して、二個の重大事業を成就したのである。その一つは、滿清の二百餘年に互る政府を完全に顛覆した事であり他の一つは中國數千年來の專制國體を根本から改變した事であつて、この二つの大事業を詳密な方法のない時代に尙且つ成就し得たのである。吾人はその當時別に詳密な方法を有しなかつたため、常々人と革命を談ずる際、彼等はきまつて余にこう質問した。曰く「滿清には二十二省の土地と四億の人民とがあり、内には陸海軍の鎮壓、外には列強の援助がある。君は如何なる方法で滿清を顛覆しやうとするのか、よし滿清を顛覆し得ても、列強に對抗すべき如何なる方法を有せらるるか、御伺ひしたい」と。それのみならず、常に難題をとらへて余に「滿清は外に對しては力が不足してゐるが、内に對しては餘力がある」とか又は「吾人は革命してはならぬ。若し革命でも起せば、列強は必ず中國を分割してしまふ」などと云つたものである。吾人はその頃、滿清の顛覆に對し、また列強の分割に對して別に優れた意見を有せず、方法としては、成敗利鈍を問はず、ただ良心に問ふて行ふべきであるとし、志を立てて奮闘した。余が嘗つて英國に居た時分、或る時圖書館で讀書中、たまたま數人の露國人と談話を交へ、お互に革命の同志であることがわかつた。それで露國人が余に質問して曰く「中國の革命は何時成功するか」と。余は當時此の質問にあつて、即答することが出来な

かつた。余が其の時英國に亡命したのは最初の失敗の後で仕方なしの事であつけれども、捲土重來の意氣まさに高く、心中では一二年内には再舉しよう并希望し、再舉には必ず成功を期してゐた。然しその露國人達には、敢えて輕々返答しなかつたのである。故に最も穩健な返答として、「ざつと三十年もしたら成功するだらう」と述べた所、露國人は驚いて不思議さうに曰く「君等は、あんな大きな國で革命を起すのに、僅か三十年で成功出来るのか」と。で早速、余もまた露國人にたづねた「君達露國の革命は、何時成功するのか」と。彼はこれに答へて、まあ百年の後に成功したら我々はそれで大満足で、現在は正に奮闘の時代だ。成功は百年後であるが、現在奉闘しない譯には行かぬ。もし現在奮闘しなければ百年後になつても成功する事は出来ない。百年後の成功を希望するから、それで我々は現在努力奮闘して居るのだ」と語つた。余はその當時彼等のこの談話を聞き、自分の返答を思ひ返して見て、これではならぬと感じた。何となれば、余は最初の失敗後、中國の革命の速に成功する事を望んでゐたからであつて、外國人に對しては穩健な見地から、多く云つて三十年と答へたが、彼等の返答を聽くに及んで、彼等の計劃の更に穩健であり、氣魄の雄大なる事吾人に幾層倍なる事を知つた。故に、當時余は非常に愧づかしく思つた次第である。其の後、地球をめぐるつて、列國を週遊し、一面には各國政治の利害得失と古今



國勢強弱の道理とを考察し、他面吾人の革命運動を行ひ、約二年間を費して地球を一周した。武昌起戦に到るまでに、凡そ地球を六七回めぐつて、一つ地方へ行く毎に、きつと多數の知合ひに出會した、其れ等の人々はまた必ず余に向つてこうたづねた「我々があなたを知つてから、あなたは何遍失敗して居るか知れないのに、どうしてまあ氣も落さず、いつもこう熱心なのか、これはどういふ理由なのか」と、いつも余は之に返答するによい話がないので、余が英國の圖書館で露國人と交した談話を用ひて彼等に「余は、革命が何回失敗しようともかまはない。ただ余はひたむきに中國の革命が成功する事を希望してやまない。故にかく奮闘せざるを得ないのだ」と答へたものである。

露國人が革命を志し、百年後の成功を希望してから、現在僅かに二十數年に過ぎないが完全に目的を達成し、余は嘗つて數年後の成功を希望しながら、今は早や十三年を経過してしまひ、更に成功を告ぐることが出来ない。之れは中國人の革命の方法と氣魂とが露國人に及ばぬ爲めである。露國人はかかる氣魄と方法とを有して居た故、革命一度起つて機會を得るや、大成功を告げ得たのである。露西亞革命の成功は何故に、あの様に大きく、且つ速かであつたのか。其れは露國人の目標が穩健であり眼光は遠大に、國家の大事をなすに百年を見積り、あらゆる方

法を盡く計劃したからである。經驗が多ければ成功も速である。無論、如何なる事をなすにも、成功するには、すべてよい方法があればこそであるが、其の方法は何から得られるか。學問知識からである。先づ學問があれば知識があり、知識があれば方法がある。うまい方法がありさへすれば、革命は、一度起れば直ちに成功してしまふのである。吾人は従前、良心の命令に従つて革命したのであるが、結果について見て、露國の成功の如く大且つ速なるもの無かつた原因は、しつかりした學問、うまい方法がなかつた爲である。革命の實行に至つては、一同がみな各自に戰つてきたので、實際知らずして行つたのである。其の後、滿清を顛覆し、且つ列強の分割を免れ得たのも、全く料らずして出來た事であつて、毫も豫め豫定した事ではない。十三年このかた吾人の革命に對する知識は進歩し、數多の方法を得、かたわら、露國の好模範もある。今後の革命は、まさに先づ知るを求め、然る後に行ふ事にしなければならぬ。本總理の發明せる學説は「知るは難く行ふは易し」である。もし知る事が達成されるれば、行ふことも達せられる。以前の革命は知らずして、なほよく行つたのであるが、今後の革命は知る事を得たのであるから當に進んで行ふ事が出来る。知つた上で行ふ。かかる成功は、當然露國と同様である。即ち、これこそ吾人が今夕大々的に慶賀しなければならぬ所である。



吾人は今夕、巴君を歓迎するものである。巴君は外蒙古人である。外蒙古は民國以來中國を脱離し、内政はまことに整頓し、陸軍方面では、また頗る多數の騎兵を訓練してゐる。故に彼等は現在一個の獨立國である。今回巴君が廣東に見えられた來意は、矢張り蒙古は再び中國と聯合し、一つの大中華民國をつくりあげたいと云ふ考からである。吾人は中華民國てふ大民族で、全國人は總數四億であり、漢人は多數であり蒙古人は少數である。中國の帝政時代には、すべて蒙古を壓制せんと計り、民國時代に在つても、北京政府はまた、徐樹錚が邊防軍を編成して蒙古と戦ひ、現在は、馮玉祥が兵を率ゐて蒙古を征服せんと考へてゐる。併し乍ら蒙古は一向北京政府の兵力を恐れず中國から去つて獨立せんとしてゐるのである。吾人南方政府は未だ嘗つて、兵力を以て蒙古を征服せんとした事はない。尙ほ且つ今夕、巴君は萬里を遠しとせずして來會せられ、聯合して一個の大中華民國を形成せん事を望まれて居るのである。即ち、吾人に主義あるが爲めに外ならぬ。之れによつて、主義が武力よりも大いに優れて居る事がわかる。主義を以て建國すれば、萬々里の遠きも盡く來朝し、武力を以て人を征服すれば、咫尺の近きに在るものもみな反逆するのであつて、之れによつて主義が武力に優れる事を知つたのである。之れは大いに慶賀すべきである。諸君に、巴先生のために杯をあげて慶祝せん事を求め、本總理もまた諸君のた

めに杯をあげて慶祝する所以である。

### 革命は最後の成功を贏ち得る

——民國十三年一月十四日、廣東商團及び警察官に對する演説——

諸君、今日は商團と警察方面とが、此處に親睦の情を交はし、頗る盛大なる會を催された。本來、商團と警察との責任は、治安の維持、廣州市の治安維持である。商團と警察とは、いづれも廣州市に在るが、廣州市の治安は、如何にせば維持し得られるか。商團と警察とは如何なる方法によつて之れを維持せんとするのか。商團と警察とのよく維持し得る治安は治安の一部分であり、小さな治安を維持するものである。若し國家全體が太平なる能はず、治安が亂るれば、商團と警察とは如何なる方法によつて、局部的な地方の治安を維持し得ようか。商團と警察とは廣州市地方の治安を維持すべき責任を有する以上、廣州市が中華民國内に在つて如何なる地位を占めて居るかを理解せねばならぬ。吾人は全國の治安を希望する。此の治安が維持されて始めて局部的な地方の治安も維持され得るのである。若し全國の治安が維持され得ぬ時は、局部的な地方の治安も亦維持され得ない。廣州市は中華民國内に在つて、嘗つては二十二省中の一省に過ぎなかつ



たが、併し今日の廣州市の地位は従前とは大いに異なる所がある。吾人が如何に相違して居るかを  
知るには、現在の中華民國は如何なる時代であり、また中華民國は如何にして成立したかを知ら  
ねばならない。中華民國の成立は、十三年前の武昌起義によるもので、武昌の義舉を起した所以  
は、革命を行ふに在り、滿清を顛覆して中華民國を成立せしむるに在つた。さりながら、中華民  
國が成立して今日に至る間、十三年を経過したとは云ひ條、全國は依然として四分五裂、大亂は  
尙止まないのである。即ち、中華民國は尙ほその創造に成功して居らないのである。

諸君は自から中華民國の國民たる事を承認され、誰一人として大清帝國の遺族であると稱する  
者はない、諸君はみな絶対に大清帝國の國民たる事を承認せず、いづれも中華民國の國民たる事  
を承認せらるるものである。諸君が既に民國の人たる事を承認せらるるからには、如何なるもの  
が民國であるか、中華民國と大清帝國との間には如何なる差違が存するかを知らねばならない。  
諸君の年齢は大概、二十歳以上であるから、十三年前の事は勿論明瞭に記憶されて居らう。中華  
民國と大清帝國とを比較して見て、中華民國は如何にして造られたか、諸君は固より、之れは革  
命手段を用ひて清朝を顛覆して造られた事を記憶されて居る筈である。そして今日は既に民國で  
ある。民國といふ名稱を考へ、其の意味を思ふ時、諸君はまさに如何なるものを民國と呼ぶかを

知るであらう。民國は帝國と同一ではない。帝國は皇帝一個人の専制であり、民國は全國の人民  
を以て主人とし、帝國は天下を家とするもの、民國は天下を公にするものである。商賣に例へれ  
ば、帝國は個人企業であり、民國は、會社企業である。會社企業の利益金は株主に分配され、個  
人企業の利益金はただ一人が之を獨占するのみである。故に其のかみの清朝は、天下を家とする  
ものであり、現在の民國は天下を公にするもので、之れが即ち、民國と帝國との差違である。民  
國も既に十三年を経過した事であるから、諸君は當然此の差違を理解して居られる筈である。

現在、民國の状態は依然として四分五裂の有様で、到る處に戦争が行はれ、此の十三年間、一  
年として泰平の年はなかつた。何故に民國は泰平たり得ないのか。民國は帝國に如かないのであ  
らうか。若し眞に民國が帝國に如かないとすれば、諸君は何として、民國の人民たるを承認し、  
民國の國民たるを光榮とし、また帝國の遺民たるを恥辱とするのであるか。道理より推せば、民  
國は帝國に比して遙に公平であり、民國の國民は帝國の遺民たるに比して遙に光榮である。我が  
中華民國は既に完全に成立したのであらうか。本來よりすれば滿清帝國は既に倒れ、中華民國の  
看板を掲ぐる事既に十三年である。此の十三年間、人民は果して民國たるの幸福を享受したであ  
らうか。實際の話が人民は全くなほ民國の幸福を被つて居らない。國家は依然として變亂時代に



在り、人民は却つて水深火熱の中に、日々苦痛に呻吟してゐる。何が故に、民國に到つて、却つて變亂があり、却つて人民が苦痛を受けるのであらうか。民國に反對する人の心中では、民國は帝國に如かない。現在は清朝時代に如かない。故に人民が民國に在つて受ける苦痛は清朝に於けるよりも甚しいのだと考へるが、焉くんぞ知らん、人民は民國に於いては無形の中に地位が頗る高まつて居る。民國に對しては諸君はいづれも、一株持つて居る譯で、吾人が中華民國の人民であること云ふ事は、即ち、中華民國の主人公であつて、清朝時代の如く官吏の奴隸ではない。中華民國は一大會社であり、吾人はみな此の會社内の株主であり、當然會社の事務を管理する權力を有して居る。即ち、諸君の目下の地位は頗る高い。併し乍ら、國家の統一さるべき方法がない爲め、全國は大亂やまず、災害頻りに至つて、禍患は底止する所を知らない。人民は何故かかる苦痛を嘗めねばならぬのであらうか。諸君、靜かに考へて見給へ、一の災害、一の苦痛も、其の中には必ず其の原因がある。現在の民國の禍患、災害の原因は何であらうか。第一には、大清帝國殘存の老官僚、武人が未だ、一掃されない事である。さきに革命黨は滿清を顛覆したが、ただ清朝の一皇帝を倒したに止り、此の大皇帝の顛覆後、無數の小皇帝が輩出し、現在では、各省の督軍、師團長、及び北京の大總統、總長など、いづれも小皇帝である。それ等の武人官僚は、みな

滿清帝國殘存の連中で、單に官吏たる事を知るのみで、彼等の思想は、純然たる皇帝欲の舊思想である。彼等は兵を有すれば、亂暴狼藉を極める。兵を擁すること最も多かつた袁世凱の如きは、自から皇帝と稱したが、兵を擁する事比較的少いものになれば、敢えて自から皇帝たらんとはしないが、ただ三千五千の兵を有すると、民國に反逆して舊制度を恢復せんと計る。此の舊制度を恢復せんとする行爲は、即ち專制の實行であり、專制時代の小皇帝の行爲である。故に、民國以來、我が革命黨は單に大皇帝を倒したに止り、此の小皇帝はなほ倒されて居ない。此の爲め民國は徒らに民國の名のみ有つて實は專制を被つて居る。此の缺點は、中國革命が露國の如く、徹底し得ず、彼の舊皇室の官僚と武人を一齊に掃蕩し能はなかつた爲めである。露國這般の革命は、六年を経た今日、既に大成功を告げ、其の人民は幸福を享樂し得る希望を有するが、我が人民は、一體何の日によく幸福を與へられるかを知らない。此の原因は何であるか。それは、革命のやり方が妥當を缺いたからであり、また完全でなかつたからである。あたかも、吾人が一軒の舊い家屋をくぐり、別に新家屋を造らうと考へた時、舊屋の瓦や屋根や、垣などはみな倒し去つたが、さて、舊屋の瓦や木石はなほ元の場所に積み積ねてあつて、完全に取片付けられて居らないので、新家屋を建て様と思つても何處からも手のつけ様がないと云つた所が、中國の現状で



ある。目下人民は此の状態におかれて、住むべき家がないといふ苦痛を嘗めて居る。諸君、手を胸にして、考へられよ。之れは果して何人の責任であらうか。諸君の知らるる如く、民國は革命黨のつくつたもので、革命黨が武昌に起義してより民國は生れたのである。其の武昌起義前、廣東でもまた辛亥の年三月二十九日に義舉を起し、黄花岡の七十二烈士を犠牲としたが、起義の際に於ける黄花岡七十二烈士の犠牲的精神は、如何に大であつた事か。彼等が當時に在つて、ああした大決心と、大勇氣とを有したればこそ、その後の志士も、前者仆るれば後者起つて進み、滿洲人と奮闘し、遂に滿清を顛覆したのである。然し、滿清は倒されたけれども其の残した餘毒がなほ一掃されて居ない。革命黨としては勿論此の責任を辭する事を得ない。併し、民國は國民全體が株主である、而も民國成立以後、人民は國事に對していづれも自から治め、自から處理する事を知らない。諸君が何事をも處理しない、其れ故に彼の小皇帝が此の間隙に乗じて、毎日の如く兵を集め馬を買ひ武備を整へて、民國を占領支配し、眞正の民國を今日に到るも建設する事なきに陥らしめたのである。吾人は眞の民國を建設しなければならぬ。そして諸君も亦國民の一分子たる以上、當然此の責任を背負はねばならぬ。

諸君は、廣東市の商團であつて、民國十三年間、廣東は如何な地位に在つたかを知悉されて居

る。廣東は此の十三年間に於いて、固より清朝時代とは同一でなく、また今年の廣東は、當然從來の廣東とは異つて居る。更に數日後には、吾人は廣東に於いて革命黨の全國代表者會議を開催する。何故に廣東に於いて革命黨の全國代表者會議を開催するのか。其れは十三年前には吾人は常に廣東を以て革命の起點としてゐたからである。廣東は革命黨の發源地で實に極めて光榮な事である。吾人は此處に新に民國を再造せんとして、更に再び此の光榮ある地を選んで起點としたのである。新家屋を建築すると同様に、よい地盤、基礎を選定しなければならぬ。廣東市は、吾人が新に民國を創造する好地盤である。中華民國は既に十三ヶ年を経過したが、併し嘗つて何等の建設が行はれてゐない。今回、廣東に於いて革命黨の全國代表者大會を開催して、其の新方法を準備し、再び中華民國を建設し、中華民國の一紀元を開かんとするのである。之れこそ中華民國國民の一大希望であり、廣東の歴史に於ける一大光榮である。廣東と武昌とを比較すると、武昌は中華民國の創造を開始せる土地、廣東は中華民國の建設が成功せる土地と云ふ事になるだらう。

諸君商團は、今日警察と一堂に歡を共にされた。今後商團は警察と、協力協同して、廣東の治安を維持されたい。警察は政府の機關で、商團は人民の機關である。今日は商團と警察との正式



會見の第一日であり、また政府と人民の結合する第一日でもある。諸君は革命政府の地に在つて相互に胸襟を披いて相見えたのである。革命黨は現在廣東を以て策源地として居るが、新に中華民國を建設するには政府と人民とが協力共同する事が必要である。故に廣東市の人民は政府と共に、同心協力、先づ廣東市の政府を建設する事を必要とし、此の責任は當然諸君が背負ねばならぬ。今日以後商團と警察とが永久に提携し得るか、否か。如何なる條件によれば、提携が行はれ得るであらうか。此の目的を達成するには、ただ二條件あるのみである。第一條は、諸君が革命主義を理解すること、第二條は諸君が革命が最後には成功し得る事を信仰すること、此の二條件さへ具はれば、永久に結合し得るのである。若し之れに反する時は、今日の一時的結合は決して永久の結合とはならない。何が故に、諸君は革命が結局成功する事を信仰せねばならないか。諸君が其れを信仰するには、諸君にある決心がなくてはならぬ。廣東の數次の變亂に際し、商團は必ず中立を守つてきた。嘗つて龍濟光が廣州に君臨した時も商團は中立を守り、陸榮廷、莫榮彰の廣東に來つて新制をしいた時も商團は中立を守り、陳炯明が革命の偽看板を掲げて廣東に謀反した際にも商團は中立を守つた。なほ今回雲南軍が義に従つて賊を討ち、廣州に陳炯明と戦つた折も亦商團は中立を守つたのである。若し陳炯明が再び廣州に攻め寄せたならば、商團

諸君は果して如何なる態度をとられるか。既往の歴史に就いて考へれば、諸君は必ずや從來の舊慣に従はれ、其の時には依然として中立を守られる事であらう。併し、今日、人民と政府とが結合せる後は、再び中立を守つてはならぬ。故に第二の條件は、諸君の決心を必要とする。どうか諸君は革命に對して信仰を持つていただきたい。革命の事業たるや、獨り中國に於いて必ず成功すべきのみならず、其の如何なる國家たるかに論なく成功するものである。革命發生後、よしや一時成功し得ずとも、或は幾十回幾十年の失敗を重ねても、佛國の如きは八十年、米國は八年、露國は六年にして、遂に總て成功を告げてゐる。古今内外の歴史を繕どく時、國家が貧弱より富強に赴き、苦痛より安樂に變ずるには、革命を行はざるはない。何となれば、革命せざれば人民の苦痛は一向に解除されないからである。人類は何故に革命を起すのか。進歩を要求するからである。人類の思想はすべて進歩を望むものであり、人類を進歩せしめんが爲めには、進歩に反對する障礙物を除去せざるを得ない。障礙物を除去すること之れ即ち革命である。故に吾人が人類と國家とを進歩せしめんが爲めには、革命せざるを得ないのである。諸君は革命が最後には成功し得る事を信仰されたい。外國の歴史は今正にお話しした通りであるが、中國の歴史に就いて見るも、革命にして成功せざるものはない。湯武の革命の如きは、人々がみな、彼等は天に順ひ人に



應ずるもので成功は當然であると云ふ。我が中國の革命の大半は、英雄の興起で、成功後は皇帝となつて政治を行ひ、代々之れを相傳へる。即ちみな專制であつて、成功後の幸福は皇帝一個人の獨占に歸し、人民は盡く痛苦を滿喫せしめられた。吾人今日の革命は、民國建設である。成功の曉には、諸君を民國の主人公とし、其の株主とするもの、されば今回の革命は、新制を打倒して諸君のために幸福を謀るものと云ふべきである。諸君は此のよき行爲に對して、必ずや信仰するであらう。信仰を有すれば、必ずや一時の成敗を念としないであらう。吾人の革命は、ただ今回一回を以て必ず成功を收め得るとは爲し難い。或は廣東政府は、明日にも陳炯明に倒されるやも、未だ計られないのである。では諸君は一體、如何に信仰すべきか、其れは吾人の革命は假令一時は失敗してもまた捲土重來し得る事を信じ、吾人の革命は最後には必ず成功すると信ずるのである。

第一の條件は、諸君が革命主義を理解することであるが、其れには先づ諸君が革命とは一體如何なる事に就いて了解しなければならぬ。手短かに云へば、革命とは、救國濟民のことで、自己の災害を除去し、自己の幸福と、四億同胞の幸福とを謀ることである。此の道理が即ち革命の道理である。此の革命の道理は、天經地義、萬古不變である。現在人は從來の專制が、人民を

奴隸とするものである事を憤り、お互にみな人であり、いづれも平等であるべき事を知つたのである。國家は人々の國家であり、世界は人々の世界である。此の道理を理解すれば、革命によつて平等を求める事は、諸君一同の任務で、政府の仕事でもなく、單に革命黨のみの専らにすべき事でもない事が分明する。諸君は商團であり、且つ武器を有する階級である。矢張り當然革命の事業を負擔しなければならぬ。此の理を理解せる今後は、再び中立を守るべきではない。從來何が故に中立を守つたのか。諸君の眼より見て、或は人が武器を沒收するのを恐れ、若し中立を守れば、其の幾挺かの銃を保ち得、禍を避けて福を求め得ると考へたからであらう。併し余から見れば、若し中立を守つて居れば、禍を避けて福を求め得る事は不可能である。例へば、今回雲南軍が義によつて行動し、陳炯明をうち、國のために賊を討つが如き際、雲南軍の各將校はみな革命思想を有して居り、廣東に來たのは、民を弔つて賊を伐たんがためであり、且つ人民に同情を表するものである。假りに若し其の當時、諸君が雲南軍と共同して、一の條約を結び、外來軍の境内に入るを許さず、諸君が廣東市内の陳炯明の亂黨一掃を擔任し、雲南軍を前進せしめて東江を掃蕩せしめたならば如何であつたらうか。恐らく雲南軍は斷じて廣東に入城はしなかつたらう。然らば現在の廣東は、如何なる状態を呈したであらうか。若し雲南軍が廣東に入らなかつた



ならば、廣東の各商店は軍隊の騷擾を蒙らず、頗る安穩であつたらう。併し諸君商團が嚴に中國を守つて敢えて陳炯明を討たないし、余は何としても陳炯明を討たねばならないので、爲めに雲南軍は入域するし、之に隨つて他の軍隊も入域したのである。其後また陳炯明の叛軍にして雲南軍に投降する者があり、其の中には、多數の無賴漢が居て、これが雲南軍に賭博場開設や阿片賣買を教へ、ために今日の廣東を阿片の弊風に陥らしめてしまつたのである、此の原因を探究すると商團も亦其の責を辭する事が出来ない。諸君は毫も一定の主義がなく、兵來れば其の兵に従ひ、賊來れば賊に従ふ。これがため、現在受くる所の苦痛を免れ得なかつたのである。今後は、商團と警察とが、相倚り相助け、同心協力して廣東の治安を維持せられたい。即ち、諸君は革命主義を理解し革命が最後には必ず成功する事を信仰するを要する、吾人の勝敗は、いつも乍らの事で、去年は失敗しても今年に成功し得るし、今年失敗しても來年は成功し得る。一年や二年は失敗しやうとも、十年百年となれば必ず成功する。革命は人類の本能であり、人々は自己は自己が救はねばならぬ事を知つてゐる。故に此の大きな力が生ずるのである。この大きな力さへあれば之を阻止し得るものはない。白雲山の頂から、大岩石を山麓にころがす場合、其の途中で之を阻止する力を諸君は持つて居られるだらうか。革命も丁度大岩石を白雲山の頂から麓に落とすのと

同様に、一度動き出したならば斷じて途中で停止するものではない。余は三十年前に革命を提唱し、其の間の失敗は殆んど二十回を下らないが、併し失敗毎に勢力は増大しつゝある。今度の廣東に於ける革命に就いては、諸君が若し余に成功如何を問はれても、余の答は、ただ「知らない」と云ふのみである。併し、余は結果を知らないから奮闘しないと云ふのではない。余はちゃんと余の主義を持つて、どしどし實行する。現在諸君は余に、今度の革命が成功し得るか否かを質問する必要はない。余の方から諸君に、革命は結局成功し得るか否かを質問し、諸君に明白な返答を願ひたいのである。成功は人民自身の事であつて、余に關係はない。余は單に革命の發起人として人民をして革命に賛成せしめんとするだけである。若し多數人が革命に賛成するならば成功しようし、賛成が少數ならば自然成功は困難である。余の革命に従ふや、終始闘争し、鞠躬盡瘁死して後已むのみ、其の成功と不成功とは、人民の責任である。諸君は人民であるからには、當然此の責任を背負はねばならない。今日以後、政府と人民とは終始協力一致し、廣東市の人民がみな革命に賛成せんことを余は希望するものである。

## 中國國民黨改組問題



現在の問題は國民黨改組問題である。吾人が同盟會を作つて以來、極めて大きな力を有する事を表現したのは即ち滿洲政府の顛覆である。併し倒壞した後、官僚の流毒は日を追ふて甚しさを加へ、破壊は成功したけれども建設に就いては却つて少しも盡す所がなかつた。この十年來、政治上、社會上の種々なる暗黒腐敗は、さきの清朝よりも更に激しく、人民の困苦は日一日と甚しい。故に多數の反革命派は之れを以て口實として革命派を破壊能力を有するのみで建設能力がないと評して攻撃する。かかる言葉を、吾人革命黨は承認し得ないが、事實上は確に其の通りである。之れは全く吾人が破壊後、建設の機會を持たなかつたからである。吾人が政權を把握してゐた南京政府は僅かに三ヶ月のみで、北京政府時代に到つては、政權はすべて反革命黨の手中に歸してしまひ、其の後の革命黨は建設の機會を失つた。それのみではない、更に海外に逃亡して自己の領土内に身を容れる事が出来なかつたのである。民國成立以來、政權は盡く反革命派の手中に操られ、ために革命黨は政治上、社會上種々の破壊を行つたけれども、建設する機會なきに苦んだ。故に各方面より觀察して、中國は革命後決して進歩せず却つて退歩したけれども、併し之れは斷じて革命黨の初心ではない。今、人々がみな此の事を以て我革命黨に其の咎を歸せんと

しても、我黨は肯んずる事は出来ない。滿洲政府の倒れる前、革命の成功する以前には、革命黨の活動は、主に其の主義を全國民に宣傳するに在つた故、人民はひとしく革命の成功を希望するに急であつて、革命の二字を神聖視したが、成功後は其の所期の如く行かぬので頓に失望するに至つた。かかる事實に對して誰が其の責に任ずべきか。革命黨が其の責を負はざるを得ない。人民が各種の苦痛を以て其の咎を吾人に歸しても、吾人は實は其の責を辭する事は難づかしい、要するに用ゐた所の方法が當を得て居なかつたのである。

今、革命成功以前の事を想起するに、黨員は生命を犠牲にして國のために力を盡くし、艱難冒險、努力奮闘したのであつた。故によく成功し、武昌に起戦するや、全國響應して民國は成立し革命反對の人も一樣に革命賛成に變じた。此の連中の人數は革命黨より多きこと、ただに數十倍に止らなかつたので其の勢力も革命黨よりは大であつた。此の反革命派の連中は即ち舊官僚で、一方には革命黨に参加しながら、一方には却つて革命黨を破壊した。故に革命事業を打ち壞はすに至つたのは、實に吾人の方法が善くなかつたからで、若し之れを防ぎとめる手段があり、團體があつて滿清に對する方法を以て之れに對したならば、反革命派もまさに其の技倆を施す所が無かつたであらう。露國の革命の同志が曾つて余に對し、中國反革命派の聰明さと技倆とは露國革



命派が實に後塵を拜して及ぶ所ではないと批評した。露國の反革命派は官僚と知識階級とであつて、革命黨が事を起した時みな相率ゐて諸外國に逃亡したので露國革命黨は成功し得た。中國の反革命派は極めて聰明で、逃避せざるのみならず、反對に加入して、結局革命事業を破壊するに至り、革命黨員は轉々として流離し、殆んど消滅するに及び、今日に到つて僅かに西南の數省を其の本據地とするのみで、其の他はみな反革命派に占められてゐる。以上によつて觀察するに、革命黨は滿清を顛覆する勢力を有し、反對者をして革命黨の旗の下に投ぜしめた。然るに何が故に革命は成功し得なかつたかといふと、みな其の方法がよくなかつたことから、反革命派をして隙に乗じて黨内に入らしめ、破壊されても悟らなかつた爲である。失敗するに至つても、なほ失敗する所以を知らなかつたのである。若し、當時、手段があり團體があつて、先づ之れ等を防ぎとめ、努力奮闘を繼續して建設に従へば、單に三年の期間を藉す時は、其の効果は既に大いに觀るべきものがあり、決して今日何等の成績がないといふが如き事にはならなかつたであらう。中國の革命六年後に、露國には漸く革命があつたが、露國革命黨はただに世界最大の權威ある帝國主義國家を顛覆せるのみならず、更に進んで世界の經濟政治の諸問題を解決した。此の革命は眞に徹底的であるが、全く其の方法が良好であつた故である。最近、露國の友人が余に語つた話で

は、傍觀者の冷靜で明らかな事は、到底當局者には計り知れないと。併し露國の反革命派は、決して本當に中國反革命派の聰明さに及ばないのではない。否、之れに百倍してゐる。ただ、露國革命派の非常な聰明さが、また彼等に百倍して居たと云ふだけである。中國の革命黨は經驗が乏しく、遂に反對派をして其の技倆を發揮せしめ、露國の如く巧妙な方法を以て反革命派を防備し内部より破壊する能はざらしめる事を得なかつた。故に露國は我國に遅るること六年にして革命したが、既に成功し、我々は六年先立つて革命したが、失敗したのである。

今回の改組は、即ち今日より再び新に事を爲さんとするのである。古人の言に、以前の一切は警へば昨年死せるが如く、以後の一切は今日生ぜるが如しとある。今日よりは、將に過ぐる十三ヶ年の總ての貴重にして得難き教訓と經驗とを以て、今後の事を處理しよう。嘗つてはあらゆる力を用ひて民國を創設したが、今後は一切の力を以て政府を改造しよう。今日より方針と條理に照し全國を打つて一丸とし衆智衆力を合せ、努力して行へば、則ち將來の成功の更に大なるは必定である。之れこそが、今後の第一の大希望である。今回の改組は此の意に基づくものであり、改組が成功し得るか否かは、全く同志各位がよく責を負つて聯絡し努力奮闘し得るか、否かによつて定る。もし果してなし得るならば、中國の事業は大いに進展するであらう。我國の人民は、



十三年間の苦痛を味つてゐる。我黨は今回こそは當に最も短時間内に之を解放し、國家の障礙を完全に消滅するであらう。今回の改組に關する各種の實行方法は、既に臨時中央執行委員會に於いて長らく準備したものである。只今、中國國民黨の宣言案を提出する。之れより祕書長（書記長）に命じて原文を朗讀せしめる。

此の宣言は、今回の大會の精神であり生命である。此の宣言發表後は、一同ひとしく責任を負はねばならない。諸君は我黨各省の代表である。宣言通過後は、須らく責任を以て、各省に歸つて此の宣言は、まさに國民黨の精神、主義、政綱を完全に發表してゐること、並に之れを實現せしむべき事を報告宣傳するを要する。此の宣言は今後吾人の一切の行動を支配するものである。故に須らく詳細に慎重審議されたい。諸君は通過後、勝手に改變するを得ない。各人總てが遵守して完全に目的を達成すれば、其の時こそ大成功を告ぐる日である。

## 國民政府組織案の説明

——中國國民黨全國代表大會にて——

現在此處に政府が成立したが、此の政府は護法政府の様なものではない。さきの護法政府成立

の時は、軍隊を出して北伐し、已に江西に至つて、その北伐軍の進行は頗る勝利であると稱して居たが、忽ち、後方から陳炯明の叛亂にあひ、將に護法政府は顛覆せんとした。南方に政府なきに至つて、北方軍閥は、忽ち護法に賛成し、國會恢復を宣言し、今年の所謂國會は却つて北京に於いて、曹錕を選擧して大總統にいたしました。これが、つまり護法の結果なのである。

今回、本總理が再び廣東に歸つたのは、またも護法問題を仕事としやうと云ふのではない。現在の政府は革命政府であり、軍事時期に於ける政府であつて、その發展は極めて有望であり、廣東の地盤も亦頗る鞏固で、北伐も亦、日を定めて前進するまでに準備されて居たのであるが、最近、忽然としてそれ以外の問題が発生し、各國は軍艦二十艘を廣東に派して示威をなした。此の様な勢力が有るぞと示威したのであるから、大きな力を以て之に對抗する決心で抵抗し、一時は幾度か危険に瀕し、彼等と今にも戦端を開始せんとしたが、併し、吾人は最後まで堅く持してゐたので、最近では各國も武力の何等効果なきを見て、今度は、文字を以て戦つて來てゐる。先日公使團から領事團の轉送を経て、一通牒を齎して曰く、地方政府と公使團との往復文書は須らく領事團より轉達すべきであると。我政府の通牒は之を反駁して、當方は地方政府ではない。乃ち北京に敵對する政府で、尠くとも交戦團體たるの資格があると論じた。併し斯様に言つて見た所



で、各國の外交政策は他國に對して、常に自國に利益ある場合はその政府たることを承認するが利益のない場合にはその政府たるを否認するのである。今日の事は實に吾人が正式の組織を持たぬことと北京政府と脱離關係にあることが明瞭でない事によるものである。故に民國政府の組織は、實に目前第一の問題である。公使團より通牒の來る以前に、吾人は元々政府を組織せんと考へ會つて、財政部長葉恭綽を、奉天と浙江の兩處に派して政府組織の方法を徴したのである。併し現在公使團より輕視されるのは、みな吾人に政治的地位がない故である。政治的地位を有してこそ、始めて政治行動なりと言ふべきである。然らずして政府に反抗する行動は他にも甚だ多い、例へば地方暴動等はみな政府に反抗する行動であるが、併し彼等が政府に反抗するのは土匪的行動であつて、法律上認容せざる所である。我々が政府に反抗する行動は、土匪でもなく、また法を犯すものでもない。如何なる理由によつてかく言ふのか。吾人は既に脱離して彼等の政府たるを承認せぬ事を宣言してゐるからである。吾人は政治上の行爲によつて彼等と對抗してゐるのである。然し乍らこれには一の地位が必要である。中國の歴史上の習慣では、所謂、勝てば則ち王、敗るれば則ち賊である。然し近代の文明國家ではさうではない。もしある政治上の行動によつて、敗れても賊とは見做さない。中國はまだ、世界に於ける普通の習慣を習熟しないので、

事を起すに名義を避けて、成功後始めて名稱を定める。併し文明諸國では決してさうではない。愛蘭土の如きは、歐洲大戰當時、忽ち英國に對して獨立を宣言した。此の事件は英國政府が二時間以内に平定してしまつたけれども、愛蘭土のこの二時間内の行動は、各國とも齊しく政治行動であつて、犯罪行爲に非すと認めたのである。何となれば、彼等が事を擧げた際は、一郵便局を占領し、其處に完全なる政府を宣言組織し、各部の官吏もすべて任命を経、その宣言文は壁上に貼りつけたけれども、その糊の未だ乾かざるに先つて既に失敗し、黨員は全部米國軍艦に逃亡し米艦も亦之を收容した。其の後、英國政府は引渡しを要求したが、これ亦拒絶にあつた。蓋し、その正式の組織を有せる政治的行動たるの故によるもので、然らざれば則ち土匪であり、暴動であつて、何ぞ米人の斯様な保護を望み得よう。

現に吾人は廣東、四川數省を有して、土地の廣さ、人口の多きことは日本に四倍して居り、決して二時間内に直ちに滅亡する様なことはないのである。何が故に、なほ敢えて意思を表示して政府を組織しないのか。故に本總理の考では、今回の大會の目的は二つあると思ふ。一は本黨の改組、一は國家の建設である。而して國家の建設については、なほ研究すべき問題が二つある。一は、即刻、大元帥政府を變じて國民黨政府たらしむること、二は、先づ建國大綱を表決した



上、四方に宣傳隊を派遣し、人民をして其の内容を了解し團體を結成して政府の實現を要求せしむることである。一省斯くの如く、各省も亦斯くの如くして、全國民の意志を合して軍閥と抗争するならば、其の効果は必ずや大である。從來、吾人は具體的な政策を持たなかつたが、今は之を持つてゐる。若し之を以て、士農工商各方面に宣傳すれば、必ず同意するだらうし、全國團結して一體となり、一大示威運動を行ふ時には、軍閥いづくんぞ倒れざらんや、革命いづくんぞ成らざる事あらんやである。以上の二方法は大會が其の一を選択するに随つて何の不可もない。更になほ一問題がある。吾人の模範とすべきは、露國の完全なる、黨治であり、之は英、米、佛の政黨の権力行使に比して更に一步を進めたものである。吾人は現在治むべき國がないので、以黨治國は、國家建設をまつて、再び之を研究することにした。露國革命の當初は獨裁政治を用ひ餘事は一切顧みず、ひたすら革命の成功を求めた。其の最も危険の時期には、十八面に敵を受け各國ひとしく露國に出兵し、國內の反革命派も亦各國より深甚なる援助を得た。故に露國の六年前の奮闘は、同時に民族主義の奮闘であつたが、當時吾人はなほ、其の民族主義の奮闘たるを知らなかつたのである。今に到つて顧みると全く其の通りである。故に現在露國は民族主義に賛成の諸國に對し、みな平等の待遇をなし、常に波斯、阿富汗、土耳其の諸國に對し、其の民族主義を

放棄すべからざる事を勸告してゐる。其の最初の共產主義も亦、六年間の經驗によつて漸く民生主義と暗合して來て居る。かく綜合して、露國の革命が事實上實に三民主義により、其のよく成功したのは、其の黨を國の上に置いた點に基因するのを知るのである。余は今日は、組織を更新し、黨を國の上におく一大紀念日であると思ふ。

余の此の説を初めて聽けば、甚だ人の耳を驚かすであらうが、其の實、現在吾人は何等の國家をも持つてゐないではないか。當然先づ黨によつて國家を造り出し其の後、更に之を愛せねばならない。今日、上海や廣州で常に見かける青々とした地上に建つてゐる洋風建築は、必ず先づ小屋がけの時代を経過する。此の小屋は、建築材料置場と、勞働者の群居する所であり、之によつて、彼の洋風建築を建築し得るのである。中國には現に、國民黨の用意を理解しない人々が多數あるが、これは洋風建築を羨む者が、假小屋を見て之を厭ふが如きものである。知らずや、この工具材料等を貯藏する假小屋がなければ、則ち羨み望む洋風建築も、ただ空中の樓閣に過ぎず、永久に實現し得ない事を。故に洋風建築の未だ成らざる以前に於いては、此の假小屋は、實に至つて貴重な物なのである。革命黨の國家に於けるは、即ち假小屋の洋風建築に於けるが如きもので、黨に力さへあれば、建國し得るのである。故に諸君は當に此の思想と實力とを有して、黨を



以て國を建て、進んで建國の方略を研究せねばならない。

## 民生主義の説明

——國民黨一全大會にて——

此の大會で、定める所の我黨全國代表大會宣言は、我黨の改組や前途に關するもので、極めて重要である。宣言審査委員會の審査せる結果、民生主義に關する一項は、尙ほ問題がある故、今日即時討論し、採決に附する事が出来なかつた。宣言を採決する前に、なほ重大問題、我黨の基礎に關する問題がある。必ず之を徹底的に了解せねばならぬ、さうすれば、宣言も容易に採決される事になる。この重大問題とは、即ち民生主義である。我黨多數の同志は、此の主義に對しては、從來些して心に留めて研究した事がない。故に近來此の主義について誤解を生み、誤解は疑を生み、懷疑は暗流を生んだ。現今、既にかかる現象を生じて、將來分裂の兆があり、面白からぬ結果の發生する事を恐れる。故に本總理は此の主義に對して、再び分解説明しなければならぬ。冀くば我黨の同志諸君、此の主義から發生する所の誤解、懷疑、暗潮を、完全に打破して最も有力なる國民黨たらしめん事を。本總理は、現在十分に我黨々員を信任し、百人中一人として

本總理に服従せぬ者は決してないと思ふ。ただ黨員諸君が我黨の主義に對してなほ多少の疑義を抱かぬでもない事を承知してゐる。よろしく我黨は主義を以て成立してゐる事を知り、黨の主義には、總理たると黨員たるとに論なく、ひとしく絶対に服従すべく、僅か一點たりとも懷疑する所があつてはならない。我黨の同志は、現在の所、その思想が二つに分類される。一は老同志に屬し、他は新同志に屬するもので、老同志は穩健なる思想であり、新同志は急進思想である。穩健の方は及ばず、急進の方は甚だ過ぎてゐると云ふべきで、過不及の兩種の思想は、ともに未だ民生主義の眞諦を明かにせぬものである。

本總理は、さきに北京の一般新青年が非常に新思想を崇拜して居り、露國の共產主義を聞くに及んで、これこそ世界の最新の主義であるとし、遂に代表を露國に派遣して之と聯合し、更に露國に代つて主義を宣傳せんとし、共產主義と民生主義とは相異なる二つの主義であると認定した事を耳にした。吾人の老同志も亦、民生主義と共產主義とは絶対に相同じからざる二つの主義であると認め、是に於いて、排斥と争ひとが起り暗流は之によつて生れたのである。併し乍ら之れは民生主義の眞諦を、双方共に誤解してゐるのである。譬へば新青年方面に於いては、各代表が入露した後、露國人が之に對して極力國民黨の主張する三民主義を稱讚したので、其の仲間は遂に



一心に三民主義を研究し、救國の大計は之に非ざれば不可であると認め、誠心から我黨の三民主義に悦服し、共產黨員たるを改めて國民黨員となつた。我黨の舊同志は、急に共產黨員が紛々として我黨に加入した事情を聞き、頗る懷疑を生じた。我黨の名義が彼等に利用されるのを恐れたからである。此の事に就いて、懷疑の今なほ甚しい者は、海外の同志である。本總理は今までに海外の華僑より數回に及んで、今回の改組は國民黨を改めて共產黨にするのではないか、若し共產黨に改めるならば、華僑の同志は決して賛成しないといふ電報に接して居る。蓋し華僑は帝國主義政府の支配下に在つて、深く帝國主義國家の露國革命を破壊せんとする宣傳の論調に毒せられ、そのため種々の懷疑を發して自ら釋く事が出来ないのである。嘗つて露國革命に對して懷疑するものは世界に於いて固より獨り華僑のみ然りと云ふのではない。各國の人士亦みな然らざるはなかつた。然し彼等の懷疑は一時的懷疑に過ぎなかつた。してみればこれも一時の事である。多數の華僑は外國の文字を解しないので、外國の輿論が進歩につれて轉移することを知らない。三四年前外國の人士から傳聞したものを、今日に及んでも矢張りさうであると信じ、外國人士の輿論も亦露國內政の進歩に従つて變遷して居る事を知らないのである。近來、露國內政の進歩の神速なること従來とは全く異つてゐる。故に、英、佛、米、日等の國の議會は、すべて新「ロシア」

の承認を提議せんとし、伊太利の如きは既に承認してしまひ、其の他の各國も此の一二年後には亦必ず相繼いで承認するであらう。露國が各國から既に承認されるならば、利害について云へば我黨と露國との聯合は將來必ず中國、露國の相互援助の利益を得て、決して大害はない。之れ我が海外の同志の宜しく安心すべき所である。更に是非について言ふも、我黨が既に、遵奉してゐる民生主義は、所謂、社會主義、共產主義及集産主義をことごとく其の中に包括してゐるのである。各主義の連帶關係とその範圍を、圖示すれば左の通りである。



民生の二字は數千年前から既にある言葉であるが、之れを政治經濟に使用したのは本總理より始まり、獨り中國に於いて従來此の事あるを聞かぬのみか、外國でも殆んど見當らない。數年前



「マルクス」主義を信奉する學者が社會問題を研究して、社會の生計問題と「マルクス」學說と符號せぬ點を發見した。そこで疑義を提出して逐條例舉し、社會黨の解答を求めたが、一年の久しきを経てなほ一人として求に應ずる者がなかつた。よつて、其の著作を公にして世に問ひ、名づけて歴史の社會觀と言つた。その要點の大意に、今日社會進化の中に在つて其の經濟問題たる生産と分配とは、悉くまさに民生問題の解決を以て歸着點となすべきである、云々とある。之れによつて、本總理の創意した民生主義なる名詞は、今日に至つては既に學者が贊同してゐるものであり、又民生の二字が、實に一切の經濟主義を包括してゐる事を知り得る。

共產主義の實行に至つては、これ亦露國から、始まつたものではない。我國では數十年前洪秀全の太平天國に於いて既に實行され、且つ其の効果も露國に比較して更に大であつたが、後に英國の「ゴルドン」に破壊されてしまつた。故に今日は考證すべきものが無い。露國の今日實行してゐる政策の如きは實は純粹の共產主義ではなく、民生問題を解決するための政策に過ぎないのである。我黨の同志諸君は、茲に於いて共產主義と民生主義とは毫も衝突するものでなく、範圍に大小あるのみである事を了解されるであらう。諸君は既によく民生主義の眞意義を明白にされたのであるから、爾今新舊の同志は、誤解懷疑より生れた暗流を、之れによつて消滅せしめらるであらう。

## 中國國民黨宣言の趣旨

——中國國民黨一全大會にて——

只今、我黨大會の宣言は既に採決された。此の事たるや、我黨成立以來破天荒の事である。併し乍ら、吾人は、宣言を採決した後、必ず一同宣言によつて進退し、之れが實行の責任を負擔しなければならぬ。此の宣言はただに列席代表諸君の共同責任たるのみならず、各省及び海外の同志も均しく之れを負擔する革命的責任を有するものである。吾人從來の革命はことごとく未だ好結果を收むるに到らないが、之れは革命が徹底的に成功しないためである。此の原因の大部分は吾人同志の責任を負ふ事が始終一の如くでなく、その爲め革命主義を貫徹するを得なかつたのである。現在ここに我黨が此の代表者大會を召集して、此の宣言を發表したのは、即ち今後の革命は従前のそれと同じからざる旨を表示したのである。前數回の革命は、盡く半途に於いて、軍閥、官僚と妥協し、調和し、ために革命成功の後にさへもなほ失敗を免れなかつた。袁世凱が皇帝となつた當時、我黨の同志は、山東、廣東、四川、福建、揚子江一帶の地に在つて、紛々とし



て事を起し、種々力をつくして袁氏の帝制に反抗したが、其頃は尙鮮明な革命の旗幟はなかつた。其の後、袁世凱は斃れて、全く吾人の袁世凱反対は成功したが、併し之れを革命の眞精神より見る時は寧ろ失敗であつた。後日護法の戦役も亦革命の旗幟をたてることなく、五六年間に互る護法運動は、最後に曹錕、吳佩孚が護法に賛成し、護法問題の結果は調和妥協に歸した。大體吾人の革命は、最初に於てはいづれも活動極めて猛烈であるが、後の結果は、一回として妥協でない事はない。即ち、排滿、倒袁、護法の三戦役について言へば、吾人の敢行した革命は、いづれも頭があつて尾がない、始があつて終のないものであり、遂に失敗に歸したものである。

今回、吾人は宣言を可決したが、之は新に革命の責任を負擔し、徹底的革命を計劃する事であり、終局に於いて、軍閥を打倒し、壓迫を蒙つてゐる民衆を完全に解放すること、之れは對内的責任である。對外的責任は、帝國主義侵略に反抗し、世界に於ける帝國主義に壓迫せらるる人民と聯絡一致して共同動作をとり、相互に扶助し、全世界の被壓迫人民を盡く解放せしめねばならないのである。吾人は此の宣言は、決して従前の覆轍を蹈んで途中で妥協したりする事を許さない。今後は當然かの妥協調和の手段を悉く放棄すべきであると共に、更に妥協は吾人が徹底的に革命を遂行するに大きな障碍である事を知るを要する。故に今日此の宣言の通過後は、須らく

一同努力前進し、始あり、終ある、革命の徹底的成功を期せられたい。

### 政黨の精神は黨員全體にあり

——國民黨一大會にて——

唯今、露西亞代表から、露國行政首領「レーニン」先生が昨日死去されたとの報告に接し、國民黨の同志は固より哀悼に堪へない次第である。此の大會として正式に弔電を發して哀悼の意を表する事を決議したい。決議する前に、一言諸君に申述べたい。諸君の知らるる通り、露西亞革命は、中國の革命より後でありながら、其の成功は却つて中國に先きだち、その奇功偉績は眞に世界革命史上に未だ曾つて見ざる所である。よく斯くの如きを得た所以は、實に全く其の首領たる「レーニン」先生個人の奮闘と、理論と組織との完全なるに由る。故に其の人物を、革命といふ點から觀察すれば、革命の大成功者であり、革命中の聖人であり、革命の最も好き模範でもある。彼今や既に在らず、吾人は之に對し如何なる感慨と如何なる教訓を有するであらうか。余は中國革命黨の爲に大なる教訓を與へられた事を考へずには居られない。如何なる教訓であるかと云ふと、即ち、我々が黨の基礎を鞏固にし、露國革命黨と同様に組織的な有力な機關とせねばな



らぬ事、之れである。今回の大會の目的も亦此處に在るのである。唯今、露國の首領「レーニン」先生は世を去られたが、此事は露國の國際的に如何なる影響を生ずるであらうか。余は決して何等の影響もないものと信ずる。何となれば「レーニン」先生の思想、氣魂、奮闘の精神、一生の事業等は、全部既に黨内に結晶して居るから、彼の身體はそこに無くとも、彼の精神は完全に生きてゐるからである。之れ即ち吾人にとつての最大の教訓である。

本總理は、三民主義の首唱者、創意者であり、且つ中國革命黨の發起人である。吾人の革命は幾度か成功したとは云へ、併しいづれも軍事活動の成功であつて、革命事業は更に完成してゐない。之れは我黨自身が鞏固で無い爲である。故に黨員は均しく黨の命令を守らず、各自勝手に行動し、盲従して一致信服する舊道徳もなければ、自由の中に活潑に動く新思想もないのである。第二回の失敗後、日本に亡命した頃、余は規則を設けて改組しようと思ひつゝいたが、成功せず終つた。何となれば、其の當時の各同志は、誰もみな極めて冷淡で、吾人は既に政權を得ながら尙且つ失敗してしまつたのだから、今後到底中國では二度と革命を講ずる事は出来ないと考へてゐた。余は長い時間を説得に費して、其の結果中國革命の成功は、二十年以後の事であると云ふ事になつた。此の時は、ただ余一人で此の革命の荷を肩に擔つて行くより外致方なく、爲に新に

中華革命黨を組織し、すべての入黨者は、完全に余一個人に服従しなければならぬ事にしたのである。其の理由は、前回の失敗に鑑み、且つまた當時國內の新思想が未だ發達して居なかつたので、余一人が統率しなければ有力となるに困難であつたからである。爾來現在まで、十年を経過し、同志諸君は既に之れが習慣となつてしまつた。人によつては、今回、總理制を改めて委員制としたのを、妥當でないと感ずる人も有るであらう。併し須らく、彼も一時、之れも一時である事を知らねばならぬ。前回一同が冷淡であつた際には、余一人が革命の責任を負擔するより外に道がなかつたが、現在では頗る多數の新思想を有する青年があり、人民の程度も亦向上して居て、中國の革命は二十年後でなければならぬなどと考へる人は居ない。而も吾人が革命事業に従事するのを見て、國民はただ、非常に緩慢だと思ふのみで、急速だと考へる者はない。故に今回の改組は、我黨を團結せしめ、其の勢力を増加して、革命を容易に成功せしめ、以て全國國民の希望に迎合せんとするものである。

嘗つて日本に在つて改組を思ひつゝいたが、成功しなかつたのは、方法が無かつた爲めである。現在我々は露國の方法を模範とし、完全に其の方法に倣ふ事は出来なくとも、其の精神を倣はねばならぬ。かくしてこそ、其の成功も學び得るのである。我黨の今回の改組は、本總理個人が負



擔してゐた革命の重大責任を、多數の人に分擔せしめるものである。諸君一同が起つて奮闘し、我黨をして本總理個人によつて興廢せざることを、あたかも「レーニン」先生の露國革命黨に於けると同様ならしめていただきたい。之れが本總理の最大の希望である。

唯今、本大會の名によつて、莫斯科に「レーニン」先生の死に對し哀悼の意を表する電報を發する案を提出し、諸君の可決を請ひ、更に各行政機關に對しては既に政府より三日間旗を下ろす事を命令した。本會も亦三日間休會する。此の三日間、毎日午後、本總理は此處に在つて民族主義を講述する。此の題目は、曾つて高等師範學校學生に對して一回述べ、外にも二三回述べたもので、其の大體について講ずる事にする。若し詳細な講演とすれば長時間を要するから、今回は此の機會を利用して三日以内に、要點をつまんで講述し終らうと思ふ。諸君がそれ／＼歸國された後、宣傳の材料になるであらう。民權主義と民生主義とを除いたのは、目下講述する時間がないからで、將來講述後刊行して單行本とし諸君に贈る考である。之れから、露西亞代表、「ボロヂン」氏に請ふて、「レーニン」先生の爲人の講演をききたい。伍朝樞君に通譯を御願ひする。講演終了後、吾人は改めて本題を決議したい。

## 革命軍の責任

——民國十三年二月二十三日、湖南軍に對する演説——

湖南軍將校兵士諸君、本大元帥が今日此處に諸君と相見えることの出來たのは、誠にまたと得難い機會であり、且つ諸君と談じ得るのは、更に得難い機會である。本大元帥が湖南軍兵士諸君に今日申述べることは、湖南軍が今日以後よく革命軍に變化することを希望することに在る。諸君が余の演説を聞かれて、全體が革命軍に變化したならば、それこそ革命黨の同志全部の希望期待に背かざるものである。

では如何なるものを革命軍と呼ぶのか。革命軍と一般の軍隊と何處が相違するのか。相違點は小さく言へば、革命軍の一個人は常によく百人、尠くとも十人と戦ひ得る。大きく云へば、我軍一千人を以て敵兵一萬人を打破し得、我軍一萬人を以て敵兵十萬人を打破し得るもの、斯様な少數を以て、充分に訓練され且つ精銳なる武器を有する多數の敵兵を打破し得るものであつて、始めて革命軍と呼び得るのである。諸君の知らるる通り、十三年以前には、我が中國は一個の専制國家であつて、滿洲人に統治せられ、滿洲政府に征服せらるる事、二百餘年に及んだ。十三年前



に至つて、革命黨が拳銃と爆彈とを以て清朝皇帝を倒し専制政體を顛覆し、共和國家を建設したのである。故に十三年以來、中國は名義上では中華民國の稱を以て世界に知られて居る。彼の滿清を顛覆し、中華民國を成立せしめたのは、即ち革命事業である。當時の革命黨といふものは其の人数が極めて少數であり、滿洲政府は各省に訓練せる多數の新式軍隊を有し國內の各要害樞要の地には滿洲駐防軍があつたのに、革命黨が滿洲政府を顛覆したのは、一體如何なる才能によつたものであらうか。簡単に説明すれば、其の恃む所は一個人がよく數百人に當り得た點にあつたのである。此の時代の革命黨は、さうした大膽さと犠牲的精神とを有したが故に、よく彼の大事業を成就し得たのである。今日、本大元帥は諸君湖南軍に演説して、如何なる結果を發生せしめたならば、國民の希望に副ふであらうか。希望する所の結果は、即ち諸君湖南軍全體が、革命軍に變化し、革命黨の後塵を追ふことである。何が故に、吾人は十三年前に於いてよく滿清を傾覆し得ながら、十三年間に眞正の民國を建設し得なかつたのか。其の最大の原因は、滿清顛覆後は、革命黨の志を繼ぐ革命軍がなかつた爲であり、之が破壊は成功したが建設がなほ成功せざる所以である。今後、建設を成功せしむるには革命軍をつくらねばならぬ。若し、革命軍が現れぬならば、更に十三年間を経過して決して眞正の民國は建設の成功を見る事は出來ない。湖南軍の將

士が、今回廣東に來られたのは、主義のためであり、革命に向つて奮闘せんが爲めである。諸君が、よく革命のために奮闘せんとするならば、先づ革命軍に變化せねばならぬ。如何なるものを革命軍と呼ぶかに就いては、余が、只今申述べた通りであつて、よく一千人を以て一萬人の軍隊を打破し得るものにして始めて革命軍と云ふべきである。現在廣東には十數萬の軍隊があるが、其のいづれも革命軍と名づける事は出來ない。何となれば、彼等はみな、一人を以て一人と戦ふものである。若し我軍一萬人が敵の一萬人と會するならば敢へて對陣するが、二萬人に遭遇したならば前進するを得ない。斯かる軍隊は何の役に立つであらうか。どうして革命軍と呼ぶ事が出來ようか。本大元帥の本日述べる所の革命軍に至つては、一千人にしてよく一萬人に敵するものである。斯かる偉大な力を有する軍隊は諸君軍事専門家より見れば、或は不可能となすであらう。大體、普通の軍事の經驗から論ずれば、我軍が如何に精銳に訓練されて居らうとも、勝算を得るには、何としても數倍の兵を以て敵を討つを要する。例へば、三萬人を以て一萬人と戦ふならば、勝算ありと云ふを得べく、若し敵軍三萬人にして我軍は二萬人のみならんには勝算ありと云ふを得ず、敵軍一萬にして我軍も亦一萬人ならんには勝算は更に逆睹し得ない。かかる軍隊は尋常普通の軍隊であつて、非常時の革命軍ではない。世の中に於いて、非常の時機によく非常の



事業を爲し得るには、即ち非常の革命軍有つてこそ、成功し得るのである。諸君將士にして、之れを信じないならば、十三年前に於ける革命の歴史を考察せよ。革命黨の清兵と戦ふや、一以て百に當らなかつた事は、ただの一回と雖もない。一人の革命黨員が百人の清兵と戦ふのは實に普通の事であつた。若し然らざる時は、即ちこれを立派な革命黨員と云ふを得ないのである。諸君は湖南軍で湖南より参加されたものであるが、湖南の古い革命黨員中最も有名なのは、黄克強である。彼は、安南より欽廉に入つて義兵を擧げた。當時欽廉には革命黨に對抗する清兵が約二萬人餘あつたが、黄克強の指揮する革命軍は二百人に過ぎず、有する武器は二百挺の銃に過ぎなかつた。かかる少數を以てかくも多數の清兵と交戦する事二ヶ月に亙り、遂に彈丸つき援軍至らざるにも拘はらず、安全に退去する事を得た。この戦争によれば、革命軍とはつまり一人を以て百人に當るものである。斯くの如き戦争は、非常の戦争で、普通の理窟を以て論ずる事は出来ない。併し此の普通の理窟では論じられぬ事を、矢張り、諸君湖南人が實行したのである。故に本大元帥は、諸君が今後勝利を得て、非常の事を爲さん事を要求する。即ち、黄克強の彼の欽廉に於ける戦争の如く非常の革命軍に變化せんことを要求する。若し然らざれば、よし武器精銳に彈丸豊富であらうとも、それは却つて敵に贈物するだけで、自ら用ふる所がない。

戦時に於いて、一以て百に當るの道理を説くには、兵士諸君に先づ奮闘的精神を抱かしむる事を要する。何故に、先づ奮闘精神を有せねばならぬか。奮闘的精神を有すれば、能く犠牲たり得るし、死を恐れざるに至る。軍人が死を恐れざるに至れば、勝利し得ざる事を恐れる必要はない。奮闘的精神は何處から生ずるか。それは主義から生ずる。兵士にして奮闘的精神を生まんが爲めには先づ主義あるを必要とする。既に革命主義を有すれば、革命の目標は明になり、革命の目標が明になれば、奮闘的精神は自ら發生する。革命の目標とは一體如何なる事であるか。何を革命の目標と云ふのか。諸君の知らるる通り、我が革命黨は、三民主義を以て中國を改造せんとするものである。三民主義とは何であるか。民族主義、民権主義及び民生主義が之れであつて、吾人は此の三民主義を理解して始めて革命事業を實行し得るのである。

諸君のみな知らるる通り、中國は嘗つて滿洲人のため二百餘年征服され、吾人の祖先はみな滿洲人の奴隸であつたが、無事平穩になれて其の恥辱を忘れてしまつた。それに後來、吾人はどうして滿清を顛覆し得たのであらうか。即ち、民族主義を理解し、自己は總數四億萬人の漢人であり、明朝の末に、滿清に征服せられてから、二百餘年間彼等に壓迫せられて主人公たるを得ず、奴隸的地位に居る事を知つたからである。吾人の祖先は此の道理を明らかにし得なかつた。之れ



却つて滿清を謳歌し頌徳し、清朝は仁深く徳厚しと述べた所以である。後來、單に滿清の壓迫を受くるのみならず、更に英佛獨露米日の諸列強の壓迫を受くるに至り、先知先覺者は、民族主義を案出して、何故に少數の滿洲人を以て四億の漢民族を統治するのか、何故に四億の漢民族が被壓迫の地位に置かれ滿洲人の奴隸とならねばならぬのか、と滿漢の限界を推究し、極めて不平等であるとの思想が発生し、之を次第に宣傳して遂に全國に推し廣め、四億の人みな、此の甚だ不平等なることを知るに至つた。古人は「平かならざれば即ち鳴る」と云つてゐる。故に全國は、此の不平等を平等ならしめんとして、極めて偉大なる犠牲的精神を以て、滿人を驅逐したのである。かく述べて來ればお解りであらうが、民族主義は外國に對しても其の不平等を打破するものである。若し外國人と中國人との地位に不平等が存在するならば、中國人は當然外國人の支配を革めなければならぬ。専ら滿漢の問題に就いて論ずると、全國民が、滿漢の限界を理解し、滿人と漢人との地位が甚しく不公平である事を知つたので、其れで辛亥革命が起つたのである。其の後此の革命は成功して、つまり民族主義が目的を達したのである。

民權主義といふのは何であるか。此の主義の理屈は民族主義と同様である。民族主義は對外的に不平等を打破するものであり、民權主義は對內的に不平等を打破するものである。そもく國

内には、如何なる不平等な事實が存在して居るであらうか。即ち、皇帝或は軍閥官僚の専制があつて、四億の國民は依然として國事に參與するを得ず、却つて彼等少數人の奴隸である。此くの如き壓迫、不平等と、外國人による壓迫とはいづれも同様である。故に國內の専制に對して不平等を打破するには、民權主義を以て、人民の權利を主張しなければならぬ。人民の權利を主張するのは即ち天下を公にするの道理である。天下を公にする道理と、天下を家とする道理とは全く相反するもので、天下公の爲めにすれば各人の權利はみな頗る平等であるが、天下を家とするに至れば、各人の權利には不平等を生ずる。此の不平等なる専制は、外來異民族の専制と同様である。故に外來民族に對して不平等を打破するには民族主義を提唱するを要し、國內の不平等を打破するには、民權主義を提唱するを要する。

民生主義とはまた如何なる道理のものであらうか。此の主義は最近來發生せるもので、五十年前には中國人にして此の理論を論ずるものが無かつたばかりでなく、外國人も亦此の學説を理解しなかつたし、かかる事を論ずる事はなかつたのである。現在、世界中で最も進歩せる國家、佛國、米國の如きはいづれも革命を敢行して以來、國外から異民族の壓迫なく、國內には皇帝の専制もなく、彼等の政治は誠に公明で、國家もまた富裕、強盛であつて、數十年前には人民はみ



な甚だ幸福を味つてゐたのであるが、最近數十年來、工業が非常に發達して、一切の製造工作はみな機械を以て手工に代へてしまつた。例へば、耕作、織布及び一切の製造工業は、一として機械を以てせざるはない。諸君は湖南より廣東省韶關に至るまでは、盡く行軍であつたが、韶關から廣東に至る間は行軍でなくて汽車便であつた。汽車は交通機關であり、また運輸機關であつて、機關車を用ゐて、數千人或は數十萬斤の荷物を運び得るものである。此の多量の荷物は、多數の人を以てしても容易には運搬し難いもので、若し單に人力のみを以て運搬すれば數千人を十數日使用するに非ざれば不可能である。併し汽車を以てすれば僅に一日にして運搬し得る。故に汽車は物を運送する機關である。即ち汽車は大きな人夫であつて、一個の機關車の運送する貨物は數千人の人夫に匹敵するのである。耕作もこれと同様であり、織布も亦同様である。一つの機械のなす仕事は、數百人に匹敵し、機械が増加すればする程、生産物も増加し、利益も愈々増大する。故に機械の所有者は日増しに富むが、機械を所有せざる者は日毎に貧しくなつて行く。機械による生産のために、貧富の極めて大なる不平等が生じ、此の不平等によつて民生主義が發生したのである。さきに述べた様に、民族主義は外に向つて不平等を打破するもの、民權主義は内に向つて不平等を打破するものであるが、民生主義は、誰に向つて不平等を打破せんとするもので

あるか。之れ資本家に對して不平等を打破せんとするものである。何となれば、機械が出現して極めて大なる資本家が生じ、國內の如何なる事たるを問はず、盡く資本家に壟斷せられ、富豪は欲して爲さざるなく、窮民は食を求むるに道なき有様である。故に貧富の不平等のために民生主義は生れ、彼等を平等ならしめんとする。此の主義は近來外國に於いて頗る盛に唱へられ、漸く中國にも傳來したものである。

此處に於いて諸君は、革命黨の主張する所の三民主義は、頗る容易に理解されるものである事を知られたであらう。此の三民主義は一貫して居り、其の一貫した道理はいづれも不平等を打破すると云ふ事である。革命の責任は不平等の世界を打破して平等にするに在る。不平等打破の三民主義を理解し得れば、それで革命軍たり得るのである。革命軍は三民主義のために奮闘し、三民主義のために犠牲となるものである。革命軍は何故に三民主義のために犠牲になるのか。三民主義が成功せば、如何なる國家が出来上るのであるか。諸君が、吾人は將來如何なる國家を作るべきかを知らんとするならば、先づ現在の中國が如何なる地位にあるかに就いて知るを要する。諸君は中國に生を受けたが、眼を開いて見れば、其處は果して如何なる世界であらうか。簡明に云へば、中國の現在は、民窮し財盡きた世界であり、極めて苦痛多き世界であつて、此の世界に



在る者は誰一人として人生の幸福を享樂する事を得ない。現在、中國の國內には、こうした苦痛が日毎に増大し、こうした苦惱が日毎に多きを加へつのである。吾人は此の苦痛の世界を看ては、天を悲しみ人を憫むの情を生じ、大慈大悲、以て此の世界を救濟せんとの心願を發せざるを得ないではないか。此の舊世界の悪い點を改めて、新世界を建設する、此の目的を達成せんとする其の責任は、即ち我が革命軍に在るのである。我が革命軍が此の責任を遂行し、三民主義によつて完全に此の目的を達成すれば中國は安樂世界と化すであらう。諸君の誰もが知らるる如く、世界に於いて文明の最も進歩せる國家は、英國並に米國であつて、彼等は國富み民強く、人民の享受する幸福は中國に比して遙に大である。併し乍ら、彼等の國內には貧富の不平等が存在して居るが故に、一般民衆は更に革命せねばならない。彼等の革命には如何なる主義を以てするのであらうか。其の用ひる所は、民生主義これである。何となれば、民族主義と民權主義とは、彼等の國內に於いては既に成功して居るからである。英國米國の革命は現在醗酵されつゝあつて未だ外に向つては爆發しないが、現在既に爆發してしまつたものに露國革命がある。露國革命は六年前に發生し、現在では完全に成功した。即ち三民主義は露國に在つては既に完全に目的を達したのである。

三民主義が中國に於いて完全に目的を達成せる後には、中國は如何なる世界に變化するであらうか。吾人が突然之れを考へると、或は容易に見當がつかかねるかも知れない。併し露國が現在如何なる状態であるかを一瞥すれば、すぐわかるであらう。七八年以前には、露國の人民も亦非常に苦痛を嘗めて居た。歐洲戰爭當時は協商國側に參加して獨乙を攻め、戰爭の終局前に國內に革命が發生して三民主義を實行し、對外的には協商國の同盟國攻撃を支持援助せず、對内的には專制の露國皇帝を倒し、貧富の關係に對しては、世界の一切の資本主義制度に反對したのである。此の爲め、列強は當時獨乙を攻撃せず却つて軍隊を移動せしめて露國を攻めた。故に露國革命は單に皇帝の壓迫に對して反對するのみならず、列強の壓迫にも亦反對し、更に全世界の資本主義制度の壓迫に對しても、一齊に反對し、當時の革命軍は全力を擧げて奪鬪し、其の加へられたる壓迫を打破し「ソヴィエト」共和國と稱する一新國家を組織したのであつた。現に英國伊國は既に之れを承認して居る。故に露國革命は完全に成功せりと云ふべきである。露國革命の發起者をたづねて見ると、勞、農、兵三種の人々から成つてゐる。故に露國の現政府は、勞、農、兵政府と呼ばれてゐる。勞、農、兵三方面の人民が代表を派して組織して居るものであるから、彼等の政府の掲げ行ふ政策は、此の三方面の人民に對して特別優遇して居るのである。吾人が革



命の成功せる將來の状態を知らんとするならば、茲に露國々民が現在如何に幸福を味ひつつあるかに就いて一言しよう。露國々民が國家から享くる所の利益、即ち幼兒が初めて孤々の聲をあげてから小兒となり成人となり老人に至るまでの間に、彼等は國家から如何なる待遇を受けるであらうか。例へば、貧民の家で生れた幼兒を兩親が養ふ事が出来ねば其の旨政府に報告する。國家は之れを撫育する費用を支出して兩親に支給して養育せしめる。年稍々長じて學校に入る頃となれば、國家が、完全なる幼稚園、小學校、中學校から大學まで經營して其の年齢に應じて、次第に上級の學校に進め、完全なる教育を施し、國家は其の費用を徴收しない。若し其の子女を學校に入學せしめぬ兩親があれば、政府は更に其の親を懲罰して、子女の教育を強制する。これ所謂強制教育で全國の青年をして一人残らず、読み書きし得る様にする。人々はみな國家の養育を受け、父母の負擔とはならない。貧民の子女にして、着るに衣なく、住むに家なく、食ふに食なきものに至つては、國家が盡く代つて完全に斯る遺憾なからしめ、兩親は此の爲めに心を煩はす必要がない。我が中國の小兒は、其の大多數が読み書きを爲し得るであらうか。將校兵士諸君が湖南より廣東に行軍中、沿道に見かけた少年達の中、読み書き爲し得る者は何人あつたであらうか。更に、現在此の演説場内に放牛してゐる此の少年達は、読み書きの機會を有するであらうか。

故に中國の少年の大半は、読み書きの機會を與へられず、極めて哀れな状態に在るのである。長じて成功すれば、生活の道なくして更に苦痛を味ひ、老年となれば愈々甚しい。故に中國人は少年時代も苦痛、長じて成人時代も苦痛、老年に到つても亦苦痛で、一生幼より老に至るまで、日々夜々すべて苦痛である。少數人の苦痛に非ずして多數人の苦痛である。若し現今の露國人と比較するに、彼等はどうかであらう。露國人は幼年時代には勉學し得、壯年時代には耕す田あり、労働する仕事あり、事業なきを憂へない。年傾いて老年となれば、國家は養老費を支給する。露國民の如きは幼より老に至るまで、一生心配なく苦勞なしと云ふべきであらう。彼等の此の幸福の原因を探ねると、それは革命によつて齎らされたものであり、三民主義の實行、革命手段の實行によつて成就したものである。英米の政治、社會に在つては、今日に至るも依然として貧富の階級が存在して居るが、現在の露國には如何なる階級も存在しない。彼等は全國を一大會社組織に變化せしめ、其の會社内に於ては、各人みな利益を分配されるのである。此くの如き立派な國家こそ吾人の造らんとする新世界である。嘗つて吾人に反對したのは滿清の皇帝であつたが、現在吾人國民に反對するものは、滿清殘存の武人と官僚である。これ等の武人と官僚の専制は、即ち小皇帝の行爲である。嘗つて諸先輩は前者仆るれば後者更に起つて奪闘して、彼の大皇帝を顧



倒したが、吾人は現在此の先烈の志を繼いで、曹錕、吳佩孚等の小皇帝を倒さねばならぬ。曹錕、吳佩孚及び各省の專制的督軍、巡閱使は何れも共和の障碍物である。彼等が存在してゐては、吾人の新世界は建設されぬ。諸君が永遠に人生の幸福を享受し得る機會は到來しないのである。將校兵士諸君、諸君が若し、自から武装を解いて歸耕した後、幸福を享け、且つ子々孫々に至るまで永遠に幸福を享けしめんとするならば、彼の小皇帝を倒す責任を背負ひ、全軍變じて革命軍となり、現在の痛苦極りなき世界を改造して安樂なる世界と爲すを要する。この責任こそ、救國済民の責任である。國家を立派に改造して、人民が居に安んじ業を樂しみ得るならば、之れは一代の幸福のみならず、代々幸福を享ける事が出来るのである。この責任は如何にせばよく果し得るであらうか。此の大責任を背負はんとするには、先づ奮闘的精神を有し、三民主義を理解しなければならぬ。奮闘的精神を有し、三民主義を理解すれば、よく主義のためには犠牲たり得るのである。吾人がかかる大責任を荷なひ、かかる大事業を實行せんとするには、大志願、大膽、大決心がなければ不可である。故に本大元帥は、今日湖南軍に演説して、諸君が、革命軍に變化せんとするには、先ず諸君が大志氣、大膽を有して、一以て百に當る革命軍に變化し、然る後に、吾人の三民主義は完全に實行され、中國の將來は安樂幸福なる國家と變じ得ることを語つたのである。

る。此事の能不能は、何等他に問題がある譯ではない。ただ諸君が今日、此の演説を聴かれた後、決心するかせぬかに在るのみである。故に本大元帥が、今日將校兵士諸君に要求する所のものは、諸君が今日一大決心をなして革命軍に變化し、共に救國済民の責任を擔はれん事である。

### 革命軍の眞精神

——民國十三年三月十日、東路討賊軍に對する演説——

東路軍將校兵士諸君。諸君は許總司令と張旅團長の部下である。許崇智と張民達とはいづれも我が革命黨の非常に熱心なる同志であるし、將校諸君の大多數も亦革命黨員である。されば東路討賊軍の長官はいづれも革命黨員である。兵士諸君は、今日此地まで、本大元帥の講話を聴きに來られたのであるが、諸君は革命軍であるか、どうかを質ねたい。許崇智は革命黨員であるから理屈から云へば、その率ゐる部下は、自然革命軍でなければならぬ。且つ許崇智は從來よりよく本大元帥の言を聴き、本大元帥の命令には絶対に服従した。例へば民國十年本大元帥が北伐を提議するや、彼は直に共に廣西に馳せ參じ、民國十一年改めて北伐を唱ふるや、彼は先んじて韶關南雄に來り、江西を攻め破つた。江西を得たる後、陳炯明が廣東に在つて叛するを聞き直に兵



を返して陳炯明を討たんとし、韶關に在つて一ヶ月餘に亘つて戦つたが、後援なきため不幸にして失敗し、江西に退還し、また福建を討つて之を得た。去年本大元帥が東江方面を鎮定し、陳炯明の餘毒を一掃せんとして、彼に廣東歸還を促した所、早速彼は福州の地盤を棄てて廣東に歸還し、其の後、潮州、汕頭に於いて一敗後、廣東に歸來し廣東の各友軍と會合したのである。故に許總司令は此の兩三年間は、江西に攻め入り、廣東に引返へし、又江西に歸へり、福建に戦ひ、再び廣東に歸來したのであつて、實に三省に轉戦し、行程數千里に及び、疲勞倦憊、艱難辛苦、全く多數人の皆爲し得ざる所をなした。諸君の許總司令は、實に忍耐奮闘して來た。故に總司令は誠に勞苦に耐え忍ぶ人であり、極めて立派な革命黨員である。而して諸君はみな許總司令の指揮を受くる人々である。許總司令が既に立派な革命黨員たる以上、諸君は當然革命軍と呼ばれ得るのであらう。併し、それは本大元帥が今日諸君に話すだけの事で未だ安心して革命軍の名稱を諸君の上に冠する譯には行かぬ。即ち諸君が將來革命軍と稱し得るか否かは、なほ今後の成績を見る必要があるからである。

目下、廣東に於ける軍隊は、雲南軍、湖南軍、河南軍、廣東軍、廣西軍、江西軍、山西陝西軍等合計六七省の軍隊であり、みな革命のために努力してゐる。併し余から見れば、いづれの軍隊

も革命軍たるの地位に居るべきものがない。本大元帥は嘗つて河南軍に對して講話を行ひ、河南軍の革命軍に變化せん事を希望したことがある。今日は極めて立派な革命黨色の部下に講話を行ふのであるが、矢張り革命軍に變化せん事を希望するものである。以前は革命の爲めに奮闘しながら革命軍と呼ぶを得なかつたけれども、併し今日此の演説を聽かれると共に、革命軍に變化される様希望する。然らば、如何にせば革命軍たり得るであらうか。如何なるものを革命軍と呼ぶのであらうか。革命軍とは一人を以てよく十人と戦ひ、十人を以てよく百人と戦ひ、百人を以てよく千人と戦ひ、千人を以てよく一萬人と戦ひ、一萬人を以てよく十萬人と戦ひ得るものである。斯様に一を以て十倍の敵と戦ふ軍隊にして始めて革命軍と稱し得るのである。諸君、東路討賊軍の有する戦歴は固より夥しいが、併し仔細に考察して見るに、一千人を以て一萬人と戦つた事があるかどうか、勝利せる場合には、或は五百人を以て千人と戦ひ、或は千人を以て千人を討ち、福建水口の戦の如きは、東路討賊軍は千人を以て北軍二千人を討つたものである。併し乍ら一千人を以て一萬人と戦つた事は絶へてないのである。余は革命を提唱し、また革命黨の領袖であるが、革命軍をつくり上げたいと熱心に考へてゐる。現在の軍隊は、いづれも革命軍ではない。ただ辛亥の年、二月二十九日、廣東に戦兵を擧げた軍隊こそ、革命軍と稱すべきである。彼等が義



學を起した當時、廣東に於ける清兵は、滿洲駐防軍あり、李準の海軍あり、張鳴岐の陸軍あり、合計すれば五六萬人を下らなかつたが、革命軍の人数は二三百人に過ぎなかつたのである。何處にも今日程の多數の軍隊はなく、而も當時の武器は、手擲爆弾あるのみであつた。何處に今日かの如き立派な小銃と大砲とがあつたらうか。それだけの少數が、僅に手擲爆弾を以て、一度事を發するや、直に海軍鎮守府、竝に總督衙門を攻めたのであるが、其の後約束の援軍が参加しなかつた爲め、遂に完全に失敗に歸し、戦死せる七十二人は黃花岡に葬られた。故に黃花岡に葬られて居る七十二人は、即ち其の日戦死せる革命軍であり、身を捨てて仁を成した志士である。故に黃花岡の七十二烈士こそは誠に革命軍の名に愧ぢざる人々である。若し、當時我が革命黨が三千人を有するか、或は敵軍がただ三千人のみであつたならば、彼の第一回の革命は忽ち成功し得たであらう。併し當時の廣東に於ける清兵は三千人に止らずして五六萬に及び、我が革命軍はまた三千人を有せず、僅に三百人有るのみで、衆寡懸絶して居り、ために其の結果は失敗に歸した其の戦闘に就いて論ずるならば、當時城内に於ける戦は、成功と云ふべきであつた。當時の革命黨員は、單に手擲爆弾を有するのみではあつたが、一人を以て二百人と戦つたので、實に眞正の革命軍である。されば吾人は彼等を紀念しなければならぬのである。余の現在希望する所は、

一個人を以て二百人の軍隊と戦へと云ふのではない。革命精神を有する革命黨員の部下は、最小限度、一人を以て十人と戦ふ事を希望せんとするのである。若し之が不可能ならば、革命軍の名義にふさはしいものとなす事を得ない。余が戦場に於いて、兵士をして前進せしめようとする上官達が常に前面の敵兵は何百人であり、我が軍隊は僅かに百人又は二百人である。どうして前進し得るかと反問する。そこで余は、彼等に、諸君よ、今少し奮闘的精神を奮ひ起せ。兵士に射撃を命じ敵兵の一團を打ち殺すならば、彼等は膽を冷やすに違ひない。敵が膽を冷やせば、彼等が多數でも、何の役に立つものか、と答へる。すると上官は又曰く、敵に銃がないとは云へぬし敵の銃が味方を打たぬとも云へぬ、と。之れは彼等がみな革命軍でないからである。故に余も之れを責めないのである。今日諸君は、如何なるものを革命軍と稱するかを知つた以上、常に、かかる道理が有るか否かを考へて見ねばならない。若し此の道理が正しければ、其の時には一人を以て十人と戦はねばならない。諸君が其のため敵に殺されたならば、また黃花岡に陪葬され、名を千古に留めるであらう。若し然らざれば、諸君は將來死して後、ただに黃花岡に陪葬され名を萬古に留むる事能はざるのみならず、現在世上に生存しても誰知る人もないのである。諸君はみな兵士であり、銃を擔ふ人々である。銃を有する革命軍は、一人を以て尠くとも十人を打ち殺さ



ねばならぬ。銃は如何にして人を殺し得るか。諸君は軍人であり、當然知つてゐる事だが、發砲して人を射殺するには、命中するを要する。若し命中せざれば人を射殺する事は不可能である。通常、銃を有し弾丸をこめれば、人を殺し得る事は、諸君の知らるる所で多言を要しない。併し戰場に於いては、銃があつて弾丸をこめれば射殺し得るとは言へ、更に發砲する人は極めて大膽でなければならぬ。若し大膽でなければ、手足が顛へ動いてしまひ、平時に在つては射殺し得ても、戦時には命中し得ず、従つて射殺し得ない。故に革命軍たるべきものは、第一に大膽なるを要する。黄花岡の七十二烈士が義舉を起した際は、小銃とてはなく、ただ手擲爆弾を有するのみで、彼等が専ら手擲爆弾を使用して而も鎮守府、總督衙門に進撃し得たのは、一體何故であらうか。其れは大膽であつた。勇氣あり、革命精神あるが故に、よく一人を以て二百の敵と戦つたのである。一千人を以て一千人と戦つたのではない。若し一千人を以て一千人と戦つたのならば、其れは普通の軍隊であつて、非常時の革命軍ではないのである。故に革命軍人たるものは第一に大膽なるを要する。大膽さを有して始めて敵を殺し得る。然らば、大膽さは何如なる點から生れて來るのであるか。如何なる原因によつて大膽となるのであるか。大膽は革命精神より生れる。革命精神は如何なる原因によつて發生するか。革命の道理を理解すれば、革命精神が生ず

る。革命精神は革命の道理より發生するものである。何が革命の道理であるか。三民主義と五權憲法、之れが革命の道理である。諸君の上官はみな革命黨員であるから、いづれ平生三民主義並に五權憲法に就いては諸君に充分話が有つて、諸君は概ね其の道理を理解されて居る事と思ふが、今日、余も三民主義の理論に就いて諸君に申述べたい。

三民主義とは何であるかと云ふに、民族主義、民權主義及び民生主義である。此の三種の主義は如何に用ふるものであらうか。民族主義は外國人に對して不平等を打破するものである。從來、中國人は滿洲人の奴隸となり、滿清に壓迫せらるること二百餘年に及んだ。之は頗る不平等な話である。斯様な不平等の故に、我が民族は異族を倒したのであるが、異民族を打破するには民族主義を提唱し、四億萬人の一の大團體に結成せしめねばならないのである。十三年以前の排滿の成功は、即ち民族主義の部分的な成功であるが、滿清顛覆以後、依然として外國人の壓迫を受けねばならなかつた。それは滿洲人が嘗つて吾人の權利を盡く外國人の手に讓渡し、許多の不平等條約を締結し、それが今日に至るも修正されないからである。之れは、あたかも、主人が金のない爲めに自己の奴隸を抵當にあてて他人から借金する際に書かれた二重の身賣證文同様である。故に現在滿人の奴隸たる境界からは脱したが、なほ、外國人の奴隸とならねばならない。以



前滿清時代には、二重の奴隸であつたので、現在滿清の手から脱しても、なほ外人の奴隸ならねばならないのである。吾人が、現在、不平等條約を撤廢せんとするのは、寸度身實證文を取り戻さうとするのと同様であつて、中國と外國との地位を平等ならしめんとするものである。若し之等の條約が撤廢されぬならば、中國と外國との關係は不平等であつて、吾人が如何なる事を論じようとも、一切それは不可能である。諸君は廣東に居て、廣東の海關税は吾人が徴收使用するを得ない事を知つて居られるであらう。何故に中國は自己の關税を自ら徴收使用し得ないのか。それは外國人が管理して居るからである。例へば諸君が船で香港に赴く際、廣東で乗船すれば、外國人が税關検査を行ふが、若し日本に行けば、日本の如何なる地方に上陸するとを問はず、税關検査吏はみな日本人である。何故に、中國は外國人の税關吏を使用せねばならぬのか。それは、外國人が我が海關を占領して居るからである。外國人が中國の海關を占領して居る事だけでも不平等な事實である。此の不平等な事實は、諸君が既に見、既に知る所のものであるが、なほ數多の不平等なる事實が存在してゐるが、諸君がなほ見ない、知らない丈の事である。吾人は一切の不平等な事實を撤廢し、外國人の奴隸たる地位より脱離せんとするが故に、更に更に民族主義を提唱せざるを得ないのである。民權主義は何に用ふるものであるか。之れは自國民間の不平等を

打破するものである。我が中國は幾千年來、いづれも專制國家であり、ただ皇帝一人が主人であつて人民は皆奴隸であり、人民は皇帝一個人の私有財産であつた。故に古人の説に「普天の下、王土に非ざるなく、率土の濱、王臣に非ざるなし」とある。人民は何故皇帝に對し臣と稱せねばならぬのか。人民一同は人間であり、皇帝たるものはただ公事を管理する者に過ぎないのに、何故獨り彼一個人を主人と仰がねばならないのであるか。國家は、各人皆職分を有し、あたかも、一大會社の如く、人民は其の株主である。中華民國は四億萬人の大會社であり、國民全部がいつでも株主である。諸君も余も一株主であつて、それでこそ眞の民國なのである。專制國家は個人經營であり、共和國は會社經營である。從來の專制は、辛亥の年既に顛覆してしまつたので、其の時から人々は、みな、株主となり、國家に利益あれば一同が之を共に享受する。かかる状態を呈する眞の民國たらんとするには民權を有せねばならない。民權有つて、始めてよく國家を一大會社に變ぜしめ、國民全部をして發言せしめ得るであらう。故に民權主義は對内的不平等打破の主義である。民生主義は何に用ふるものか。之は富人に對して不平等を打破するものである。一國の内に若し大富豪が存在するならば、國家の大事は彼等に壟斷され、貧民は食ふに米なく、着るに衣なく、遂に富豪の奴隸たらざるを得ない。之れは誠に不平等な事だから、全國の貧富の差



別を打破するを要する。其れには民生主義を應用しなければならぬ。故に民生主義、民族主義及び民権主義は、いづれも一樣の理論であつて、みな不平等を打破して平等ならしめんとするものである。

諸君が、如何にして三民主義を應用實行すべきかを知らんとするならば、先づ三民主義の内容を徹底的に理解する事が必要である。然して後によく完全に實行し得るのである。例へば、民族主義に就いて述べれば、若し此の主義を實行し得る時は、數多の利権を回収し得る。吾人が現在、毎日無形の裡に外國人に捧げて居る種々な金は、計算すると毎年十二億からに上る。つまり一ヶ月一億を捧呈して居る事になる。かかる大損失が如何なる方面から生ずるかを、一般人はきつと知らないであらうと思ふから、此處に一例を擧げて、諸君に説明しよう。中國に來る外國人の如きは、いづれも通商を口にするが、では通商貿易とは一體何であるか、其れは、中國の國産品を輸出し、彼等の外國品を輸入する事である。最近の海關の報告を調査して見ると、輸入金額が輸出金額に超過する事、毎年五億元に達する。即ち、内外通商關係によつて、我が輸出國産品と彼等の輸入外國品との金額を相殺してなほ、年々五億元だけ外國品を餘分に購入せねばならぬのである。此の事は直に我が中國が毎年五億を損失せねばならぬ、毎年五億元を外國に奉呈せね

ばならぬ事を意味する。外國からの輸入は、如何なる品物であるか。諸君の知らるる通り、吾人は從來國産の綿布を使用して居たが、現在では外國綿布を身につけてゐる。何故現在では外國綿布を使用しようとするのか。國産綿布が高價で、外國綿布が廉價であり、一般が廉價を喜ぶからである。而して外國綿布たるや、外國からの輸入品であつて、一般が廉價を喜ぶが故に、國産品と外國品との競争が行はれ、國産綿布は遂に敗退したのである。國産綿布の敗退により、中國の農村では織布しなくなつた。織布しなれば、貧民は別に何の仕事が有るか。織布せぬ爲め、全國は利益を失ふ憂目を見、外國綿布を喜んで着るために利権が外國に流れだす弊害を受け、此のために中國は現在民窮して財盡くるの結果を來したのである。虚心坦懐に論ずれば、國産綿布が高價で、外國綿布が廉價ならば、吾人が散財するのを避けて國産綿布を用ゐず、外國綿布を身につけるのは當然である。若し、全國の關稅に對し、吾人自身が管理權を有するならば、他に方法がある。それは、外國綿布に多額に課稅し、國産綿布からは徵稅しない事で、かくすれば國産品の價格を廉に、外國品の價格を高からしむるを得て、一般は自然に外國綿布を棄てて國産綿布を身につけるであらう。一般が國內品を身につける事になれば、窮人もみな仕事を與へられる譯である。併し乍ら現在の稅關は、吾人自身何等の管理權を有して居らず、全く外國人の管理に歸し



て居る。そして彼等の定むる税率は全然之と相反し、國産綿布も外國綿布同様に徵税して、國産綿布を高價に、外國綿布を廉價にしてしまひ、斯くて外國品は中國に賣捌かれてゆく。故に中國は購買する外國品によつて毎年五億の損失を生ずるのである。其の他各種の通商によつて蒙る損害は、更に七億に達して居る。若しかかる巨額な損失を完全に消滅せしめ、之を四億人に平均に分配すれば、各人につき三元を分配し得られるが、併し、現在の所では損失を消滅せしめ得ないので、四億人の負債となり、各人三元を負担しなければならぬのである。四億人とは云へ、其の中には老人や子供も一括してゐるので、一家の中に在つて生計を維持する人は普通一人か二人であり、一家の人数は普通先づ十數人を有するから、一個人損失三元ならば十人で三十元の損失である。此の三十元の損失は、一家の中に於いて普通一人か二人が全部負擔して居るのである。故に中國國民の毎年の負擔する損失は頗る重い。吾人が外國人に金を進上しないで、此の負擔を免れる爲めには、更に一層中國の産業を發展せしめ、國産品を外國に輸出して外國人の金を得ることが必要で、之には民族主義を實行し、一同同心協力、國産品愛用を提唱し、外國品を「ボイコット」するを要する。之れが、民族主義の内容である。更に民權主義の内容に説き及べば、國家はあたかも一個の大會社の如きもので、一會社内において、一同其の事に従ふならば各人の受

ける所の報酬は、社長は或は十萬元に達し株主は或は百元のみであり、其の報酬には大小多少の不平等が存在するが、併し其の地位はいづれも必ず平等なるを要し、十萬元を得る社長が百元を得る株主を壓迫する事は許されざる如く、皇帝も人民もひとしく一様でなければならぬ。民國となつて、民權を實行すれば、皇帝も亦不必要であり、各人がいづれも主人公であり、一同がみな一様に國事に携はる事が出来るのである。之れが即ち民權主義に關する事實である。民生主義の内容に就いては、最も肝要なのは、貧富を平等ならしむる事である。一國內に於いて、貧民は際限なく勞働させられて毎日汗して働き、富豪のみが坐ながらにして利益を收め、終日懐手して呑気に遊び暮らすことは許されない。國民全體が各々仕事に従ひ、それによつて食を與へらるべきである。そして、人々は、みな心靜かに日を送つて人生の幸福を享受すべきである。故に民族主義、民權主義及び民生主義、此の三民主義はみな一貫せるものであり、其の一貫せる理論は即ち不平等の打破に在る。民族主義は對外的に不平等を打破し、民權主義は對内的に不平等を打破するもので、富豪に對して不平等を打破するものである。若し果して三民主義を眞に實行し得れば、中國は極めて公平なる世界となり、諸君は安樂なる國民となるのであるが、し現在では、民窮して財盡き、何一つとして公平なるものは見出せない。故に國民全體が非常な苦痛を蒙つて



わる。吾人は此の苦惱多き世界を超えて、安樂なる世界に進軍せんとするものである。されば諸君も、一層奮闘して不平等を打破せねばならぬ。現在全國に於ける、三民主義の賛成者は少数で、反対者は多數を占めて居るから、吾人が革命を成功せしめ、三民主義を全國に互つて推し廣めんとするには、諸君が全く革命軍に變化して奮闘するを要するのである。

革命軍の戦は、一人を以てただ一人のみと戦ふものであつてはならぬ。必ず、一人を以て十人と戦ふ事を要する。一個人を以て如何にせばよく十人と戦ひ得るか、大膽さを有すれば十人とよく戦ひ得る。大膽さを有し更に銃を有する時は、よく十人と戦ひ得るであらう。諸君が通常戦争する際には、先づ一以て十に當る決死隊を先鋒とする。併し此の一人にして十人と戦ふが如き者に就いては、多額の金錢を以て懸賞とせねばならぬ。軍隊が戦争に際して多額の金錢を必要とする様では、之れを革命軍と稱する譯に行かない。懸賞金が多ければ戦ふといふのでは、それは金のために命を捨てるので、三民主義のために奮闘するのではない。諸君は三民主義のために奮闘して、革命軍に變化しなければならぬ。三民主義のために決死隊とならねばならぬ。何故、諸君は三民主義のために決死隊とならねばならぬのであるか。それは、三民主義のために奮闘して死ぬるのであるならば、之れ仁をなして義を取るもの、所謂仁義の軍隊だからである。かかる死

は、主義のために死するもので、金錢のために死するものではない。嘗つて沈鴻英が叛を起して瘦狗嶺に來り戦つた際の如きは其の多數の兵士が戦死したが、併し之れ等の兵士は、金錢のために戦死せるものであり、今日誰が彼等を記念するであらうか。これが若し、主義のために戦死せるものならば、黄花岡の七十二烈士の如く、千載の下、なほ記念されるのである、諸君今後は命を惜しまず、一人を以て十人と戦ひ、主義のために犠牲となるも決して金錢のために犠牲となる勿れ、かくてこそ革命軍である。中國の革命は、今日既に十三年を経過したが、この十三年間、革命黨は國家のために奮闘し、年々主義のためには犠牲者を出して居る。そして傍觀者は常に革命黨は生命を惜まず、一身一家を顧みない。かかる犠牲的行爲は、眞に人をして崇拜せしめ、尊敬せしめる、と言つて呉れるが、同時に又頗る深く考へない批評も行はれ、何が故に、彼等は生命も家庭も棄てて犠牲になるのか。主義のために犠牲となつて、果して如何なる利益があるらう。彼の犠牲となる人々は實に愚の骨頂である、といふ。この淺薄な批評が深く一般革命員の心中に食ひ入り、革命黨はこの批評の害毒を蒙つた。故に以前の眞の革命黨は、現在では變じて偽革命黨となつてしまつた。即ち、實に立派な革命黨員であつたものが、現在では半信半疑で完全に革命黨になり切れないで居る。彼等がかく變化した所以は、即ち主義のために生命を犠牲



にして結局何の利益があるのか、何故に愚ろかしくも生命までも犠牲にするのか、と考へたからである。若し此問題が一向明白でないならば、今日諸君がこの話を聞かれた後、果して効果を表し得るか否か、果して革命軍に變化し得るか否か。實に重大問題である。若し此の問題が明瞭に理解されぬならば、余の話は何の效力をも發生しない。若し明瞭に理解され得たならばどうであらう。嘗つて温生才は南洋に於いて商賣を管んで居たが、或る時余の話を聞いてからは、商賣をやめて廣東に歸國した。當時廣東に駐防せる清兵は毎年一回瘦狗嶺に於いて操練を行つたが、温生才は其の當日、東門外で滿洲將軍孚琦が瘦狗嶺の操練を閲兵しての歸途に遇つた。彼は孚琦の乗つて居る轎を見て傍の人に、誰であるかと質ねた所、滿洲將軍の孚琦であると聞かされた。これを聞くや、彼は忽ち孚琦の轎に手をかけて、拳銃を放つて孚琦を射殺してしまつた。温生才は滿清を排除せんとして滿人を倒し目的は既に達せられたのであるから、非常に愉快さうで、巡査が彼を捕へてからも、彼は却つて呵々大笑しながら、我が本分は、ただ一滿人を倒せばよいのである。今は既にその目的を達して、萬事終つた。どうなと勝手にしたがよからうと述べたのである。此の事件以來、多くの滿洲人は敢えて廣東に來つて將軍たらうとはしなかつた。最後に到つて、ただ鳳山のみは、余は革命黨を恐れない、余が廣東に赴けば必ずや彼等を絶滅せしめてやる

と豪語したが、鳳山が廣東に到着する以前に革命黨は彼が廣東に來る事を知つて、彼に對して準備を整へてゐた。故に鳳山が一度來るや、革命黨は爆彈を投じて彼を爆死せしめたのである。此事あつて以來、滿人は誰一人として敢て廣東に將軍となつて來る者がなかつた。その原因を推定すると、矢張り温生才が余の話を聴き、革命の道理を理解したのに由るのである。諸君今日この話をきかれた後、若し果して各人が温生才たらんとするならば、その日の温生才は僅か一人にして敵の將軍一人を倒したのであるから、諸君も一人にして敵の總司令一人を倒さねばならない。若し諸君の一人一人が、みな死を視る事歸するが如く、敵と戦つて死するならば、それこそ天下に敵するものはない。かくすれば我が革命軍には、勝利あつて敗北はないのである。

以前の革命の成功は、余の南洋に於ける演説が、温生才の上に効果を表した事によるものである。現在の革命が、成功すると否とは今日余の演説を諸君がきかれて、果して諸君の上に効果を齎し得るか否かによつて分れる。諸君の上に効果を齎し得たか否かを知る爲に、革命の成功に依つて自己は如何なる利益を有するかを質問したい。若し諸君が此の問題に返答し得るならば、吾人の今回の革命は成功し得る。若し諸君が盡く此の問題を理解するならば、一人を以て十人と戦ふ革命軍に變化するのである。諸君、東路討賊軍は現在一萬人であるから、十萬人と戦ひ得るの



である。現在中國に覇を唱ふる者は、幾何の兵數を擁して居るだらうか。目下民國に反對する者は、僅かに曹錕、吳佩孚あるのみであり、彼等の直系の部下は二三萬人に過ぎず、其の餘はみな勢力や利益によつて結合せるもの、例へば廣東に於いては陳炯明を利用し、廣西に於いては陸榮廷を利用するが如きものである。されば彼を滅ぼさんとするには、東路軍全軍を以てする必要はない。ただ諸君のうちの二三千人を以てすれば充分である。彼等民國に反對する敵が滅亡すれば、中國は泰平となり、子々孫々も其の幸福を享樂するを得るのである。諸君は或は、之れを以て、それは今後の人々の事で、我々には何の利益があらうと云ふであらう。元來、世の中の事は、みな利益問題で、利益ある事は何人も喜んで爲すが、利益なければ當然行ふ事を欲しない。吾人が今日革命黨員となる事は一個人にとつて何の望ましい所があるか。元來之れは明白にし難い問題である。併し明白にし難いからとて、明瞭に説明しない譯には行かぬ。明瞭に説明せねば、即ち革命軍たるを得ない。諸君は現在、兵士となつて何の希望を有して居るか。普通兵士となる者はみな官位昇進と蓄財とを念として居るが、若し、他に蓄財の方法があれば、官位など願ふ所ではない。かく大多數は本來官位昇進と蓄財とを念としてゐるが、若し官位と蓄財とを比較すれば、蓄財を以て最も緊要とする。假りに財産を頼んだ人に、官位を昇進させると云つた所で、彼は一

向喜ばず、財産家たるを以て極めて幸福であると考へるであらう。何となれば、其の原因は許多の官吏が却つて財産家に對して迎合しなければならぬからであり、財産家には、こうした好ましい點がある爲めである。故に兵士たらんとする者も蓄財を念とし、殺人放火も亦蓄財を目的とし、追剝、掠奪も亦蓄財を目的とし、官吏となつて無茶苦茶に税を取り立てるのも亦蓄財を目的とし、南洋に身賣りするの亦蓄財を目的とし、外國に赴いて商業を營むのも亦蓄財を目的としてゐるのである。即ち、今夜中に百斤の重さを有する物を擔つて白頭山の頂上に上れば、各人に一萬元を與へると云へば、必ずや多數の人が擔ふであらうし、たとへ體力の不足せる爲め、山の中途で、死するに至つても、自ら死に甘んずるであらう。斯くの如く述べ來れば、世の中の人々の多數は、みな財産を望んでゐるのである。更に翻つて現在の軍人を見るに、みな或る地方に攻め入つて數多の金銀財寶を掠奪せん事を望んでゐるのは、矢張り財産を望んでゐるものではないか。余は今日諸君に演説して、諸君に革命を求めて居るが、若し諸君が、余に、革命にはどんな利益が有るか、と、質問するなら、余は諸君に反問したい、財産を積んで、どんな利益があるかと。諸君は之れに對し、必ず余に回答し得らることと思ふが、余も亦諸君に回答する事が出来る、即ち革命の成功は、一千萬元の財産にも遙かに勝つて居る、と。一千萬元の財産は誠に手に



し難いものであるが、革命の成功は、千萬元の財産を作つたよりも勝れて居るのである。諸君が一千萬元の財産を作らうとするのは、安樂を圖りたい、結構な衣食をしたい、そして子孫に傳へたいと云ふに過ぎない。若し革命にして成功せざれば國家は滅亡してしまふ。國家が滅亡せる後、緬甸、安南、朝鮮の亡國奴の如きは、誰か一人でもよく彼等の財産を維持し得、安樂を圖り結構な衣食を得て、後代の子孫に傳へ得るであらうか。若し革命にして成功せば、國家は自ら強盛となり、外國の經濟的壓迫も自然と侵入する事なく、國內に生じた財富は、また適當に分配されるであらう。かくて、凡そ中國の人民たる者はいづれも、安樂にして、充分に衣食し、永久に子孫に傳へ得るのである。此の故に、革命の成功は、一千萬元の財を積むより遙に勝れるものではないか。諸君は現に一千萬元の財産を有する譯ではない。そんな大財産を作つたならば、定めし大層結構なものだらうと考へて居る丈であるが、併し實際は一向結構なものではない事を、かかる大財産を作つた後には、必ずや、理解するであらう。諸君は現在金がないから金持が結局どんな風かと云ふ事を知らない。金のない時分には、金の出來た後の事を嘸かし何の心配もない事と想像しようが、其れはこうした地位になつた事がない爲め、かかる幻想が起るのである。予は或る富豪の考に就いて、諸君に御話しよう。予が二十年前香港より「シンガポール」に赴く際、圖

らずも一人の財産家と同船したが、聞く所によると彼は當時既に千餘萬の財産を有して居り、其後遂に七八千萬に達した相である。二十年前の汽船は實にのろ／＼したもので、十數日を費して漸く香港より「シンガポール」に到着したが、其時一等船室を占めたのは、ただ予と其の財産家との二人のみであり、船では別に散歩する場所もないので、毎日二人は一緒に暮したが、出帆後二三日で、誠に退屈を感じ、毎日朝から晩まで、彼と世間話を交して居つた。最初會つた折に、一言挨拶を交したのみで、彼が南洋の大富豪である事を知つたが、當時彼の家産が既に一千餘萬あるを聞き、彼はかかる大財産をなした人物であるから定めし非常に才能あり、頗る見識ある人物だらうと考へ、彼としく／＼談る事を樂みとし、南洋華僑の状況を彼から探り聽き、革命宣傳の準備にしたいと思つて居た處、彼は實に金をつくる事以外には何等一つとして知る所がなかつた。彼が毎日子に語る所は、みな彼一個人の苦惱を訴へることばかりである。予は彼が偽つて斯様な風を装ふものと考へて居たが、其の後仔細に探聞して始めて、彼は眞に人生の憂愁苦痛を受けつつあり、決して偽つて装つたものでない事を知つたのである。予は種々の方面から彼を指導し、説き諭したが、彼は一向に氣持を寛ろげて樂觀的に變化しないので、予の退屈をして一層退屈ならしめてしまひ、實に厭はしさに堪へられぬので、後には特に彼を避けて三等船室に赴いて



三等船客が如何にして日を過して居るかを見たのである。其の汽船は、所謂猪仔船で、南洋に赴いて労働する、労働者、所謂猪仔を運送する船であつて、當時予は其の船賃が安い爲め、其の船に乗つたのであるが、他の客は皆かかる船に乗る事を好まないのに、彼の南洋富豪が乗り合はしたのは、恐らく予の考と同様で、船賃の安いので慾張つて其の船に乗つたものであらう。同船の労働者は約一千餘人であつたが、予は三等船室に行く以前には、彼等は、猪仔客であつて、苦しい労働に身を賣つたものであるから、其の愁苦は嘸かし富豪に勝るであらうと考へて居たが、豈計らんや、予が一度三等船室に足を踏み入れて、多數の猪仔客を見た時、或は歌ふ者あり、或は胡琴をひき、三弦を弾する者あり、或は骨牌をなす者あり、或は談笑する者あり、まことに樂しげに打とけて、其の樂しみ極りなき有様で、之を富豪の感想に比較すれば、眞に雲泥の差が有つた。予は此の光景を見た後、船室に歸つて彼の富豪に對して云つたのである、あなたはあの猪仔客が如何に樂しげであるかを見るがよい。彼等は少しの財産さへも有してゐないが、却つて憂もなし、心配もない。人生は眞に彼等に學ぶ必要がある。彼等は其の境遇に應じて、樂天的に日を過して愉快ではないか。何ぞ自ら幾多の煩悶を作つて徒らに自ら苦しむ必要があらう、と。彼の富豪は直ちに之に答へて「嗚呼、あなたは全く何も知らない。私が以前南洋に渡つた時は矢

張り一人の猪仔客としてであつて、當時の私は彼等と同様に愉快であつた。其の後粒々辛苦して一生苦勞した御蔭で今日に至つたのであるが、現在では子供や孫が澤山になつて、其れが皆私に頼つて生活しようと思ふのである。長男は學問させたが、碌な事を見做はないで身を持ち崩し、外に在つては女狂ひや賭事遊びに夢中で、聞けば最早百數十萬の負債をしたとの話、彼が當然分配さるべき財産は最早や使ひ果してしまつた譯である。現在第二子は初めて二十歳に達したばかりに過ぎないのに、早くも長男に仕込まれて、彼同様の眞似をして居る。其の他未成年の子供や孫が成長したならば、またく之れと同様になつてしまふ事と思ふが、之れは何としても防ぎ様がない。かく考へて來ても、あなたは、私に苦勞がないと云はれるのか。私の一生は艱難辛苦、僅かばかりを貯へ積むのに、衣服を節し、食物を減じて來たのである。今回南洋に渡航するに就いても、私の香港に於ける出張員達が他の會社の船切符を買ふと云ふのを許さないで、此の猪仔船の切符を買はさせたのである。私はかく吝嗇であるのに、息子達は前述の様に浪費し、一度の賭事に一萬元を負けても構はぬといふ有様である。つくづく考へて見ると、私が死ねば數年ならずして、彼等が私の財産を蕩盡してしまふのは必定である。之れでも、あなたは私が心配するのが當つて居ないと云ふのか」と余を詰問したのである。此の事實に徴して見ても、大財産を作つた後は却



つて更に心配苦勞が加はる事が知れよう、之れは如何なる故であらうか。其れは此の世界がよろしくない、吾人の環境がよろしくない、吾人の國家がよろしくないからである。吾人は、此のよくない環境を改造せんと欲するならば、先づ吾人の國家を立派に造る事を要する。國家が立派に改造されるれば、國民一般は安樂を得、吾人の子々孫々も永久に幸福を享樂する事を得よう。併し之れに反するならば、大財産を樂いても、其れは彼の南洋富豪の如く實に空なものに過ぎない。諸君の中には多數の廣東人が居られるが、其の人達はみな、廣東には昔十三間屋が有つて、現在西關に十三行と呼ぶ街のある事を知つて居ると思ふ。此の街は嘗つて貿易商人の住居して居た街で、十三間屋の中、財産一千萬以上を作つたものに、潘、盧、伍、葉の四大家がある。此の四氏は、財産のある時代に於いては、其の邸宅は宏大を極め、各家みな花園を有し、子孫は驕奢淫逸で、富に誇り名譽に傲つて居たが、現在に至つてはどうであらう。彼等の財産は數十年ならずして、無に歸してしまつたのである。此の一事を以てしても、幾千萬の財を積んで子孫に傳へるといふ事は、誠に頼りない話である。また南洋の大富豪が、吾人が頗る氣樂であらうと考へて居たのに、其の心中は却つて三等船室の猪仔のあした愉快さにも及ばないといふのは、財産家は必ず心配苦勞が多く、自分の一生は先づよいとしても子々孫々までは傳へて行けないと感ずるか

らであり、此の最初の話に徴して見ても、諸君が將來、財産を作つたならば、必ずや彼等と同様であるに違ひない。

吾人の革命に就いて云へば、對外的には民族主義を以て、毎年十三億の損失を取り返へさねばならぬし、對内的には民權主義を以て國家を一大會社に變化せしめ、此の會社内の人にはみな純益を分配する様にせねばならぬ。また民生主義の爲には、國家の力を以て南洋華商の如く礦山を開發する。各種の礦産物を産するに至れば、諸君はみな財産をつくつたも同様となる。其の外、交通を整備し、工業を振興し、農業を助成し、中華民國を一個の黄金世界に變らせねばならぬ。此の目的を達成した曉には、諸君は其れこそ人生の眞の幸福を享樂する事が出来、子孫も窮迫しないですむのである。嘗つて南洋の富豪は其の財産を二代ならずして無一物に化し、廣東十三間屋の潘、盧、伍、葉の四家は子孫三代にして乞食に成り下つたが、吾人の革命にして成功し、中國を變じて黄金世界となす時は、ただに一個人の子孫が幸福を享樂するに止らず、衆人の子々孫々がいづれも永久に幸福に暮し得る。兩者の状態を比較して見よ、諸君は果して財産を望むか、或は革命の成功を冀ふか。余の考では、革命成功の方が遙によいと思ふ。此處まで来て、若し諸君が余に、革命の成功は利益か否かと問ふならば、余は答へよう、革命の成功による利益は、財



産を積む利益にまして遙に大であると。諸君にして此の道理が明白になれば、よろしく進んで決死隊となり、生命を棄つべきである。嘗つて温生才は此の道理を明にせるが故に、よく孚琦を倒した。故に吾人もよく、曹錕、吳佩孚を倒し得る。曹錕、吳佩孚を倒せば、中華民國は四億萬人の一大會社となり、吾人はみな此の會社の株主となり、一千萬元の財産を得るに比較して更に遙に勝つてゐるのである。嘗つて南洋に赴ける猪仔労働者中、よく一千萬元の財産をなしたものが幾人あらう。先づ一萬人中一人はむづかしい。諸君現在此處に此の話を聞いて居る人々は何人であるか、一千萬元の財産を積むことは果して容易であらうか。否、極めて困難である。革命を成功せしむる事は、果して困難であらうか。否、實に容易である。故に、余は今日諸君に、諸君が困難な事を行はず、容易な事を行ひ、財産を作る努力を以て革命に従はれる様に勧めるものである。革命の成功は、自己のために幸福を造るものである。諸君の長官はみな革命黨員であるから嘗つて或る者は、此種の話の聞いた事と思ふ。今回、東江の戦に一時失敗したけれども、併し今後は諸君はみな革命軍に變化し、決死隊となり、同志協力して曹錕、吳佩孚を倒さねばならぬ。然らば吾人の革命は永遠に成功を告げて、中國は即ち黄金世界となり、諸君の子々孫々は此の世界に在つて、永久に幸福を受くるに至るであらう。

## 仁義の師は官途の昇進や蓄財を願はず

— 民國十三年三月二十四日、雲南軍に對する演説 —

雲南軍將校兵士諸君。雲南軍は此の兩三年、何故廣東に來る様になつたのであらうか。其の源をただせば、民國十年、本大元帥が桂林に赴いて北伐を準備した事から始まる。當時、顧總司令は雲南に在つて、頗る意氣軒昂として國家のために努力せん事を思ひ、雲南の地盤を他人に維持せしめて自己と一身一體の諸君雲南軍を率ゐて、本大元帥に従つて北伐し、國家のため一大事業を行はんとした。顧總司令が當時北伐せんとした其の心掛けは、普通人とは異つてゐる。普通人の心掛けて居る事は、みな官途の昇進と蓄財とである。彼は固より雲南の總司令であつて、若し當時彼が専ら官途の昇進を望むならば、總司令としての其の官は最高のものである。また蓄財を願ふならば、雲南の地盤を有して居るから、阿片を栽培し賭博場を開設し民衆の財物を徵發しさへすれば、數千萬の財を築く事も意のままである。然るに顧總司令が雲南の地盤を棄てて北伐を志したのは、即ち官途の昇進を求めず、蓄財を求めなかつたからである。彼が出陣の頃になつて唐繼堯が雲南に歸つてきた。唐繼堯の雲南歸來の目的は、如何なる點に在つたのであるか。それ



は官途の昇進と蓄財にあつた。唐繼堯は嘗つて多年雲南に在つて、ひたすら官位と蓄財とに心を用ひ、竟に部下より推戴せられざるに至つたので、省外に逃げだしたのである。香港に来て後も、一人として彼を相手にする者はなかつたが、本大元帥は、彼は多年雲南に在つたからして必ず多少の見識と能力を具へて居り、未だ何か仕事が出来たらうと考へ、彼を廣東に招き大義を以て彼を感化し、改めて國事に努力せしめ様とした。併し乍ら、彼の眼中には、たゞ官位と蓄財とあるのみであつた。余と談話を交した後、余が主義の爲めに犠牲となつて苦痛を受け、冒險奮闘して、國利民福の事業を爲さんとするのを知り、彼は参加を希望せず、結局不賛成で、廣東に數日留り、香港に立去り雲南の土匪をして彼を推戴せしむべく運動したのである。彼が廣西を通過する際、柳州の雲南軍の一部は、大義を明にせずして、彼に従つて雲南に歸還し、遂に雲南を土匪の世界と化せしめ、顧總司令は生命を失ふに至つた。之れ皆唐繼堯が官位と蓄財を思ふて權を争ひ利を奪ひ、朋友を顧みず、同家を顧みざる罪惡である。顧總司令は既に死せりと雖も、併し乍ら各將校諸君は、顧總司令が果し得なかつた志を繼がん事を願つて、雲南を去つて北伐に参加したのである。之れ諸君が雲南を去つて、廣東に來つた所以である。諸君は雲南を出發以來貴州、廣西等の瘴氣極めて深き地を經過し、漸くにして廣東に到着した。其の道すがらの辛苦は

並々ならぬものである。諸君は廣東に來てからは僅か一年餘に過ぎぬが、雲南出發以後の旅程にも一年餘を費してゐる。かくも長い時間を要したのは何故であらうか。其れは、さきの北伐で、顧總司令が中途に於いて變亂に遭遇したばかりか、本大元帥も亦廣西に於いて艱難に際會したからである。顧總司令が雲南出發當時、本大元帥も桂林を出發したが、突然趙恒惕と陳炯明とが聯絡して、北伐軍の湖南通過を阻止した。當時の北伐の路程は、最も近いのが湖南より武漢に至るものであつたが、趙恒惕は一方北方に通じて、北伐計畫を破壊せんとし、一方吾人を偽つて北伐軍をして道を改めて江西に出でしめんとした。曰く、若し北伐軍にして能く江西に侵入し得たならば、湖南も亦兵を出して江西を討たうと。我が北伐軍の目標は本來北方を討たうとするに在つて、南方相互に衝突するを望むものではない。故に北伐の進路を改めたのである。北伐軍は桂林を出發以來、一ヶ月を出でずして、韶關に集中し、進んで江西境に到り、攻撃を起してより三日ならずして、大庾嶺の大勝利を得、梅關を攻め破つて北伐軍は完全に江西に進軍した。三週間にして贛州を奪つたが、贛州は江西の最も險要の地域であつて、歴代兵を用ふるも未だ嘗つて攻破り得た者が無かつたので、北京政府は、斯様に險要の贛州を北伐軍が容易に打ち破る様では、此の後守るべき要害の地もないから、まさに勢破竹の如く長驅して直に南昌、南京に到るのは誠に



容易であらうと、大恐慌を來した。そこで一方では宣言を發表して護法に賛成し、一方では陳炯明を買収して後方に於て叛旗を翻さしめた。故に陳炯明は廣東に於いて一夜兵を發して觀音山を砲撃した。當時觀音山を守る者は、ただ我が數十名の衛兵あるのみであつたが、一日一夜抵抗し、多數の敵兵を殺したので、敵兵は敢えて觀音山に進み得なかつた。余は彼等が事を起す數時間前、既に軍艦楚豫號に搭じて艦上より砲撃して、また敵兵の多數を殺傷した。其の後黃埔に艦をまはして敵軍と對抗し、敵軍はまた長洲砲臺に據つて我が軍艦と應戦した。余はそこで軍艦永豐を統率して白鵝潭に乗込み、戦ふこと四十日に及んだ。黃埔に於ける戰爭期間をも通算すると、合計五十六日になる。此の期間内は、廣東に駐屯せる軍隊はみな亂黨と化してしまつた。我が北伐軍は、いづれも贛州に進み、更に河を下つて吉安に到り、廣東域内には敵と對抗すべき一兵もなかつたのである。ただ諸君一部分の北伐雲南軍が既に柳州に到着せるを聞き及んで、非常に喜ばしく感じ、諸君雲南軍が速に廣東に來つて先づ内亂を平定する事を待望したのであつた。若し其の時諸君にしてよく廣東に來り得て居たならば、廣西に於ける艱難辛苦も恐らく減少して居たであらうが、其の間彼此の消息が通じなかつた爲め、諸君はただ陳炯明が既に廣東を占領して居て、容易には攻め降されぬと聞いて、廣西に殆んど半ヶ月近く滯留してしまつた。其の後、

我が江西に於ける北伐軍は陳炯明の反を知つて、直に軍隊を引上げて陳炯明を討ち、韶關に於いて二十數日間戦を交へたが、食糧と彈藥の二つを補充する能はず、消息も亦隔絶し、同時に陳炯明は江西の北兵に運動して後方から挾撃せしめた。前後に敵を受けて行くべき道がないので、一先づ江西南部に退却して、福建に侵入し、李厚基を驅逐し、李厚基が十數年間蓄へた武器彈藥を皆分捕つて補充したので、是に於いて北伐軍の勢力はまた一變して雄厚となつた。後來、余は上海に於いて、諸君廣西に於ける雲南軍が矢張り東下せんと願つてゐると聞いたので、人を派して消息を傳へ、諸君の廣東に來たる事を歓迎した。當時、梧州に駐屯せる軍隊はいづれも陳炯明の部下で總計四五萬人を有して居たので、將校諸君は、自己の軍隊は七八千人を有するに過ぎず、どうして克くかく多數の敵兵を打破し得ようと、頗る懷疑の念にかられ、延引また延引して、敢えて輕々しく發動しなかつた。併しその後、各將校諸君は、大義を明にし、將來よく北伐し得んがためには、先づ陳炯明を打破するに非ざれば不可である事を知り、遂に進軍を決意し、冒險して東に進んだが、行く行く多數の友軍に歓迎され、あまり力を費さずして廣東に到着し、今日既に廣東に在つて一年二ヶ月を經過するに至つたのである。諸君は此の期間内に在つて一體何を行つて來たであらうか。諸君が今回廣東に於いて際會した最大の事件は、即ち沈鴻英の謀反である



沈鴻英は本來、雲南軍と共に廣東に来て陳炯明を討つたものであるのに、何故に再び寢返へつたのであるか。それは、彼が私かに北方と通じて居たからである。彼は何故北方に通じなければならなかつたのか。彼は仁義の軍隊でなくて、只管ら官位と蓄財を念とするものであるからであり、北京政府から金を得て、即ち利を見て義を忘れたのである。故に、本大元帥が去年、廣東に来る以前に、江防會議の變を發生し、廣東到着後三ヶ月ならずして、彼は白雲山の兵器廠より廣東に來り攻め、小北門と農林試驗場に於いて戦ひ、吾人は殆んど彼のために敗北全滅せんとしたが、諸君雲南軍が極めて大きな犠牲を拂つて彼等と奮戦した爲め、遂に彼等を敗退せしめたのである。沈鴻英は敗退後間もなく再び北兵と結托して北江より廣東省に侵入し、花縣新街を攻めたが、諸君雲南軍がまた之を撃退した。北江の敵軍が敗退して幾ばくもなく、今度は陳炯明が東江に於いて反をなし、吾人はまた之に應じて對抗したが、東江の敵が完全に掃蕩されぬ内に北江の敵軍が再び襲來したので、雲南軍は全力をあげて北江の敵に應戦し、敵を始興、南雄以北の線に撃退した。併し東江の敵がまたも石龍、増城より廣市を攻め、石牌、沙河に侵入し、廣東は殆んど危機に瀕したが、幸に雲南軍將士が同心協力して抵抗し、遂に陳炯明の軍を撃退したのである。現在陳炯明の叛軍は石龍増城をさる事、依然甚だ遠くはない。本大元帥は、更に諸君が彼等

を完全に掃蕩する事を求め、現に湖南軍の全部を東江に参加せしめ、既に前線に集中した。軍の配置が完備すれば、十日を出でずして惠州潮梅に進撃し得るのである。今回の東江鎮定は必ずや最後の成功を収めて廣東は統一されよう。廣東が統一されたならば、なほ如何なる事を爲さねばならぬだらうか。廣東に於いて、今後太平を味つて差支へないだらうか。若しかかる心得であるならば江西の敵は必ずや北江より來冠し、陳炯明の餘毒は東江より來り犯し、陸榮廷の土匪は西江より來り攻むるであらう。現に北京政府は趙恆惕をして陸榮廷と協同せしめ、湖南、廣西より一齊に廣東を攻めんとして居り、各邊の敵はまた謠言を流布して曰く、北京政府は多額の金を用意して廣東に於いて雲南軍を買収した、と。これは、北京政府の計劃でもあり、また眼前に起れる事實でもある。若し吾人が北京政府の金錢を受けて行動すれば、兵士は數十元、下級將校は數百元、中級將校は數千元を得、高級將官に至つては數萬元を得、各人に皆思ひ付けぬ金があるが、こむ。結局、之れはうまい話だらうかどうか。嘗つて、雲南軍の楊とよぶ二人の師團長が、北京に投降した後、數多の旅團長、聯隊長は之れにつづいて香港に赴き北方援助を相談した事があるが、彼等は何故にかうした事をせねばならなかつたかと言ふに、彼等はいづれも官位と蓄財とを念願して居たからである。彼等の如く、かく道理を辨へずして北方に投降し、そして官位



に就き、金持になつて、將來果して永久不變であらうか。彼等の如きは、北方に投降して人格を顧みず、ひたすら富と錢を欲して身を賣つた事を、世人はちやんと知つて居る。之れ實に臭名ではないか。將來之れを記載する歴史は、千古に之れを傳へて、萬世の後まで人に痛罵されはしないだらうか。故にかかる不正の官位と財産とは、一時の幸福を齎し得るかも知れぬが、併し到底天人共に許さざる所であつて、悪い人間には決して好い結果はない。此の道理により、かかる艱難困苦の中に在つて善處するには、操守が正しく固くなければならぬ。今回廣東に來たのは大義の爲めであり大義を固く持するを要する。嘗つて顧總司令は大義の爲めに賊を討つて生命を惜しまなかつた。之れは國家に報效し、國利民福の一大事を爲さんが爲めである、我が南方革命は、幾多の生命を犠牲とし、幾多の鮮血を流したか知れない。之れは何故であらう。之れみな革命の成功によつて、一の極めて安樂なる國家を造り、人民をして幸福ならしめようと思ふからである。此の趣旨を抱いて奮闘する軍隊、之れ即ち仁義の師である。雲南軍の今回廣東に來るや、顧總司令の志を繼いで、革命のために奮闘し、多大の犠牲を拂つた。眞に仁義の師であり、行ふ所の大事の一半は成功したと云ふべきである。若し再び北伐を敢行し、江西を收め、中國を統一するならば、爲さんとする大事は完全に成功するのである。

吾人の今回の北伐は、江西を得るに到りさへすれば、中國を再び統一する事は、頗る容易である。何となれば、北方に於ける革命軍と志士仁人とは、現在多數の代表を廣東に派遣して、吾人の北伐を要求して居る。我が軍隊が江西を獲得しさへすれば、彼等は響應するであらう。將來彼等が、響應する形勢は、十三年前の革命と殆んど大差がない。辛亥革命の時に當つては、革命黨は無論如何なる省にも正式軍隊を有しなかつたが、滿清政府は、各省にみな訓練された立派な新式軍隊を有し、更に彼等の政令は頗る統一されて居て、各省の人民はみな滿清政府の政令に全く服従して居たのである。併し革命黨がただ武昌に於いて義兵を擧げたのみで、各省は同時に獨立して武昌に響應した。例へば諸君雲南の新式軍隊は、當時革命黨が武昌に起義するを聴くや、直ちに白旗を掲げて、滿清政府の官吏を追ひ、革命的都督府を樹立して、武昌と響應したのである。其他の各省、江西、湖南、四川、貴州、廣東、廣西、浙江、福建、山西、陝西、甘肅、新疆及び東三省の革命黨は、みないづれも一兵を費さず、一矢を損せずして武昌に響應した。ただ江蘇のみは革命して、張勳を追ひ、南京を攻圍して戦つたが、久しからずして南京を破り、各省の仁人義士は城内に於いて政府を組織し、本大元帥を臨時大總統に選舉し、中華民國は此處に成立し、滿清帝國は滅亡したのである。故に十三年前の革命には、革命黨がただ武昌に在つて、高き



に上つて一呼すれば各省響應し、一步も武昌を離れて戦を交へた事はなかつた。其の後、武昌の革命軍は武昌を去つて戦ふ能はざるのみか、却つて北京より派遣された湖北の清兵のために附近の漢口、漢陽を攻め落された。漢口はあたかも廣東の河南の如く、漢陽は廣東の花地の如く、三市鼎立して居り、ただ河一つを隔つるのみである。當時清兵は革命軍と交戦して、三週日ならずして漢口を得、三ヶ月以内に漢陽を陥しいれ、革命黨は僅に一孤城を守るのみで、河を隔つればみな敵軍で、清兵は毎日武昌を砲撃し、砲弾、小銃弾は雨の如くに降りそそぎ、彼等は何時でも武昌を破る事を得、何時でも武昌の革命黨を全滅し得るに至つた。かかる結果に至つた武昌の革命黨は、しかも何故に失敗しなかつたのであるか。それは各省の仁人義士が、同心同體となつて響應したために、其の革命はよく成功し得たのであり、民國が成立し得たのである。併し乍ら、民國成立後は、國家を管理する政權を、人民が争つて自己の手に入れる事をしなかつた爲め、之が軍閥官僚の手に歸してしまひ、それ等の軍閥官僚が事をとつてゐる爲、名は共和であるが實は專制であり、總ての人が皇帝たらん事を期してゐる。袁世凱の如きは四年足らずで、自ら洪憲皇帝と稱し、其の後張勳はまた復辟を圖つた。故に北方政府は、常に、武力を以て中國を統一し、人人の勢力を消滅せしめ、共和を顛覆して帝制を復活し、人民を彼等の奴隸たらしめんと夢想し

て居る。現在全國の人民はみな之を覺り、彼等のかかる思想と行爲は斷じて信用すべからざる事を知り、みな速かに北方政府を顛覆して將來の不幸を除かん事を願つて居る。此の理由によつて北方各省の軍隊は、彼等が從來革命黨に加入せず、北方政府に反抗しなかつた事は、北方政府の命令に従つて居たものである事を知り、現在は一日毎に、革命軍に變化せん事を志してゐる。即ち北京城内の軍隊も亦大部分が革命に賛成してゐるのである。彼等は何故かくの如き新しい覺悟をなしたのであるか。それは彼の官僚の古狸共がみな私利私欲に走つて、少しも眞に共和のためにせず、共和の看板をかつて政權を取得し、以て再び帝制を恢復せんとして居るに過ぎない事を看破したからである。此の道理を知るが故に、北方に於ける多數の學生と軍人とは、みな我軍の北伐を待望してゐる。若し吾人が北伐するならば、彼等は早速北方に在つて呼應し、北方政府を背後より打ち拆くであらう。嘗つて、我が北伐軍が、丁度贛州に達した時、曹錕、吳佩孚は護法を宣言した。護法は本來我が南方の革命理論であつたものを、何故北方軍閥はこの理論を以て宣言としたのであるか。それは彼等が、その内部の多數の人々がみな吾人の護法に賛成して居るのを知つたからで、ために彼等はああした宣言を發表し、内部の傾向を緩和して、内部の者が吾人に響應して革命せんとすることを免れざるを得なかつたのである。北方軍閥は護法に賛成せる後



何事を行つたであらうか。彼等の行つた大事は、多額の黄金を散じて一般厥の仔議員を買収し、曹錕を大總統に選舉した事である。曹錕が大總統に就任してからは、國利民福に關する事は何一つとして行ふ事を知らず、却つて武力統一の夢想にとりつかれ、一般軍閥をして國內を横行せしめた。例へば、楊森をして四川を攻めしめ、孫傳芳をして福建を討たしめ、陸榮廷、馬濟をして湖南、廣西を攻めしめ、沈鴻英、陳炯明をして廣東を攻めしめ、四川、湖南、福建、廣西、廣東の數省の人民を日々不安に陥いれ、日々兵禍の苦痛をなめしむるに至つた。北京城内に於ては孫寶琦といふ老耄官僚を用ひて内閣總理となし、事々に復古を求め、更に專制を恢復せんとし、皇帝たらんと期した。北方の人民は彼等の此の舉動を見、中國の前途は一層危険であると感じ、日毎に南方の一刻も速に北伐に出動する事を望んでゐる。彼等をして北方に在らしむるのは、また救國濟民の大事をなし得る機會でもある。かく考へて來ると、北方軍閥、官僚を倒し、中國を統一し、中國を極めて強盛なる文明國家に變化せしむるには、ただに南方革命黨が此の思想を有するのみならず、北方の軍隊、學生及び一般の覺悟を有する人々がみな此の思想を有せねばならぬ。これこそ、全國國民の現在の心持であり、これこそ、全國々民の現在爲すべき大事業である。吾人は廣東に在る事一年餘、今尙北伐せぬので、北方の人心は、大いに失望し、吾人に對し

て甚だよからぬ批評、即ち、吾人が廣東を得て以來一地方に割據して長く安樂を享樂し、再び奮闘して國家の大事をなさうとせぬのは、實に元氣がないではないか、と云ふ。これは、彼等が吾人の内部の困難を知らぬ爲かかる失望を生じ、かかる懷疑を抱くのである。吾人は現在東江の敵に對し、十日ならずして進撃し得る。そして東江を恢復して我手に收むる時は、廣東を統一する事が出来る。廣東を統一し得れば、二ヶ月以内には、北伐を實行し得る。北伐の時至らば、更に各將校兵士諸君は力をつくして奮闘しなければならぬ。諸君の知らるる通り、凡そ物事は、何でも半途で廢したり、途中で愚圖愚圖停頓したりしてはならぬ。若し途中で停滯するならば、結果は生じない。極めて些々たる事でもみな一樣である。例へば飯を炊くが如きは、日常の一些事に過ぎないが、若し火をたきつけ、米もよく洗つてあつて、完全に準備がととのひ、釜を竈にかけて炊きかけながら、途中で停頓して薪を入れる事を怠れば、釜の飯は果して充分煮えるであらうか。吾人の口に入れ得る飯が出来るであらうか。若し吾人が急いで飯を食ひたいならば、急いで飯を炊かねばならぬ。即ちどしどし薪をくべて、途中で停頓してはならぬ。大小の事、みな道理は共通である。雲南軍の初志は、本來北伐にあり、この大事をなさんとするにある。若し今日廣東に駐屯して前進せざれば、この大事は失敗に歸してしまふ。失敗に歸した後は、如何なる状



態を呈するであらうか。將校は即ち逃走四散し、兵士は消滅してしまふ。消滅するとは、戰場で死ぬるのではなく、四方に逃げ散るのである。従つて雲南軍の現在の如く威武を耀かす局面は、最早再び保つ事を得ず、完全に無に歸してしまふであらう。これが即ち停頓したり、北伐しなかつたりする結果である。諸君が、かかる好ましからぬ結果を理解し、此の危険より免れんとするならば、停頓してはならぬ、北伐せねばならぬ。五嶺を越え、揚子江に出で、北方の同志と聯絡せねばならぬ。吾人が揚子江に到れば、揚子江以北の事は、北方の同志のなすに任せ、吾人は決して之れに煩はされずともよい。若し大いに元氣ある者ならば、北方の同志に参加して更に奮闘するとも、それは諸君の隨意である。要するに、我が南方革命軍の努力、南方革命軍の任務は、ただ揚子江まで進出するに在るのみ。揚子江に到達せる後は、北方の同志が響應するであらうが吾人が揚子江まで進出しなければ、彼等は敢えて行動を起し得ないのである。故に全國々民の現在希望する所は、ただ吾人の揚子江進出あるのみである。

吾人の革命は、本來、一の大事を行はんとするものである。革命成功せば、それこそ幸福を享樂し得るが、若し不成功に終らば、之れ迄實行した事は、總て徒勞無效に歸するのである。吾人の革命が成功したならば、結局、如何なる利益があるのか。之れは亦、諸君が明瞭に知らねばな

らぬ事である。普通人の考へる利益は、ただ官位の昇進と蓄産とであつて、此の目的を達すれば満足してゐる。では之れが革命成功の甚だ利益ある點であらうか。革命成功の甚だ利益ある點は立派な國家の出來上ることである。立派な國家が出來上る事と、官位昇進と蓄産と此の兩者を比較する時、いづれが一層勝つて居るであらうか。吾人が、官位昇進と蓄産とが、よいものか否かを知らんと欲すれば、既に高官に昇り、財産家となつた人々は如何なる状態であるかを知らねばならない。既に高官になり財産家となつた人々には、南方には龍濟光があり、北方には李純がある。然し李純と龍濟光とは、今日個人に對して如何なる利益があるか。又彼等は國家に對して如何なる利益があるか。吾人は、彼等の如き人を如何なる存在と見做すべきであらうか。世界の人は又彼等を如何なる人間と見るであらうか。官位昇進と蓄財とは、國家に對して何等の利益をも齎らさない。又個人に對しても有難い所はない。若し國家の改造を終了するならば、中國は如何なる國家となるであらうか。吾人は如何なる國民となるであらうか。中國の革命は、既に十三年を経たが、僅かに中華民國といふ空名を勝ち得たに過ぎず、民國の内容に到つては少しも存しない。故に従來の革命はいづれも失敗であつた、成功ではない。十三年以來盡く失敗である。では成功の曉には、一體如何なる利益が有るのであらうか。目下之れは容易には述べられぬ



述べて見ても諸君は中々わからないであらう。中國の革命は成功を見ないであるが、外國の革命は澤山成功してゐる。最近では、日本がある。日本の維新は、諸君の皆知らるる如く成功したが、維新の事業と、革命の事業は同一であり、維新の成功は即ち革命の成功である。革命が成功してから、彼等は實に降昌を極めてゐる。遠い事はさて置いて、最近諸君は白鵝潭に在つてそれを目撃し得るではないか。今回、吾人が争ふや、外國は二十數隻の軍艦を派して白鵝潭に示威せしめてゐる。派遣軍艦の最も多數な國家には、英國佛國米國がある。いづれも世界の最強國であるが、此の外に尙日本がある。日本は何故に、よく來つて示威し得るのであるか。それは彼も同様に強國であるからである。日本の國際的地位は五大強國の一であり、彼等の國民は到る處に於いて人に尊敬せられる。我が中國人は人に尊敬されるであらうか。外國人は誰一人として吾人を輕視しないであらうか。誰一人として、吾人を亡國奴と罵しらぬ者が有るであらうか。現在の列強は、いづれも中國を共同管理して、中國の領土を彼等の屬領とし、中國人を彼等の奴隸たらしめ様と考へてゐるのである。今回軍艦を派遣して示威するのは、即ち、吾人がよく發奮して勇者たり得るか否か、革命が成功し得るか否かを見る爲である。吾人の革命が若し果して成功し得れば、彼等の軍艦は錨をあげて去り、若し成功し得ざれば、彼等は吾人をまさに安南、緬甸、

同様に待遇せんとするのである。諸君雲南軍中には古兵と新兵とがあつて、新兵は廣東に於いて補充せるものであるが、古兵はみな雲南より來たものである。諸君にして眞に雲南より來た者であるならば、即ち雲南の西邊に緬甸あり、東邊に安南ある事を知つて居られるであらう。緬甸、安南は從來日本と同様であつたが、日本は革命に成功せるが故に、よく英國、佛國、米國と共に齊しく來つて示威し得るが、現在の安南、緬甸は革命不成功のために、日本の如く共に來つて示威する能はず、ただに白鵝潭に於いて示威し能はざるのみならず、更に安南は佛國の奴隸となり緬甸は英國の奴隸たらねばならぬ。安南を日本に比較するに、土地は一層大であり、人口數も大差ないが、安南は従前革命する事を知らなかつた爲めに、國は亡びて佛國の奴隸となり、日本は嘗つて革命する事を知つた爲めに、變じて強國となり、英米と肩を並べて進み、英米が軍艦を派遣して示威を行へば、日本も亦軍艦を派して示威を行ふのである。諸君が街上に於いて、若し日本人と安南人とに出會つたならば、如何なる待遇をするであらうか。若し日本人だとすれば、直ちに彼に敬意を表するであらうし、安南人だとすれば、即ち、あいつは亡國奴だと云ふであらう。吾人の革命が不成功ならんには、中國は亡國とならねばならぬ。雲南は即ち亡省とならねばならぬ。そして諸君はみな亡國奴となる、故に吾人の革命は成功せしめざるを得ない。この理由



により、吾人は目下廣東にあるが、斷じて北伐を敢行しなければならぬ。中國の存亡は即ち吾人がよく北伐を爲し得るか否かに繫つてゐる。若し北伐し得れば、革命は成功し得て、中國は永久に滅びる事はない。併し若し北伐を爲し得ざれば、革命は失敗してしまひ、中國は亡國となり、吾人は緬甸人安南人と同様、變じて外國人の奴隸となり、亡國奴とならねばならぬのである。即ち官位の昇進も、財産も共に望み得られなくなるのである。諸君の現に居る處は廣東であるが、此處より雲南に歸らんとするに最も便利な道順は、安南の海防を經過する事であるが、安南に行けば、河内に住居する安南に於ける最も著名な大官、黃高啓といふ人のある事を知るだらう。嘗つて安南の亡國前に在つては、彼は宰相であつた。故に彼は大官となり大財産を作り、彼が頗る金を有するので、彼は河内の産業の大部分を左右して居り、其の邸宅の花園も亦非常に宏大である。併し乍ら安南は現在既に國亡びて空しく、爲に彼は大官となり財産家とはなつたが、矢張り佛國の奴隸とならねばならないのである。國家亡びては、外國人の奴隸たらねばならぬ。即ち黃高啓の如く大官たるも、黃高啓の如く大富豪たるも、彼を亡國奴と罵らざる者はないのである。かくて尙彼は何の榮譽を有し得よう。國家の存亡は吾人國民と甚だ大きな關係を有するものである。若し國家強盛ならば、國民全體は榮耀であり得るが、國家が衰弱すれば恥辱を受ける。日本

の維新の如く國家をよく革命し得れば、變じて強盛となり、國民の個人個人は香ばしくなくとも到る處みな人に敬意を拂はれ、人々がみな彼は大國民であると稱讚するが、若し然らざる時は其の個人が非常に立派でも、到る處で輕視せられ、到る處で人から虐待を受ける。例へば日本人と中國人とを比較すれば、日本人は自然と中國人に比して遙に尊敬せられる。かかる尊敬が一體どれ程のものであるかと尺を以て量る事は出來ぬが、極くつまらぬ事と比較し得る。中國人の地位と、日本人の地位とは結局どれ程の差があるであらうか。諸君は、南洋爪哇の商人の大多數が中國人である事は知つて居られるだらう。其の地方の最大の資産家も亦中國人である。中國人に於いて其の地方に於いて、幾百萬、幾千萬の財産を有する者は非常に多く、南洋で大資産家たる華僑は多く爪哇に住居してゐる。爪哇は和蘭の領土であるが、爪哇に於ける中國人の富豪は其の如何なる地位を占むるものであらうか。吾人が中國大富豪が爪哇に於いて如何なる地位を占めて居るかを知らんとするならば、先づ華僑は爪哇に於いて和蘭政府から如何に待遇されて居るかを知らねばならぬ。爪哇の華僑は和蘭政府の最も甚しき虐待を受けて居て、其の行動も自由でない。行動が自由でないとは何の事であるか。例へば吾人が黃沙から大沙頭に到るか、或は黃沙から長堤に行くのに、みな通行許可證を要するのである。此の通行許可證は、また二種類あつて、日中



に於いては、晝間許可證、夜分に在つては夜間許可證と外に夜燈とを要する。夜間の通行許可證と夜燈とは晝間許可證に比して一層嚴重大切であつて、華僑は道路を往來するには常に、其の許可證を身に付けて居らねばならぬ。之が有れば巡查は自由に通行を許すが、若し許可證がなければ通行を許さず警察署へ同行して、罰金若しくは拘留に處する。之れが即ち爪哇に於ける華僑が和蘭政府より受ける所の待遇であり、蒙る所の不自由の苦痛である。我が華僑が爪哇に於いて、かかる不自由を蒙つた事實は頗る多いが、なかでも中國人と日本人との地位が一體何程異るかを證明する最も恥辱とすべき事實がある。それは或る友人が余に語つて聽かした話であるが、爪哇に於いて一千萬の資産家たる中國富豪が、ある日の午後、其の友人の許に赴いて世間話に耽つて居た。其の友人と云ふのが學校内に住む教師であつた。故に此の富豪は其の時、學校内に於いて世間話に時を移してゐたが、話に身が入り過ぎて、數時間を過し、遂に夜中になつてしまつた。其の富豪は一向に歸宅を氣にかけて居なかつたが、忽ち時間が非常におそいのに氣がついて歸宅しようと思へ、立上らうとして、また夜間通行許可證と夜燈とを携帯して居ない事を想起した。若し夜間通行許可證と夜燈とを携帯せずに勝手に歸宅すれば、巡查につかまつて警察署に連行され、罰金か、さもなければ拘留されなければならない。其の富豪は、かかる危険を冒す事は

出來ないし、別に歸宅するに、よい術も見當らない。そこで門前に出て周圍を見廻はして見たが、いづれも巡查があるので、更に行くべき路がなかつた。すると、ふと、門からすぐ近所に日本の女郎屋があるのを發見したので、そこで其の教師に向つて、歸宅する手段があるからと別れの挨拶を交し、其の日本の女郎屋に飛込んだ。それから日本の一娼妓に金を一元與へて、彼と一緒に街を散歩する事をもとめた所、此の日本の娼妓は一元も貰つたのであるから固より喜んで其の富豪と散歩する事となり、二人は相並んで歩み、やがて其の邸宅の門前に出たので、富豪は日本の娼妓を歸宅せしめ、彼も亦自己の邸内に歸つたのである。若し其の晩日本の娼妓が居なかつたら、彼は歸宅し得なかつた。何となれば、日本の娼妓と一緒に歩いて居るため、和蘭の巡查は之れは日本の娼妓の客であると思ひ、敢えて尋問しなかつたから、彼は安全に歸宅し得たのである。之れによつて見るも、一十萬元を有する中國富豪も、なほ一人の日本娼妓に如かないことが解る。日本の娼妓は甚だ貧窮であらうとも、其の國家が極めて強盛であるので、彼等は到る處自由を得て居り、其の國際的地位は頗る高い。中國人は甚だ富裕であつて、一十萬元の資産を有してゐても、其の國家が強盛でないために、道路の往來さへも自由を奪はれ、國際的地位は日本の一娼妓にすら如かないのである。現在、總ての中國人は蓄財を心掛けて居るが、若し國家が亡び



るならば、吾人は到る處で虐待を受けるであらう。獨り吾人自身が虐待を受くるに止らず、子々孫々に至るまで、みな虐待を受けねばならない。諸君が之れを信じないならば、雲南に歸られる時に、安南に於いて詳細に觀察されたい。さすれば亡國奴の状態が一體どうであるかを理解されるであらう。

革命が成功したならば、中國は如何なる地位を得るであらうか。現在十三年間を要してなほ成功を見ないが、將來成功した時には如何なる状態を呈するか。其れは述べ切れなけれども、併し世界に於いて革命の成功せる國家、佛國、米國の如きは、いづれも現在最も富強な國家であるが、其の國民は如何なる幸福を享けて居るであらうか。雲南の東方に境を接する安南の如きは、佛國の領土である。佛國の大半は八九年前、歐洲戦争の頃、其の佛國本部の北部地方の獨國軍隊に侵入され、人民の産業は無一物に歸し、家寶も破壊されてしまつた。兩軍相持する事三四年に及び、家屋が姿を消したばかりではなく、一草一木盡く其の跡を絶つて全く不毛の地に化してしまつた。之れは何に基因するか。云ふまでもなく現在吾人の戦争は小銃彈を以て勝負を定め、一戦争ある毎に、一日に數十萬或は數百萬發の小銃彈を要するが、歐米現在の戦争は、小銃彈を以て勝負を定めるものではなく、勝敗を分つには砲彈を以てしなければならず、毎日消費する砲彈

は、數千萬發に上るのである。吾人の現在の争を彼等より見れば「ナポレオン」時代の戦争で數百年前の戦争に過ぎない。彼等の現在の戦争は如何なる有様であらうか。戦線内の人は、地上を歩む事能はず、地下を歩まねばならない。數多の隧道をつくり、前線の勤務者は其の隧道を通じて後方からの補充を受けるのである。彼等の現在大砲を使用する様は、全く吾人が小銃を使用するのと同様である。吾人は勝利を得た時には、分捕の銃器數について論ずるが、彼等は銃に就いて論ぜず大砲に就いて云ふ。最も多い時は、五六萬の大砲、十數萬の機關銃を捕獲する。當時佛國北部地方の人民は、かかる大損害を蒙りながら、戦争の勝敗が決して得ないため、政府に救済を要求した。その時佛國政府は如何なる計劃をたてて人民に答へたであらうか。政府の樹立した計劃の根本方針は、北部地方の人民は全國の人民と同一の待遇を受ける事、全國の災害を蒙らざる人民は北部地方の損害を辨償すべしと云ふのであつた。何となれば、北部各地の損害は、單に其の地方のみの地方的問題でなく、全國的問題であるからであり、又、全國が敵國と戦争してゐるために、或る地方にさうした損害を蒙らしめたのであるから、政府は之を賠償して其の地方の人民と災害を蒙らぬ地方の人民とを同等に待遇しなければならぬ。之れは人爲的な災害に對して、國家がかかる處置を採つたのであるが、若し人民が突然洪水天災に襲はれた場合、國家は之



に對して如何なる待遇を爲すか。これ亦前同様に救濟、賠償をなすのである。この賠償が如何に行はれるかに就いては、安南が嘗つて水害を受けた際の事實が之を證明してゐる。安南は現に亡國であり、佛國は彼等を奴隸として待遇して居るけれども、併し安南人の受ける幸福はそれでも中國人に比較すれば優つてゐる。余が嘗つて安南に赴いた際、或る商人が聽かせて呉れた話であるが、或る時紅河が洪水を起し、その岸に在る安拜と呼ぶ都會が水浸りになり、其處で商賣して居た中國人はいづれも莫大な損失を招いてしまつた。すると佛國政府は官吏を派遣してその情況を調査するので、中國の商店ではその眞意を知るに苦しんで、大恐慌を來した。平生水害のない際でさへ既に重税を課せられて居るのに、現に大水害を受けて更に營業狀態及び損害の程度を調査する様では、今後課税を一層重くするのではないかと考へ、これは堪らぬといふので、從來の資本が幾千で、損害が幾千であるといふ事は、敢えて實際を報告しなかつた。例へば一萬元の損害を受けた商店は、ただ五千と報告し、五萬元の損害を蒙つた商店は最も多い所で二萬と報告したに過ぎなかつたのである。その後、二ヶ月ならずして、佛國政府はさきに各商店の報告せる損失額に對して、報告の額通り賠償した。そこで、中國商店は大いに後悔し、さきに報告せる損失額のあまりに少額であつたのを残念がつたと云ふことである。以上は佛國政府が、人民の蒙つた天

災人禍に對して、如何に保護してゐるかを示すものである。文明國は人民の財産を保護すること、あたかも保險會社同様であつて、災害損失があれば政府が賠償する。人民が子供を産めば國家が教育養育する。壯年に達して職業なき人はその旨政府に報告すれば、政府がその人に代つて職業をさがす。老年にして扶養する者のない人には、國家が養老費を支出するのである。この養老制度は中國にも嘗つて存在し、古書に所謂「無告の窮民」は國家がこれに給養を與へたものである。故に文明國が人民に對して當然爲さねばならぬ義務は、幼年には即ち教育を、壯年には即ち職業を、老年には即ち養老費を與へる事である。文明國の人民は、幼より老に至るまで一生を通じて國家の恩恵を受けて居る。吾人現在の革命は、何を爲さんとするのか。即ち國家を強盛ならしめ、中國を文明國に變化せしめんとするのである。佛國、米國は一大會社同様であり、そして此の大會社に於ける國民はいづれも利益を受け、利益を分配されるのである。國家が文明となり、一大會社と變化して大なる資産を得ると、個人の一時の僥倖たる官位と財産との兩者を比較して、いづれの利益がより大であらうか。若し國家が一大會社と變じたならば、大財産を得るより遙に勝つて居り、單に吾人自身が幸福を受けるのみならず、吾人の子々孫々、四億人の子々孫々までも、永久に幸福となるのである。此の大事業の成功は、一個人が一千萬元の財産を積む



に比較して、勝ること千倍萬倍である。中國が改造されるれば、吾人の子孫は此の國家内に在つて、官途に就いて昇進も出來ようし、財産も出來よう。そして此の成功は、即ち吾人の革命によつて齎されるのであつて、吾人は國家永遠の功臣である。將校兵士諸君は國家のために大功を立てたならば、安樂に生活が出來、今日は戦争しなければならぬが明日はまた解散せねばならぬと云ふ様な事はない。若し失敗すれば諸君はみな分散せねばならず、成功すれば中國は諸君の自由な家となる。故に昔の大志を抱いて皇帝たらんとする者はいづれも家を化して國と爲さんと云つて居る。併し乍ら、革命成功すれば諸君は大會社中國の株主であり、即ち國を化して家となし、現在佛國米國の國民と同様な幸福を味ふことになる。吾人の革命が成功すれば、米國人佛國人同様の幸福を受け、日本人同様の榮耀を受ける事が出来るのである。而かも、吾人の土地は廣く、人口は大にして、中國人の聰明、才能の資質は、西洋人日本人に比較して遙にまさつて居るから、吾人の國家が完全に改造されたならば、中國の富強は更に彼等を凌駕するであらう。そして中國人の受ける幸福は、また當然西洋人日本人にまさるものであらう。此の目的を貫徹せんが爲めには諸君が大きな望を持たねばならない。小さな望であつてはならぬ。一個人の官位や財産、それは小さな望であり、諸君が國家の爲めに奮闘して、世界第一等の國家をつくらんとするのは、それ

は大きな望である。本大元帥が今日此處に於て諸君に語るのは、諸君に今日よりかかる大なる志望を抱かれん事を希望せんが爲めである。

### 婦人はなぜ三民主義を理解せねばならぬか

— 民國十三年四月四日、廣東女子師範學校に於る演説 —

校長竝に諸君。今日は廣東女子師範の創立十七週年記念日であるが、さて此の十七年間は、如何なる時代であつたか。學生諸君は御承知であらうが、今日は民國十三年である。諸君はなぜ民國と呼ばねばならないのか。十三年前に在つては、中國は民國とは呼ばれず大清帝國と呼ばれ其の頃には皇帝が存在し、皇帝となつて居たのは滿洲人であつた。今日民國には皇帝はないが、従來は滿洲人が中國の皇帝として二百六十餘年に亘つて支配して居たのである。其の頃は中國にとつて如何なる時代であつたらうか。それは亡國時代である。滿人が中國に二百六十餘年間皇帝であつたのは、つまり中國が二百六十餘年間亡びて居た事である。十三年前に漸く、大清帝國を倒して中華民國を創造したが、此の大清帝國を倒した事は、我々漢人にとつて、近來數百年間の一大事件である。我が中國は數百年間、國が亡び、他の奴隸たる事も亦數百年間に及んだが、十



三年前に於いて、漸く帝國を倒し、漢人の國家を再び復活し、奴隸の身分から脱却したのである。それは我々漢人にとつて實に大きな事件である。

諸君は卒業後は人を教へる。國家の爲めに人才を養成される人々であつて、人才を養成する事は、師範學校に學ぶ者の任務である。諸君にして此の任務を果され様とするには、先づ、自分は如何なる時代に生存して居るかを知り、此の時代に在つて如何なる事業を行はねばならぬかを知る必要がある。諸君はみな、民國以後の時代に生活され、決して外國人の奴隸にならねばならぬ事はない。諸君は、今後誰でも悉くが主人となる希望を持ち、自分自ら國事を處理すべきである。師範學校に學ばれる人々は、本來少年少女を教へる人、即ち、少年少女を教へて人たらしめる人である。人たるものとして最大の道は何であるかといふに、如何に國を愛し、如何に國事を處理すべきかを知る事である。中國人は從來滿人の奴隸となり、滿人に壓倒せられて、國事に口を入れる事を許されなかつた。何となれば、當時の中國は、滿人の國家で、我々は何の地位もなかつたからであるが、今後は滿人の國家ではない。中國は諸君の國家である。諸君は、みな各々家庭を持つて居られると思ふが、家と國家とはどんな關係を有してゐるだらうか。家庭は何に基いて始めて成立し得るものだらうかと云ふと、各自の家庭はみな國家に依存して始めて存立し得る

し、また國家は此の幾千萬の家庭を合計して出來てゐるもので、つまりは大衆的の一大家庭である。學生は先生の教育を受け、學校に對しては師長を尊敬し、學校を愛護する責任があり、家庭に對しては父母に孝順であり、家庭を親愛する責任がある事を知つて居られるが、國家に對しても亦或る種の責任を有する。此の責任は他に比して一層重大であり、四億の人々全部が負はねばならぬ責任である。諸君は學校に在つて學ばれる以上、當然國家に對する責任に就いても學ばれた事と信ずる。現在我が國家は如何なる状態に在るであらうか。革命後、中華民國を樹立した。此の民國が即ち、我々の國家であつて國民四億を包擁して居る。そして國民の一半は男子で、一半は婦人であるから、四億の中二億は滿人の譯である。從來、滿人が中國の皇帝であつた頃は、婦人は國事を問ふを得なかつたばかりでなく、男子も亦、國家に就いては與り問ふを得なかつたが、革命後に至つて漸く、その資格を與へられ、人々が國事に與り得た。かく國事に與り得るに至つた由來をたづねると、これも亦、我々が三民主義を主張し革命を實行したのに基くもので、故に人々が國事を問はんとすれば、三民主義を知悉し、三民主義を實行するを要する。されば三民主義を理解し、三民主義を實行する事が、諸君の國家に對して、當然負ふべき責任である。では、三民主義とは如何なるものか。第一は、民族主義であるが、民族主義とは何かと云ふと



中國と外國とは平等でなければならぬと云ふ主義である。中國と、彼の英佛米の諸強國とがみな一率に平等でなければならぬと云ふ事が、即ち、民族主義である。十三年前に於ける漢人は滿洲人の奴隸であり、當時我々は自己の國家を有しなかつた爲め、他國と平等をはかる事は出来なかつたし、また滿人の國家は甚だ劣弱で自立し得ず、總て外國の壓制を受け、英、佛、米、露、日等、世界の多數強國から侵略され、國土を失ひ、主權を拋棄し、滿人は全く各國人の束縛を受け、英、佛、米、露、日等の諸強國の奴隸となり、我々漢人はまた滿人の奴隸であつたのである。故に十三年前の我々は奴隸中の奴隸であり、二重の意味の奴隸と稱すべきであつた。滿清を倒して以來、一つの奴隸状態からは脱却したが、なほ末だ各國の奴隸たるを免れない。何となれば、滿清の借りた巨額の外債と、外國と結んだ數多の不平等條約とがあり、今日に至るも廢棄されず、依然として此の各國との條約によつて束縛を受けて居るからである。それでは一體どんな條約であるか、と云ふに、それは滿人が我々の主權や土地を外國へ抵當に入れた條約であつて、之等の條約は、丁度主人が困窮して他人の金錢を借用し、奴隸をその抵當に入れる時に書く、身賣證同様のもので、その奴隸は身を賣られたのであるから従つて自由ではない。故に我々も今日は依然として條約の束縛を蒙り、今なほ各國の奴隸となつて居るのである。我が革命黨は民族主義を主

唱し、元來中國と各國とは、平等である、從來中國が衰弱して各國と平等たるを得なかつたのであるから、民國を創り國家を強盛にしよう、國家が強盛になれば始めて各國と平等になれるのだと考へて居る。諸君は歴史を學ばれて、中國の近くで最も有名なのは日本である事を御存知でせう。此の日本は六十年前には、朝鮮、安南、緬甸などと同様であつたが、朝鮮、安南、緬甸は革命する事を知らなかつたが爲めに、國は亡びて外國の奴隸となつてしまひ、日本は革命する事を知り、しかも革命がよく成功した爲め、世界の一等國となり、各國も敢て輕視せぬ有様となつた日本も強國にならぬ以前に於いては、矢張り外國に「身賣證」を書き、數多の不平等條約を結んだのであるが、強盛になつてから、其の數多の條約を廢棄して他國の束縛を解き、各國と平等の地位に立つに至つたのである。日本がよく外國と平等たり得た所以は、日本人が民族主義を實行したからである。我々は嘗つて革命を提唱し、また外國人が中國を侵略するを許さず、外國人の奴隸にはならぬと云ふ民族主義を主張したが、多數の人々は概ね之れを知らぬ爲め、總て目的を達する事が出来なかつたが、革命思想發生と共に、漸く外國人の奴隸たることの非常な耻辱であることを悟り、滿人の奴隸たるを潔しとしなくなつた。よつて外來の滿人を追出し、清朝の皇帝を倒したのである。其の後十三年を經過し、兵力では強力となり得ぬけれども、滿人の束縛から



離脱し、滿人の奴隸たる事を免れた。然し一方また却つて各國人の奴隸たらんとして居る。我々は今後、各國人の奴隸となつてはならぬ。また一切の不平等條約を廢棄しなければならぬ。それには更に一段と發奮奮闘し、民族主義を實行しなければならぬのであつて、之れこそ、正に人たり、學生たり、一般國民たるものの、民族主義に對して當然負はねばならぬ責任である。

第二は、民權主義である。十三年前に在つては國家の大事は、單に皇帝一個人が處理するに止り、一般人はみな與り問ふ事が出来なかつた。丁度、主人が商賣をする際、店内の事がらは全部主人が處理して、他の人々は干渉する事を得ず、番頭以下ひたすら主人の命令をきいて仕事を行ひ、店の事には干渉し得ない如く、滿清皇帝の專制時代も亦、之れと同じ有様であつた。それが辛亥の年に到り、清朝の皇帝を倒して以來、今度は我々が主人となつたのである。國家の大事には、國民全部が參與する事が出来る。之れは國家を大會社にした様なもので、國民は誰でも此の會社の株主であつて、諸君はみな之れを管理する權利を有して居る。之れが即ち民權主義の精粹である。

第三は、民生主義。では如何なるものを民生主義と云ふのだろうか。諸君は、歴史や地理を學ばれて、中國の人口が頗る多く、國土も甚だ大にして且つ非常に肥沃であり、産する所の農産物

は極めて多く、埋藏する礦物はいとも豊富である事、また、外國との通商以前は外國貨物は絶えて輸入されず、中國は誠に富裕であり、其の當時中國人は滿洲人の奴隸ではあつたけれども全國の農工業が極めて發達して居て、人民はみな衣食する事が出来た。所謂家給した事を知つてゐられるであらう。だが、現在はどうな状態であらうか。民窮し、財盡きた世界と變じ、人民は日々病と貧とに心を苦しめ、貧窮の痛苦を遺憾なく味つて居る。我が國土はかくも大に、埋藏礦物はかくも豊に、農産物はかくも多に拘らず、しかも何が故に民窮し財盡き、人民は日に貧窮の痛苦を受ける様になつたのであらうか。其の最大の原因は、外國の經濟的壓迫である。外國は會つて小銃や大砲や陸海軍の兵力を以て、我が中國の門戸を打ち開き、我等に通商を求めた。本來、通商は双方に利益ある事であるけれども、併し中國の工業は進歩せる外國工業には及ばなかつた故、通商後外國貨物の輸入は日々に増加したのである。詳しい理由は、外國の貨物はみな頗る大きい工場で、極めて大規模に、多くの機械を用ひて製造され、手細工で出来たものではないが、我々の國産品は、すべて手細工で作られたもので、手細工で作られたものは値段が高くなり、機械で作られた品は値段が非常に格安であり、誰しも格安なのを好むから、國産品は外國品と競争し得ず、従つて外國品の賣行きはどうしても國産品を凌駕する。譬へば、手にせらるるもの、



身體につけるもの、家庭で使用するもの等一品たりとも外國品でないものはない。一體、通商貿易といふ事は、中國に無い物を輸入し、有るものを輸出し、所謂有を以て無に易へる事である。併し乍ら中國は交通不便で、沿海の諸省は汽船が往來するけれども、内地に到つては船を進める事は出来ぬし、さりとて鐵道もなく、其の土地の産物は全く運び出せぬ。所が一方外國の交通は頗る便利で、國內には鐵道、海上には大汽船を有し、彼等の品物は極めて造作もなく運船し得るから、輸入される外國品は頗る多く、輸出される國産品は非常に少いのである。今、輸入外國品の代價として出て行く金と、輸出國産品の代價として入つて来る金と、其の金額を比較して見ると、輸入外國品の代價は、輸出國産品の代價に比して、毎年五億元以上超過してゐる。即ち我々は毎年五億を外國に送り込んで居るのである。五億元と云ふ數を四億人に平均すれば、つまり中國人は一人平均一元餘の外國品を用ゐなければならぬ譯である。一人の學生が用ゐる外國品を計算すれば、一元餘に止まらない。例へば、一着の洋服は幾圓かするし、一冊の洋書も亦幾圓かになるし、一本の萬年筆も幾圓かの價がする。交通不便利の各省、甘肅、新疆、四川、貴州の如き内地の人民が使用する外國品は些少であるけれども、交通の甚だ便利な省、江蘇、廣東などの人民の用ゐる外國品は莫大であらう。一人につき毎年百餘元、或は數百元の外國品を使用するであ

らう。之れ、即ち我々の金が、毎年彼等の外國品と交換されて出て行くのである。以上の道理によつて、全國の民は窮し財は盡るに及んだ。我々は革命の後、民生主義を實行しようとして考へてゐた。即ち國家の大きな力を以て、多額の機械を買ひ、各種の重要な鑛産物を採掘しよう。炭鑛、鐵鑛の如きは中國の到る所に存し、炭鑛は中でも特に普遍的で、廣東の花縣、韻關と江門一帶などは非常に豊富な炭鑛が存在するのである。廣東人は現在毎日石炭を頗る多量に消費するので、従つて炭價は非常に高價で、普通の石炭は一噸二十數元もするが、此の多數の炭坑が一度採炭されるならば、之れが直に金になるのである。此の外に尙ほ、金、銀、銅、鐵、錫の五種の鑛山があつて、どれも頗る多量に存在して居るから、完全に採掘されたならば、中國の富は大いに増進するであらう。そうした時代が到來したなら、我々も亦機械を用ゐて物品を製造するので既に日本の現在に全く此の通りである。故に日本は實に多量の貨物を輸出し、就中中國に輸出するものが多額を占めて居り、且つ、日本製の品物は歐米に比較して一段と廉價である。中國は將來鑛産物を採掘し、工業を殷盛にし、國家を富裕ならしめ、英米日に比較して、更に彼等を遙に凌駕しなければならぬ。かかる地位に達した曉には、如何なる状態を呈するであらうか。我々は未だにそれを語る事は出来ぬが、英國、米國の現在が如何なる状態であるかは知る事が出来る。



彼等の國內には多數の財産家があり、彼等の積んだ巨富は、幾百萬幾千萬どころでなく、幾億、幾百億にも上り、普通幾千萬の財産では、大金持の數にはかぞへない。彼等が大財産を積んだ原因を探究すると、何れも機械であり、従つて製造する貨物が多量で、儲けも亦非常に多いからである。機械を所有する者は、即ち一日は一日より富み、機械を有せざる者は即ち一日は一日より窮し、富める者は愈々富み、窮する者は愈々窮して行く。従つて彼等の社會には小康を保つて居る家は甚だ鮮少で、中産階級が存在せず、ただ二つの全く相懸絶した階級、一は資本家、他は労働者あるのみで、此の二階級の中間に在つて、窮せず富まざる人は非常に少い。かかる事は決して歓迎すべき現象ではなく、實に社會の病弊である。我々の革命が成功して、民國統一後、一個の新國家を建設せんとする際は、必ずともに、鑛産物を採掘し、工場を設け、國富を充分ならしめなければならぬ。かくすれば現在には民國十三年であるから、更に十三年を経て、民國二十六年に到つたならば、中國は或は窮する事なく、英米同様に國富が充實するかも知れぬが、社會上でも亦英米同様人々は二種の階級、一は大富豪、一は極貧の人々に分れ、中産階級の人々がなくなり、つまり不平等になるであらう。我々は現在の所では、貧を心配してゐる。貧窮は即ち我々の苦痛であるが、英國、米國の病弊は貧を患とするに非ずして不平均を患として居るのである。

全國の財産は人民には平等に分配されてゐない。故に富人の財産は往々幾億に及び、貧民はいずれも一片の「パン」すら手にし難く、又富人はそうした莫大な財産を所有してゐる爲め、國家の大事を壟斷し意として爲さざるはなく、貧民は生きる道がないので、身を富人の牛馬奴隸に落さざるを得ない。斯様に大財産を積んだ富豪は少數で、奴隸となる貧民は多數である。一國家に於いて、只少數の人のみが金を有するのは眞の富ではない。多數の人が金を有してこそ眞の富でなければならぬ。我が國は今日の所、大富豪とはなく、多數の人々がみな窮乏に陥つて居るが革命成功後、英米現在の病弊に陥らず、多人數がみな財産を有する様全國の財産を正確に平等に分け様とするならば、民生主義を實行し、全國の大鑛業、大工業、大商業、大交通事業は、すべて國家の經營に由るを要する。國家はそれ等の大實業を管理經營し、財富を積んだ後は、其の利益を全國民にすべて均分すべきであつて、宛も中國の宗族主義が、祖先の公産を信賴すべき家長を擧げて實業の經營に任じ、大財産を積んだ後には、子孫が一樣に其の利益を分配する如く、貧窮寄る邊なき人々にもみな一樣に利益を均沾すべきである。以上を要約すると、我々の民生主義は全國に大いに利益を生む事業を興し、英米同様に國富を充實せしめ、國富充實により得た利益は、少數人に歸せしめず、貧民富人の大きな區別が有らうとも、之を總ての人々に歸せしめ、



一般に利益を平均せしめねばならない。では、其の時代に至つたならば、國家は結局如何なる事を行ふべきであるか。先づ教育を行はねばならぬ。國家が多額の金を有するならば、それを移して教育費に充當する。中國現在の歳入は、概算二億から三億であり、日本は十幾億、米國は數十億でかかる経費はみな國家に歸し、教育、海陸軍、並に一切の行政を執行するに使用する。國家の歳入は日本に於いて十幾億であるから、當然中國は、日本の十幾億以上に上るであらう。國家がすつかり建設されるれば、少なくとも百億は入つて来る。此の多額の歳入は、一體如何なる用に當つべきであらうか。先づ國家は十幾億を支出し、専ら教育費に充當するを要する。斯様に多額の教育費を以てすれば、中國人は読み書きの出來ぬ事を惧れずともよい。小さい小兒でもみな読み書きし得るやうになる、現在廣東には平民學校の經營されてゐるものが尠からずあるが、貧民の兒童例へば水上生活者の兒童及び農家の兒童の如きは、果して悉くが平民學校に入つて勉強し得られるであらうか。平民學校は學費を徴收せねばかりか、更に書籍を給するから、兒童は本來ならば勉強し得る譯であるが、農村の兒童は面倒をみて、毎年幾元かの金を稼がねばならぬし、水上の兒童は漕いで毎日いくらかの錢を儲けねばならない。なぜなら、錢を稼がねば、食ふに飯なく、着るに着物もないからである。たべる飯がなく、着る着物がなくては、たとへ平民學校が

學費を徴收せずとも彼等がどうして勉強しに行けようか。此の多數貧民の兒童をみな勉強せしめようとするには、學校に於いて學費を徴收せず、書籍を給して讀書せしむるに止らず、更に此の勉強する兒童に飯を與へ、着物を着せ、住む家を與へなければならぬ。即ち、これ等の兒童が生れ出てから、成人するまで、國家が之を教へ且つ養ひ兒童の父母をして心配させず、貧家の父母が安心してその子を勉強せしめ得るを必要とする。現在貧窮なる家庭の両親はすべて、日夜、兒童の衣食住について心配してゐるのである。故に幾多の平民學校が設立經營されても、農村の少年は矢張り牛の面倒を見ねばならず、都會の少年は仕事をせねばならない。現在、廣東市の少年にして、八歳より十歳に到るものは盡く勞働に従はねばならぬ有様で、此の小さな勞働に従はねばならぬ少年達の數は實際どれ位に上るであらうか。この貧乏な少年達は、必ずしも甚だつまらぬ者ばかりではない。中には非常に聰明な者があつて、若し勉強し得るならば、或は聖賢ともならうし或は亦非常に有爲な人物ともなり得るけれども、現在は勉強する餘力がなく、向上し得ないで居るのであつて、國家はつまり頗る多數の人材を棄てて顧みないで居るのである。我々は民生主義を實行し、國家が大いに財富を積み、將來は一般平民をして、よく學問せしめ得るのみならず、更にこの一般平民が皆生活し得る様にし、壯年の人に、従事する仕事が無ければ國家



は更に多くの工場を設立經營して、全部の人々に仕事を與へることを要し、老年の仕事を爲し得ざる者、又は子女親戚の養ふ者のない所謂寡孤獨のよるべき人々には、國家が養老費を給與しなければならぬ。國家の大きな仕事とは、即ちそれぞれ官を設けて分掌し、人民の爲めに幸福を謀る事である。

我が革命黨の主張する民生主義は、斯様な眞に人民の爲めに幸福を謀る、眞に人民の幸福のためには、人民が斯様な立派な國家を有してゐるならば、少年時代から老年に及ぶ一生を通じて、これこそ憂なく苦しむ事なく安樂に過して行ける。所が、我々現在の中國人は、何一つとして長い年月に亙つて安樂を得る様なものを持たず、何一つとして心配の種ならぬものはない。若し心配が無ければ安樂な月日を過し得るのであるが、大人で世の中に艱難辛苦のある事を知らぬ人はない。若し成人し、年とれば心配事があると云ふことを諸君が信じないならば、歸宅してから、老父母や、兄や、兄嫁などに問ふがよろしい。一年中の苦心苦惱は如何なるものであるかを。余は、彼等の長年の苦惱を考へて見たい。若し家が貧窮ならば、毎月の米、鹽、薪及び家賃などの事、それ程でもなければ兒女の衣食や學費に就いてよい工夫がつかぬ事など、また、家が富裕ならば、子孫の勉強嫌いな事や、子孫が何も出來ない事や、

職業のない事から、はては自己の老後の家産はとるに足らず、子々孫々が長く幸福を享け得ない事など、富人たると窮人たるを問はず、稍々世の中に出て閱歷のある人ならば、一年中總てが憂愁のたねであり、少しも安樂なる時を得ない。彼等は何故に斯様に憂へるのであらうか。憂愁のあるのは、とりもなほさず、苦痛を蒙つて居るからである、即ち以前の國家はよろしくなかつたので、人民が苦痛を受け、その爲め斯様に憂愁になつたのである。我が革命黨は十三年前に革命を行つて滿清を顛覆し、民國を創造した。今日革命を行つて民國を建設したのは何故であるかと云ふと、人民のこうした憂愁を取り去り、人民の爲めに幸福を謀らんが爲めである。四億の人すべてが幸福を受ける爲めには、中國を安樂な國家、愉快な世界に變じさせねばならない。かかる國家の中に在つては、我々四億の人々が、一生幸福を受けるばかりでなく、代々幸福を受けられる。これは果して如何なる國家だらうか。これが即ち將來の中華民國である。現在の中華民國は十三年になるが、此の十三年間に人民はどれだけの幸福を受けたか。諸君は歸宅して兩親に質ねて御覽なさい。一體此の十三年間にどれだけ幸福を受けたかと。諸君の兩親はきつところ答へるであらう。此の十三年間には少しも幸福を受けた事はないと。十三年前には、びく／＼怖れて暮して居たが、併し戰爭の災害はなく、太平の幸福を受けられたが、民國十三年來、一年として兵



災のない年とてはない。廣東などは、此の數年は、日として戦争ならぬ日はなく、各省もみな之と同様である。最近はまだ南北戦争が発生せんとしてゐる。何故に民國以來、人民は却て苦痛を増したのであらうか。諸君は學生であり、知識階級であるから、其の道理を理解して居らねばならない。本來、革命以前には、人民は非常に困窮しては居たものの、併しなほ茶つ葉にお茶漬位で、安樂な日が送れたのであるが、現在では兵禍を受けて、茶つ葉にお茶漬さへも口に入らなくなつた、是は如何した原因であらうか。此の道理のわからぬ人々は、誰でも、革命はいけない、従前は皇帝が有つたので平和な日を送れたが、今日は皇帝が顛覆され、眞に天命を受けた君主がないから、天下は甚だ太平でないのだ、とこう述べ立てる。かかる理由から、許多の人は未だに復辟を計畫したり、眞に天命を受けた天子の出現を希望してゐるのである。學生諸君は、彼等のこうした言葉を聞かれて、之は如何にも尤もだと考へられるだらう。彼等の云つた言葉から推測すれば、實に民國は却つて従來の舊國家に如かないものではないか。民國が従來の舊國家に如かないとなれば吾人は何故に民國を成立せしめたのか。また何故に諸君に民國に對して賛成せんとを求め、民國に對して心から職務をつくして此の新國家を建設する事を要求するのであらうか。諸君はまた、何故に中華民國の國民たる事を承認し、大清帝國の遺民たる事を承認しないのか。

か。諸君は女子師範の學生であつて、卒業後は、人を教育しなければならぬ。他人をして、此の道を理解せしむるには、即ち先づ自身自身が此の道理を理解するを要する。諸君は現に學校に在つて勉學中であるが、一體、此の道理を理解されて居るだらうか。之れを理解するには、先づ如何なる方面より研究し始むべきか。此の道理を研究するに最も簡單なる方法は、即ち民國と帝國との二つを明瞭に研究し、民國と帝國との善惡を隅なく研究したならば、自然と此の道理は明白になり、また自ら容易に人に教へて、此の道理を理解せしめられるのである。

吾人がさきに專制帝國を顛覆し、平等自由の民國を建設せんとせる眞意は、汚れた舊世界を打破し、立派な新世界に改造して、人々をして此の新世界にあつて悉くが安樂に、總てが愉快なるを得せしめん爲であつた。現在は啻に安樂ならず愉快ならざるのみか、却つて憂愁を加へ苦痛を増してゐる。此の道理は極めて容易に理解し得る所である。如何にしたならば此の道理が理解出来るだらうか。余は此の建築を比喻にとつて説明しよう。以前には洋風建築を見た事のある人は無かつたので、新式の洋風建築がどうして好いのか知らなかつたから、此の大家屋を一見してきつと大いに満足した事であらう。然し眞の洋風新式の建築には幾層階もあつて、各階を上下するのに昇降機があり、息を切らして上下せずとも、昇降機内で單に運轉手が一寸手を動かす丈で、



行きたい階に行けるのである。用水も人が汲む必要はない。其の建築全體に水道が設備してあつて、栓の捻り方 つで、湯が欲しければ湯、水が欲しければ水が出て来る。燈火は火を點するに及ばない。電燈が設備され、一度「スイッチ」を入れれば、建築全體が煌々として其の映ゆさ目も眩む程である。之等に較べて此の家屋を考へて來ると、必ずや大いに不満を感じるであらう。我が中國人は外國に行つた事もなく、洋風建築に住み慣れた事もないので、現に此の家屋の中に住居すればきつと大層よい様に感ずるのであるが、若し文明的な家屋に住み慣れた人が、再び此の家屋に住んだならば、直に甚しく不衛生に感ずるであらう。例へば今日の斯様に寒い天氣であつても、寒さを防ぐ方法がなく、夏季炎熱の時に到つても、暑熱を避ける方法がない。之れで、此の家屋が極めて適當でない事が知れる。文明の家屋は各室毎に寒暖計を掛けてあつて、室内の溫度が何時でもわかつて居るから、若し室内が非常に寒ければ、丁度今日の天氣同様ならば早速「スチーム」或は電氣「ストーブ」によつて、室内の溫度を温かくする事が出来る。若しまた室内が非常に暑つく、丁度廣東の夏の様であれば、扇風機を動かして、最新式の建築では、夏季は空氣を冷却して直に室内の溫度を涼しくする。かく文明家屋内の溫度は自由に變じ得て、吾人が何度にしたいと思へば、早速其の通りになるのである。大概夏季は先づ華氏八十度以上に上ることな

く、冬季は總べて華氏七十度以下に下る事はない。一年四季を通じて室内の溫度は常に平均して居り、頗る衛生的である。故に外國人は冬の外出には、外套を着るが、室内に在つてはみな單衣をつけ、婦人達は更に極めて薄い絹物を身につけるのみである。我が中國人は冬には暖い火鍋料理を食ふのに、彼等外國人は冬でも反對に「アイスクリーム」を食つてゐる。吾人が外國人同様の生活を爲すには、さうした文化家屋の設備をちやんと備へて、始めて成功する。此の舊式な家屋に於いて、吾人はどうして温くしたり、涼しくしたり出来るであらうか。一般に外國の文化的家屋に住み慣れた事のない人は、中國のかかる舊式家屋が如何に不衛生であり、外國のさうした新式家屋が如何に衛生的であるかを、尙はつきりとは理解しないかも知れぬ。併し外國の文化家屋に住み慣れた人は、必ずや甚しく此の舊式家屋の不衛生さ不便利さを感じるに違ひない。吾人が、中國に於いても、住居する家屋をすべし外國の家屋同様の衛生的なものたらしめ様と考へるならば此の非文化的な舊家屋を碎き去つて、其の場所に、新に非常に文化的な洋風建築を建てなければならぬ。吾人の國家に對する考へも之れと同様の道理である。先知先覺の人は中國從來の非文明的な國家が專制の甚しきに過ぎ人民の苦痛の中にある事を知つたればこそ、革命を發起し英國、米國等の如き非常に文明な新國家を建設し人民をして居に安んじ、業に樂しませ、頗る愉



快な月日を過ぎしめんと考へたのである。さきに大清帝國を顛覆し、新に中華民國を建設したのは即ち、非文明的な舊國家を打破し、改めて文明の新國家を造つたもので、あたかも非文化的な舊家屋を碎き去つて極めて文化的な新家屋を建築した様なものであつた。現在滿清の專制舊政府は既に倒されたが、民國の共和新政府建設は成功を見ない。毫も建設の成功を見ない。中國現在の情勢は、正に過渡期で、丁度舊屋は既に碎かれてしまつたが、新しい洋風建築はなほ竣成しない爲めに此の舊屋に住居した人々は、忽然として風雨の災害に遭遇し、身體をかくすべき所とならず、而かも各種の災害を受けてゐる。之はつまり上述の理由によるものである。吾人は此の苦痛から免れ様と思へば、更に建國の事業を實行せねばならない。此の事業が完成せぬ間は、國家は當然なほ悽慘を極め、人民は當然、なほ苦痛が甚しいであらう。吾人が將來、非常に文化的な洋館で、衛生的な生活を送らうと思ふならば、現在受ける所の苦痛も、暫くは忍耐しなくてはならない。

以上述べた所が、若しなほ諸君に充分理解されないならば、諸君はもう一度本校の背後にある觀音山がどんな有様であるかを見るがよい。昔の觀音山には、澤山の樓臺や亭閣があり樹木花葬

があり、廣東市の北部を占めて非常に高く、風景もこよなく好かつたのであるが、現に市政廳では之れを公園にするため、此の舊建築物を悉く撤去してしまつた。余の友人で、曾つて觀音山に登り、彼の樓臺亭閣を見て來た事のある一人が、最近また遊びに行つて歸つてから、余に何故觀音山のあの舊建築物を悉く取り去つてしまつたのか、何故、あんなに荒涼悽慘たる事にしてしまつたのか。實に惜しんでも餘りある事だ、と云ふので、余は彼にこう答へた。之れは市政廳の新計劃で、あの山全體を立派な新公園にしようとしてゐる。それで一時荒涼たる光景を呈して居るので之れは一寸も惜むべき事ではない。どうか、明年もう一度觀音山に來て見て下さい。さすれば、將來どんな新しい景色を示すか御わかりになるから、と。國家の改造に就いても全く之と同様で、ただ國家の改造は、公園の改造の如く一年や二年の内に早速成功する様な譯には行かないだけである。丁度、今日の本校の第十七週年紀念日の如く、本校が學生を何回となく卒業させ、本校の設備と一切の授業が、十七年間の準備、十七年間の改良、十七年間の充實擴大によつて、漸く今日かかる大規模なるを致したと同様である。

吾人が新國家を創造するには、普通の新家屋を作る様に單に地固めをする式ではなく、高層の洋館を造る様にせねばならぬ。土臺を深く掘り下げて、基礎工事を充分堅固にしてから、此の基



礎の上に洋館を建築して始めて堅固であり、倒壊しないのである。民國は今日既に十三年、其の間幾回倒れたか、諸君は御承知であらう。民國四年には、袁世凱が自ら皇帝となり、中華民國を改めて洪憲帝國としてしまった。之れが民國の倒れた第一回である。民國六年には、張勳が復辟を行い、宣統を再び擁して皇帝たらしめ、中華民國を改めて大清帝國とした。之れが民國の倒れた第二回である。現在、曹錕は金錢を以て大總統の地位を買ひ、吳佩孚は武力を利用して中國を統一し、事毎に專制を恢復せんとして居るが、之れまた民國の土臺を取り拂はんとするもので民國はまたも倒され様としてゐる。民國成立以來、十三年に過ぎないが、どうして二度も三度も顛覆されるのであらうか。之れは國家の基礎が強固でないからである。從來國家の基礎は深く掘り下げもせず、堅固でもないのに、其の基礎の上に民國を建築せんとしたからで、あたかも、基礎を深く掘り下げず、堅固にしないで置いて、其の基礎の上に高層の大洋館を建築せんとするが如きもので、之では永久に倒れない理由が有り得ない。吾人は國家を鞏固にし、永遠に倒れぬ様にするためには、如何なる基礎を用ふべきであらうか。人心を以て基礎とするを要する。人々の心を以て基礎とせねばならない。人々が心より民國に賛成し、民國に心を傾ける。かくてこそ民國は倒れる事なく鞏固たり得るのである。十三年前滿清を顛覆し、民國を成立せしめたが、一般の

武人官僚は表面民國に賛成し乍ら、心中では一向民國など考へた事はないのである。彼等が心中、いづれも民國に不賛成であつたればこそ袁世凱が北京に於いて皇帝となつたばかりでなく、龍濟光までが廣東に於いて龍王などと稱したのである。若し今後確りした國家の基礎が無いならば、將來必ずや、皇帝となるものが現れ、諸君を奴隸たらしめ、中國はただに強盛となつて列國と同等に比肩する事を得ぬのみならず、外國は必ずや中國を亡ぼそうとするであらう。現在、列強は中國に對し共同管理論を主張し、中國人は自治の能力を有して居らぬ。從來頗る野蠻な滿洲人でさへ中國を支配し得、其の支配も極めて久しきに亘つたが、革命後は反對に平和を缺ぎ、依然、法に従つて自ら治め得ないと論じて居る。そして彼等文明國は、吾人に代つて中國を統治すること即ち共同管理を要求してゐるのであるが、共管は從來の分割論同様の論調であつて、中國が列強に共同管理される事は、とりもなほさず亡國に外ならない。斯くては中國人は久しからずして絶滅に歸してしまふであらう。

諸君が、歸宅されて、若し家人から民國に反對される事が有つた場合には、上に述べた道理を以て彼等に詳細に説明し、民國はなほ出來上つて居らないのであるから、一般國民は目前には犠牲たらざるを得ず、忍耐せざるを得ないが、國家が徹底的に改造された時には我々は永遠に安樂



を得られる事を話していただきたい。では國家は如何にしたなら立派に改造されるか。建國の基礎有つてこそ出來上るのである。建國の基礎は、即ち萬衆一心、民國を歓迎することである。あらゆる人々がみな民國を歓迎し、民國に反対せざるに到つたならば、民國は永遠に動搖する事はないであらう。諸君は卒業の後には、人を教へなければならぬ身であつて、中國二億の女性が、民國を歓迎するか、せぬかは、全く諸君の宣傳にかかるとのである。本校は設立されて十七年に、十三年前の帝制時代には、他の人が經營して居たが、民國時代になつてからは廖校長が繼續して其の事に當つて居られる。廖校長は民國の新教育家であり、民國の新福音を宣傳しつゝある人である。校長は平生此の道理を、必ずや諸君に幾回となく話されて居る事と思ふから、諸君は此の道理に對して既に明白に理解されて居るであらう。諸君はみな師範學校の學生であつて、卒業後は、人の師長となる人である。若し人の師長たる人が、誰も民國の道理を辨へなければ、吾人は永遠に民國の基礎確立を希望し得ないのである。

今日、廖校長が余を講演に招かれたのは、如何なる希望からであらうか。余は一個の革命黨員で好んで革命の道理を提唱して居るものであるが、今日本校に来てお話しして諸君に希望したい事は、余の話をお聴きになつた後には、誰もが革命黨員に變じ、三民主義を宣傳し、中國を富強に

して、英米と雁行せしめる事である。

諸君の用ふる宣傳方法は、まづ人に就いて論ずれば、當然、近きより遠きに及ぼさねばならない。先づ父母兄弟姉妹、及び總ての家人に説明し、更に親戚朋友及び一般普通人に對して説明する。言葉に就いて云へば、使用する言葉は、まさに親切で興味有るものでなければならず、人々の知つて居る材料を選択する必要がある。例へば民族主義を宣傳する際は、此の主義は外國人との不平等を打破せんとするものである事を説明するを要する。從來滿人が中國の皇帝となり、到る處滿洲人が官吏となつて吾人を支配し、吾人はいづれも彼等の奴隸であつて漢人と滿人とは頗る不平等であつた。吾人は民族の平等を欲するが爲めに滿人を排除せねばならなかつた。現在は滿人の奴隸たる事は脱却したが、なほ外國人の奴隸として、中國は事々物々外人の干渉、外國人の管理を受けて居る。廣東の郵政局と税關との如きは外國人の管理を受けて居るが、これ亦甚だ不平等な話である。吾人が此の不平等を除去せんとするならば、民族主義を提唱し、民族主義に賛成せねばならない。また民權主義は、對内的不平等を打破するものである。中國は十二年前には皇帝が存在し、皇帝の下には公侯伯子男の數多の階級が存して居り、彼等はいづれも高く上に位し、人民は盡く極めて低い地位に在つた。之れは頗る不平等な事態である。吾人は民權



主義を主張して、此等の階級を平等とし、政治上各人みな平等ならしめる。即ち男女も亦平等である。故に吾人の革命後は、男女同権を實行し、廣東の省議會には女子議員があり、女性は男子同様に議員となり、國家の大事に參與し得るのである、その地位たるや、何と高尚ではないか。また何と光榮あるものではないか。諸君の知らるる如く、近來外國婦人は參政權を得んとして、幾多の力を費し、幾多の心血を犠牲としたか計り知られぬが、なほ多數の國家に於いては之を獲得するに至らない。中國は革命後、婦人が之を争ひ求める迄もなく、婦人に參政權を與へ、議會の中に婦人議員を設けた。併し一般婦人はいづれも此の參政權に熱意がなく、議員となつた婦人も永續しがしないで、熱がさめて冷淡になり、引續き奮闘しない。廣東でさへ此の通りであるから、他省の事は推して知るべしである。故に二億の婦女子は今日に至るも、依然として民國を理解せず、國事を處理する事も出来ない。諸君は今後、吾人の民權主義中に包括されて居る男女同権の理論を以て、二億の婦人に宣傳し女性の方面に於いて民國の基礎を建設するを要する。彼等をして、從來の地位は非常に低くかつたが、今日の地位は甚だ高い事を知らしめねばならない。此の婦人の地位が高められた原因は、即ち吾人が民權主義を主張したからである。民生主義は如何なる用法を有するものであらうか。之れは大富豪に對して不平等を打破するに用ゐられる。國

家が平和となれば、資源を開發し、其の得る所の利益は少數人の獨占を許さず、多數人の共同利益とし、國家の利益は一般に均沾される。少年は教育を受け、壯年の人は職を有し、老人は生活の保證が與へられ、全國の男女は、老となく幼となく、悉く安樂に日が送れる。即ち以上が三民主義の效用である。更に簡単に云へば、民族主義は、外國人に對して平等を求め、外國人が中國人を偽購する事を許さぬものであり、民權主義は、本國人に對して平等を求め、外國人が中國人の階級の存在を許さず、全國男女の政治的地位をすべて一律に平等ならしむるものであり、民生主義は貧富の平等を求め、全國の男女に大富豪と貧民との差別あるを許さず、すべて働く者にはみな食あらしむるものである。これが即ち三民主義の大意である。諸君が今詳細に此の三種の主義を研究せんとするならば、専門の書籍を編み、今後隨時讀書し得る様にしたい。諸君が此の三民主義を理解されたならば、中國とは如何なる共和國であるかが明白となる。現在の中華民國は即ち諸君の資産であり、諸君はいづれも此の資産の主人公である。若し人の師長たるべき婦人が家事の處理について昏かつたならば、此の資産の將來は何の希望もない。故に諸君の責任は誠に重大である。諸君は三民主義を理解する以外に、根本的には更に吾人の革命が常に如何なる目的に向つて居るかを理解するを要する。我が革命黨の目標は、常に國家の富強ならんことを求め



てゐる。此の目的を達成する爲めには、更に諸君の賛成によらねばならない。賛成の方法は、三民主義を理解し、民國の基礎を鞏固にするに在る。民國の基礎を鞏固ならしむるには、三民主義の理解を人心に注射し、人々を心から均しく共和に傾かしむるを要する。人々が心から共和に傾到すれば、其の時こそ中國には最早皇帝が出現することなく、富強を致し得るのである。佛國、米國の永遠に富強である所以は、即ち皇帝がないからである。露國は六年前に皇帝を倒して共和を布き、六年來、一般人民が明らかに共和の道理を理解したので、其の後露國には、當然皇帝たる者はない。よつて露國は大いに富強を期待し得るのである。中國は共和成立以來、今日十三年に過ぎないが、其の間顛覆さるる事二三回に及び、いづれも皇帝たらんとする者が現れたが、之れは國家の基礎が鞏固ならず、人心なほ共和を歓迎せざるによるものである。今日、余が本校に於いて御話して、希望することは、先づ諸君が共和を理解し、自分が理解したならば更に宣傳して、諸君の父兄家族、及び親戚朋友全部に理解させ、總ての人を共和に賛成させ、共和を歓迎させていただきたい事である。

## 同胞は皆三民主義を

——民國十三年五月三十日、上海中國晚報の請に應じて——

第一、諸君、我々は中國の人間である。我等は中國が幾千年來世界第一等の強國たりしこと、我等の文明の進歩は各國に先んじて居たことを知つてゐる。中國の強盛なりし時代には、正に所謂、千邦進貢し萬國來り朝すであつて、其の時代には中國の文明は世界第一であり、中國は世界の第一等強國であつた。現在に及んでは如何なる有様であらう。現代に在つては、我等の中國は世界最弱最貧の國家である。今日世界に於いて中國人のものとして見出し得るものは一つもない。故に現在世界の列強は、中國に對しては總て之を割取せんとする意思、或は近來各國は中國を共同管理せんとする意志を有してゐる。何の故に、我等は嘗つては最強の國家でありながら、現在はいかかると變じてしまつたのか。之れ中國人たる我々が近來數百年間、居睡りをしてゐて、世界各國の進歩しつゝあることを知らなかつたからで、而も睡り乍らもなほ我等は數百年前かくも富強であつたと考へてゐた。睡つてゐたが故に數百年來我等の文明は退歩し政治は墮落し現在の様な局面に變じたのである。我々中國人は、今やまさに我等の現在の地位を覺り、速に如